

# 久喜市の地域福祉に関する アンケート調査報告書

平成 23 年 3 月

久 喜 市・久喜市社会福祉協議会



# 目 次

1	調査概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の対象及びサンプル数	1
(3)	調査方法及び調査実施期間	1
(4)	回収結果	1
(5)	分析・表示について	1
2	調査の結果	2
(1)	地域福祉について	2
■	地域福祉という言葉の認知度	2
■	地域福祉の必要性	4
■	地域福祉に対する考え方	6
(2)	地域での助け合い、支え合いについて	8
■	近所付き合いの程度	8
■	近所付き合いについての考え	10
■	近所付き合いで大切なこと	12
■	悩みや不安	14
■	近所で困っている家庭があった場合に、手伝えること	16
■	住んでいる地域で問題と感じていること	18
■	地域の課題に対して住民が協力するために必要なこと	20
■	災害がおこった場合に住民同士が支援すべきこと	22
■	災害時の備えとして地域で行われている取組み	24
■	地域の中で支え合いを感じるか	26
■	住民同士が助け合える地域の範囲	28

(3) 地域での活動について .....	30
■ ボランティアやNPO活動への参加経験 .....	30
■ 参加したことがあるボランティアやNPO活動 .....	32
■ ボランティアやNPO活動に参加した理由 .....	34
■ ボランティアやNPO活動に参加したことがない理由 .....	36
■ ボランティアやNPO活動を活発にするために必要なこと .....	38
(4) これからの地域福祉の進め方について .....	40
■ 地域福祉を推進していくために必要なこと .....	40
■ 情報提供の方法 .....	42
■ 主な記載内容 .....	44
(ボランティア講座で、関心のあることや今後力を入れていくべきこと) .....	44
■ 主な記載内容 (お住まいの地域で、ボランティアが必要だと思われること) .....	48
■ 主な記載内容 (こんなサービスあったらいいな) .....	51
■ 主な記載内容 (こういうことなら参加ができそうだな) .....	55
■ 不都合・不満を感じた経験 .....	58
■ 不都合・不満を感じた理由 .....	60
■ 意見・要望 (地域福祉を進めていく上で) .....	62
(5) 基礎的事項 .....	85
■ 性 別 .....	85
■ 年 齢 .....	85
■ 職 業 .....	86
■ 居住地区 .....	86
■ 居住年数 .....	87
■ 家族構成 .....	87
■ 支援が必要な家族 .....	88
資料編 .....	
調査票 .....	

# 1 調査概要

## (1) 調査の目的

久喜市と久喜市社会福祉協議会では、市民がお互いに助け合い、支え合い、誰もが住みやすい地域社会をめざして、「地域福祉」を進めていくための計画策定に取り組んでいます。

その一環として、市民の皆様の地域福祉に対する考え方や、日頃の生活やボランティア、地域活動の状況などを把握し、計画づくりの基礎資料を得ることを目的にアンケート調査を実施しました。

## (2) 調査の対象及びサンプル数

調査対象者	基準日	抽出方法
20歳以上の市民 2,000人	平成23年1月15日	住民基本台帳からの無作為抽出

## (3) 調査方法及び調査実施期間

調査方法	郵送による配布・回収（※お礼状兼督促状を1回送付）
調査実施期間	平成23年2月1日～2月14日

※調査実施期間中に、回答済の方へのお礼と合わせて回答をお願いするハガキを1回送付しました。

## (4) 回収結果

調査対象者	配布数	有効回収数	有効回収率
20歳以上の市民 2,000人	2,000票	1,051票	52.6%

## (5) 分析・表示について

- ・ 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。また、合計が100.0%とならないこともあります。
- ・ 複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。このため、比率計が100%を超えることがあります。
- ・ 報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。
- ・ グラフの（n：〇〇）という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。
- ・ クロス集計（居住地区別・年齢別の集計）については、集計の都合上、無回答者を除いた集計となっている部分があり、単純集計の結果と合致するとは限りません。
- ・ 図表中の記号については以下のとおりです。

[	全体値より	☆:15%以上高い	★: -15%以上低い
		△: 5～14.9%高い	▼: 5～14.9%低い

## 2 調査の結果

### (1) 地域福祉について

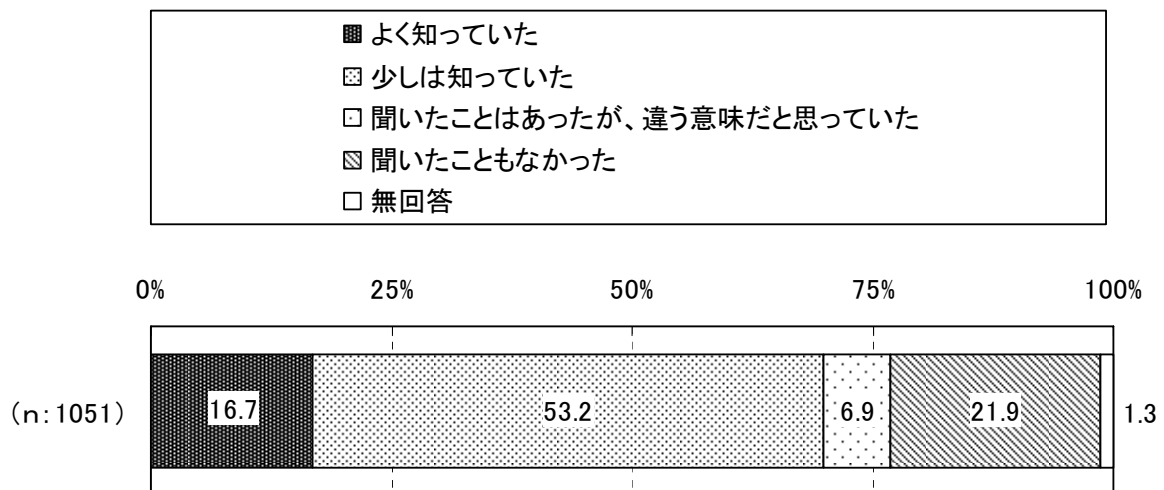
問1 あなたは、「地域福祉」という言葉を知っていましたか。(1つ)

「地域福祉」の言葉の認知度は、「よく知っていた」と「少しは知っていた」を合計すると69.9%となっています。

年齢別の回答では、「よく知っていた」は「70歳以上」の割合が高くなっています。

「20歳代」、「30歳代」など若い世代では、「聞いたこともなかった」の割合が高くなっています。

#### ■地域福祉という言葉の認知度



※グラフの(n : ○○)は、その問の有効回答者数。以降のグラフも同様。

■地域福祉という言葉の認知度（地区別・年齢別）（単位：人、％）

		n	よく知っていた	少しは知っていた	聞いたことはあったが、違う意味だと思っていた	聞いたこともなかった
全 体		1,051	16.7	53.2	6.9	21.9
居住地区	本町地区	112	17.0	51.8	8.0	21.4
	中央・南地区	49	▼ 8.2	55.1	△ 12.2	24.5
	東地区	58	17.2	55.2	▼ 1.7	24.1
	太田地区	114	15.8	51.8	7.0	24.6
	江面地区	33	21.2	54.5	6.1	18.2
	清久地区	22	▼ 9.1	△ 59.1	9.1	22.7
	菖蒲・三箇地区	88	▼ 8.0	55.7	6.8	△ 28.4
	小林・栢間地区	31	△ 29.0	48.4	3.2	19.4
	栗橋・伊坂地区	113	15.0	△ 58.4	5.3	21.2
	静・豊田地区	69	15.9	55.1	10.1	17.4
	鷺宮地区	111	17.1	▼ 45.9	6.3	△ 28.8
	桜田地区	126	19.0	50.0	6.3	22.2
年齢	20歳代	101	▼ 4.0	50.5	△ 11.9	△ 32.7
	30歳代	132	▼ 9.8	48.5	7.6	△ 32.6
	40歳代	151	▼ 9.3	55.0	7.3	△ 27.2
	50歳代	158	15.8	49.4	6.3	25.9
	60歳代	198	19.7	54.5	8.1	17.7
	70歳以上	193	△ 28.5	57.0	2.1	▼ 11.4

※居住地区別クロス集計において、「江面地区」、「清久地区」、「小林・栢間地区」の回答数が少なく1人の回答の有無により数パーセントの違いが発生するため、比較する場合には注意が必要となります。以降についても同様です。

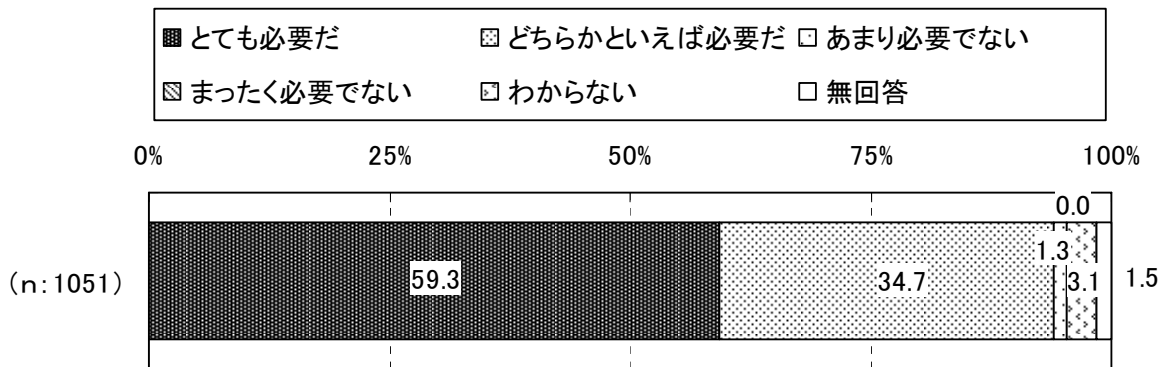
問2 あなたは、「地域福祉」を進めることが必要だと思いますか。(1つ)

「地域福祉」の推進についての考えは、「とても必要だ」が59.3%、「どちらかといえば必要だ」が34.7%で合計すると94.0%となることから、ほとんどの方が必要性を感じていると思われます。

居住地区別では「とても必要だ」と回答した割合が高い地区は、多い順に「東地区」、「栗橋・伊坂地区」、「清久地区」となっています。

また、年齢別では特に大きな差がありませんが、「20歳代」、「30歳代」より「40歳代」以上の割合が高くなっています。

■地域福祉の必要性





## ■ 地域福祉の必要性（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

		n	とても必要だ	どちらかといえ ば必要だ	あまり 必要でない	まったく 必要でない	わからない
全 体		1,051	59.3	34.7	1.3	-	3.1
居住地区	本町地区	112	57.1	36.6	1.8	-	2.7
	中央・南地区	49	61.2	30.6	2.0	-	6.1
	東地区	58	△ 70.7	▼ 27.6	-	-	-
	太田地区	114	▼ 48.2	△ 46.5	1.8	-	2.6
	江面地区	33	▼ 51.5	△ 42.4	-	-	6.1
	清久地区	22	△ 68.2	31.8	-	-	-
	菖蒲・三箇地区	88	▼ 53.4	△ 39.8	1.1	-	4.5
	小林・栢間地区	31	61.3	38.7	-	-	-
	栗橋・伊坂地区	113	△ 69.0	30.1	-	-	0.9
	静・豊田地区	69	63.8	▼ 24.6	5.8	-	4.3
	鷺宮地区	111	56.8	37.8	0.9	-	3.6
桜田地区	126	△ 64.3	▼ 28.6	1.6	-	2.4	
年齢	20歳代	101	57.4	36.6	1.0	-	4.0
	30歳代	132	56.8	37.9	0.8	-	2.3
	40歳代	151	61.6	35.8	0.7	-	1.3
	50歳代	158	61.4	32.3	1.3	-	2.5
	60歳代	198	60.1	36.4	1.5	-	2.0
	70歳以上	193	60.6	31.1	2.1	-	4.7

問3 地域における福祉に対して、あなたの考え方は次のどれに近いですか。(1つ)

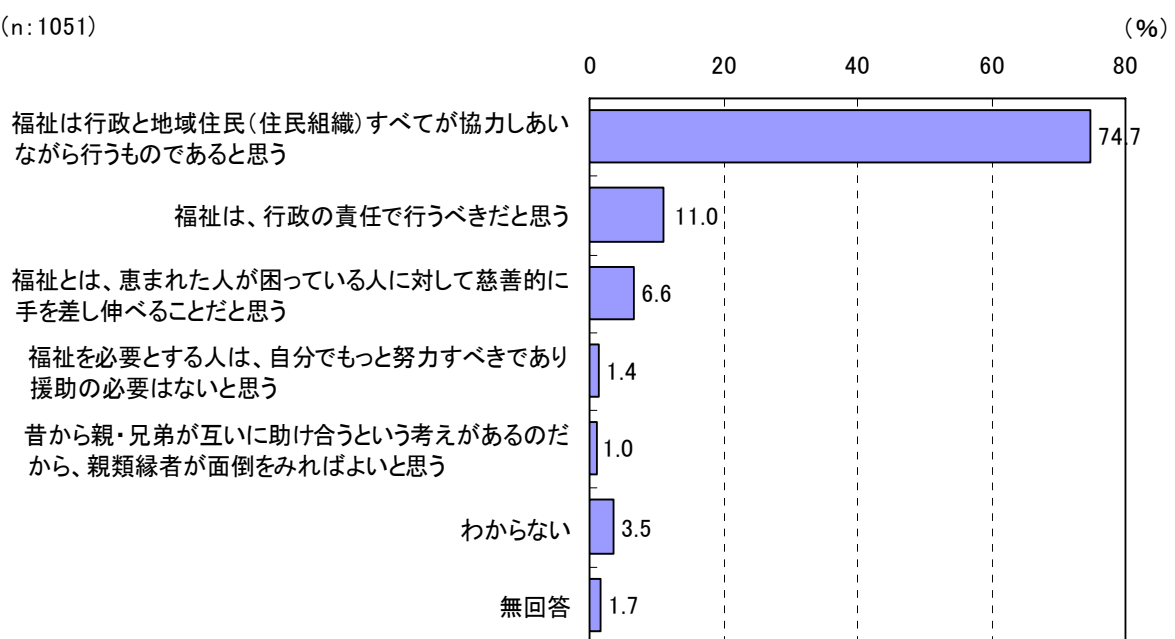
「地域における福祉」の考え方は、「福祉は行政と地域住民(住民組織)すべてが協力しあいながら行うものである」が74.7%で圧倒的に多い回答となっています。

「福祉は行政と地域住民すべてが協力しあいながら行うものである」を居住地区別にみると、全ての地区で高い割合となっていますが、「江面地区」は他の地区と比較してやや低くなっています。

年齢別では「50歳代」の割合が高く、「70歳以上」がやや低くなっています。

■地域福祉に対する考え方

(n:1051)



## ■地域福祉に対する考え方（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

	n	福祉とは、恵まれた人が困っている人に対して慈善的に手を差し伸べることだと思う	福祉を必要とする人は、自分でもっと努力すべきであり、援助の必要はないと思う	福祉は、行政の責任で行うべきだと思う	昔から、親・兄弟が互いに助け合うという考えがあるのだから、親類縁者が面倒をみればよいと思う	福祉は、行政と地域住民(住民組織)すべてが協力しあいながら行うものだと思う	わからない	
全体	1,051	6.6	1.4	11.0	1.0	74.7	3.5	
居住地区	本町地区	112	7.1	1.8	9.8	0.9	75.9	1.8
	中央・南地区	49	4.1	2.0	12.2	4.1	75.5	2.0
	東地区	58	8.6	-	▼ 5.2	-	79.3	3.4
	太田地区	114	7.9	2.6	14.0	0.9	71.1	1.8
	江面地区	33	6.1	-	△ 21.2	-	▼ 69.7	3.0
	清久地区	22	△ 18.2	-	▼ 4.5	-	72.7	4.5
	菖蒲・三箇地区	88	5.7	1.1	9.1	2.3	76.1	4.5
	小林・栢間地区	31	△ 12.9	-	▼ 3.2	-	77.4	6.5
	栗橋・伊坂地区	113	7.1	0.9	15.0	0.9	74.3	1.8
	静・豊田地区	69	4.3	2.9	▼ 5.8	1.4	76.8	7.2
	鷲宮地区	111	4.5	0.9	13.5	0.9	73.9	4.5
	桜田地区	126	3.2	0.8	12.7	-	77.8	2.4
	年齢	20歳代	101	4.0	-	△ 16.8	-	75.2
30歳代		132	5.3	1.5	11.4	0.8	75.0	2.3
40歳代		151	6.6	0.7	9.9	0.7	78.8	1.3
50歳代		158	2.5	0.6	7.6	-	△ 82.9	3.2
60歳代		198	6.6	1.0	13.6	2.5	73.2	-
70歳以上		193	△ 12.4	3.1	10.4	1.0	▼ 67.9	2.1

(2) 地域での助け合い、支え合いについて

問4 あなたは日頃、ご近所とどの程度のお付き合いがありますか。(1つ)

「日頃の近所との付き合い」の状況は、「顔を会わせればあいさつする程度」が33.6%で最も多い回答となっています。

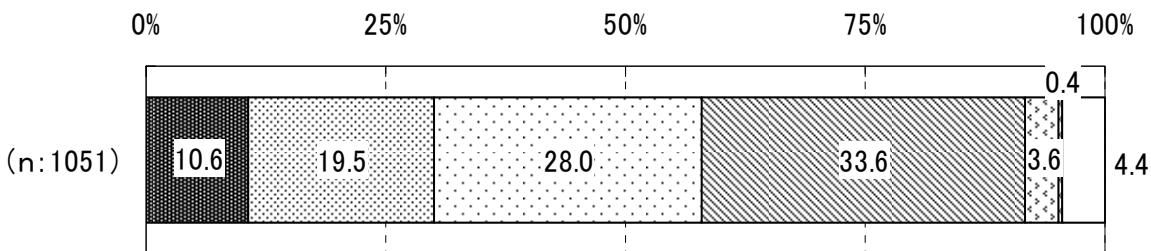
居住地区別でみると、「困っているとき、相談や助け合いができるような付き合い」は「小林・栢山地区」が、「簡単な頼みごと程度ならできる」は「江面地区」が、「たまに世間話や立ち話はしている」は「清久地区」が、「顔を会わせればあいさつする程度」は「東地区」が最も高い割合となっています。

年齢別にみると「困っているとき、相談や助け合いができるような付き合い」は、「20歳代」の割合が低い一方、「70歳以上」の割合が高くなっています。

また、「簡単な頼みごと程度ならできる」は「20歳代」、「30歳代」が低く、「60歳代」、「70歳以上」が高い割合となっていて、世代間での違いがみられます。

■近所付き合いの程度

- 困っているとき、相談や助け合いができるような付き合い
- ▨ 簡単な頼みごと程度ならできる
- ▩ たまに世間話や立ち話はしている
- ▧ 顔を会わせればあいさつする程度
- ▦ ほとんど付き合いがない
- ▤ その他
- 無回答



## ■近所付き合いの程度（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

	n	困っているとき、 相談や助け合 いができるよう な付き合い	簡単な頼みごと 程度ならできる	たまに世間話や 立ち話は している	顔を会わせれば あいさつする 程度	ほとんど 付き合いがない	その他	
全 体	1,051	10.6	19.5	28.0	33.6	3.6	0.4	
居住地区	本町地区	112	9.8	18.8	▼ 22.3	△ 40.2	8.0	-
	中央・南地区	49	6.1	△ 24.5	▼ 22.4	△ 38.8	6.1	-
	東地区	58	8.6	▼ 13.8	▼ 20.7	☆ 51.7	3.4	1.7
	太田地区	114	7.0	16.7	△ 36.0	32.5	3.5	-
	江面地区	33	9.1	☆ 39.4	27.3	★ 15.2	3.0	-
	清久地区	22	▼ 4.5	18.2	☆ 45.5	▼ 27.3	4.5	-
	菖蒲・三箇地区	88	10.2	▼ 13.6	△ 36.4	31.8	1.1	1.1
	小林・栢間地区	31	△ 22.6	16.1	△ 35.5	▼ 22.6	-	-
	栗橋・伊坂地区	113	8.8	△ 28.3	27.4	29.2	2.7	-
	静・豊田地区	69	13.0	△ 31.9	▼ 17.4	▼ 27.5	4.3	-
	鷺宮地区	111	8.1	16.2	30.6	34.2	5.4	-
	桜田地区	126	13.5	16.7	▼ 22.2	△ 38.9	2.4	1.6
年齢	20歳代	101	▼ 1.0	▼ 8.9	▼ 14.9	☆ 55.4	△ 17.8	2.0
	30歳代	132	8.3	▼ 6.1	25.0	☆ 49.2	5.3	5.3
	40歳代	151	6.0	19.2	29.1	38.4	4.0	3.3
	50歳代	158	9.5	20.3	30.4	36.1	-	2.5
	60歳代	198	9.6	△ 27.8	△ 35.4	▼ 21.7	1.5	4.0
	70歳以上	193	△ 20.2	△ 29.0	25.4	▼ 19.2	1.0	4.7

問5 あなたは、ご近所付き合いについてどのようにお考えですか。(1つ)

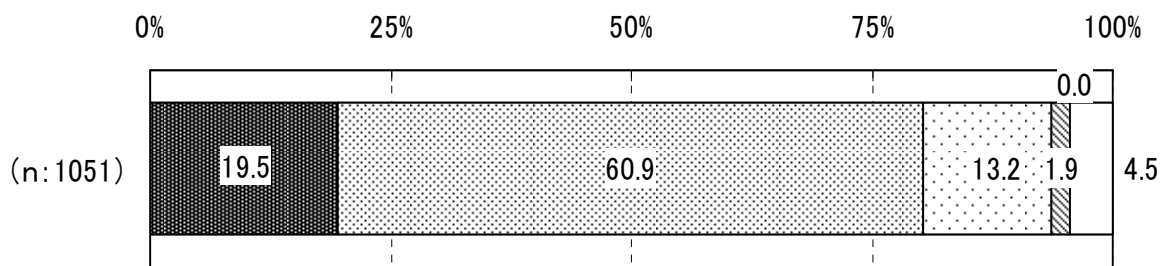
「日頃の近所との付き合い」についての考え方をみると、「近所であいさつをしたり、協力したりすることは必要だと思う」が60.9%で最も多い回答となっていて、居住地区別及び年齢別でも半数以上となっています。

また、居住地区別にみると、「近所で助け合って暮らしていくことは大切だと思う」は「清久地区」での割合が高く、年齢別では「70歳以上」の割合が高くなっています。

なお、「あいさつ程度はするが、あまり深くかかわりたくない」では、「30歳代」が最も高い割合となっています。

■近所付き合いについての考え

- 近所で助け合って暮らしていくことが大切だと思う
- ▨ 近所であいさつをしたり、協力したりすることは必要だと思う
- あいさつ程度はするが、あまり深くかかわりたくない
- ▨ 近所付き合いはわずらわしいのであまりしたくない
- ▨ まったく必要と思わない
- 無回答



## ■近所付き合いについての考え（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

		n	近所で助け合っ て暮らしていくこ とが大切だと思 う	近所であいさつ をしたり、協力し たりすることは 必要だと思 う	あいさつ程度は するが、あまり 深くかわりたく ない	近所付き合いは わずらわしいの であまりしたくな い	まったく必要と 思わない
全 体		1,051	19.5	60.9	13.2	1.9	—
居住地区	本町地区	112	18.8	63.4	10.7	6.3	—
	中央・南地区	49	16.3	61.2	△ 20.4	—	—
	東地区	58	24.1	62.1	8.6	1.7	—
	太田地区	114	19.3	59.6	14.0	2.6	—
	江面地区	33	21.2	▼ 54.5	△ 21.2	—	—
	清久地区	22	△ 31.8	▼ 54.5	9.1	—	—
	菖蒲・三箇地区	88	19.3	64.8	10.2	—	—
	小林・栢間地区	31	22.6	64.5	▼ 6.5	3.2	—
	栗橋・伊坂地区	113	16.8	63.7	16.8	—	—
	静・豊田地区	69	21.7	56.5	10.1	5.8	—
	鷺宮地区	111	16.2	60.4	16.2	1.8	—
	桜田地区	126	20.6	61.1	11.9	1.6	—
年齢	20歳代	101	▼ 10.9	63.4	14.9	△ 7.9	—
	30歳代	132	▼ 12.1	59.1	△ 21.2	2.3	—
	40歳代	151	14.6	△ 68.9	11.3	2.0	—
	50歳代	158	△ 26.6	57.0	13.3	1.3	—
	60歳代	198	17.7	64.1	13.1	0.5	—
	70歳以上	193	△ 30.6	▼ 55.4	8.3	1.0	—

問6 あなたは、ご近所との付き合いや関わりで、どんなことがこれから大切になると  
 思いますか。あなたの気持ちに最も近いものは次のどれですか。(3つまで)

「これから近所付き合いで大切なこと」では、「日常のあいさつ等による、人と人とのふれあい」が62.4%となっています。

次いで、「防災活動や災害のときの助け合い」、「日常生活で困ったときの助け合い」、「高齢者の見守りや生きがいがづくり」と続いています。

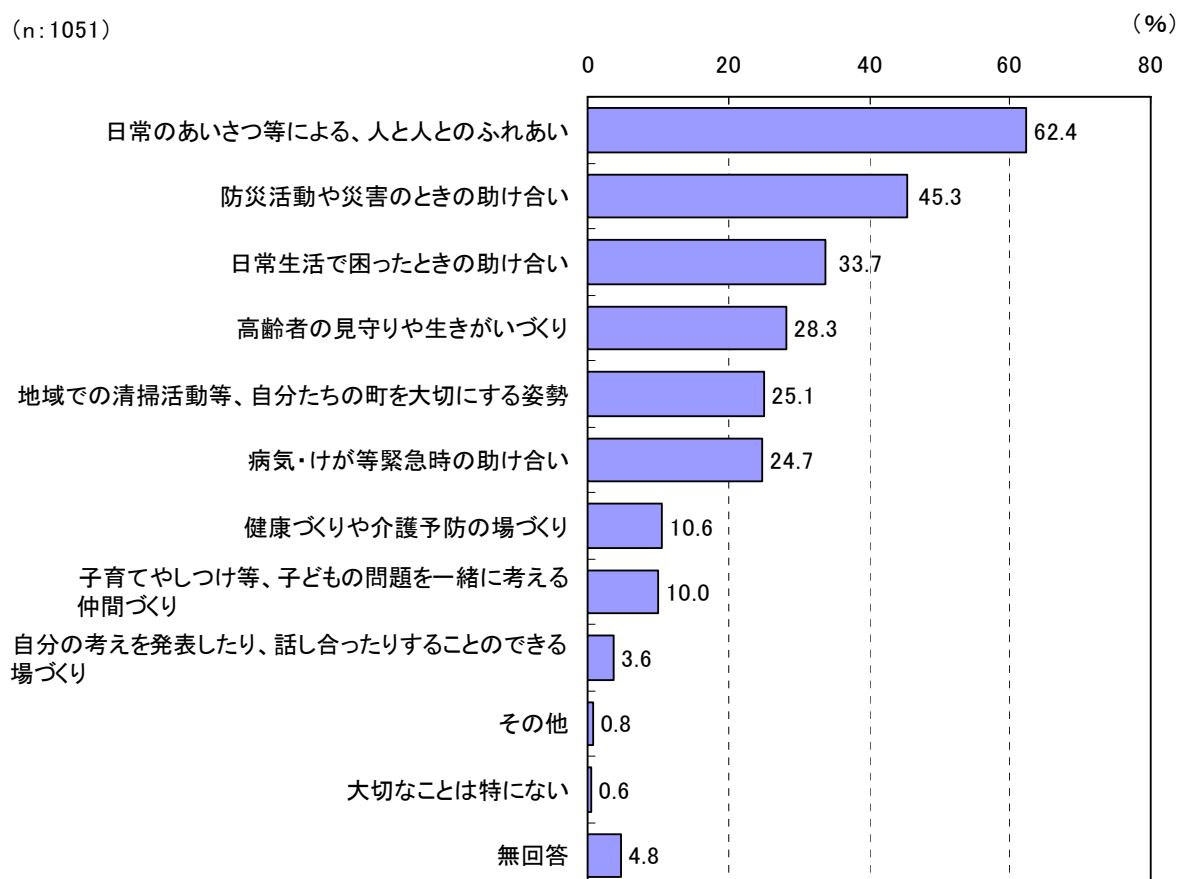
「日常のあいさつ等による、人と人とのふれあい」を居住地区別にみると、「清久地区」、「小林・栢間地区」、「中央・南地区」での割合が高くなっています。

また、「防災活動や災害のときの助け合い」は、「東地区」、「桜田地区」、「鷲宮地区」での割合が高く、「高齢者の見守りや生きがいがづくり」は、「東地区」での割合が高くなっています。

年齢別でみると、「20歳代」から「50歳代」までが「防災活動や災害のときの助け合い」の回答も多くなっています。

#### ■これから近所付き合いで大切なこと

(n:1051)



※複数回答



## ■近所付き合いで大切なこと（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

	n	日常のあいさつ等による、人と人のふれあい	自分の考えを发表或し合ったり、話し合ったりすることのできる場づくり	子育てやしつけ等、子どもの問題を一緒に考える仲間づくり	高齢者の見守りや生きがいづくり	健康づくりや介護予防の場づくり	日常生活で困ったときの助け合い	地域での清掃活動等、自分たちの町を大切にしている姿勢	防災活動や災害のときの助け合い	病気・けが等緊急時の助け合い	その他	大切なことは特にな	
全 体	1,051	62.4	3.6	10.0	28.3	10.6	33.7	25.1	45.3	24.7	0.8	0.6	
居住地区	本町地区	112	64.3	2.7	11.6	25.0	10.7	34.8	21.4	50.0	27.7	0.9	-
	中央・南地区	49	△ 69.4	4.1	8.2	△ 34.7	6.1	▼ 26.5	26.5	▼ 38.8	△ 30.6	-	2.0
	東地区	58	▼ 55.2	3.4	5.2	☆ 46.6	10.3	37.9	20.7	△ 56.9	△ 31.0	-	-
	太田地区	114	64.0	2.6	9.6	27.2	△ 16.7	30.7	27.2	44.7	27.2	-	-
	江面地区	33	57.6	-	6.1	△ 36.4	9.1	△ 42.4	△ 39.4	42.4	▼ 15.2	-	-
	清久地区	22	△ 77.3	4.5	▼ 4.5	△ 36.4	13.6	31.8	△ 31.8	★ 18.2	27.3	-	-
	菖蒲・三箇地区	88	62.5	8.0	11.4	23.9	11.4	36.4	23.9	▼ 34.1	23.9	-	-
	小林・栢間地区	31	△ 71.0	3.2	9.7	32.3	12.9	35.5	▼ 19.4	▼ 38.7	29.0	-	-
	栗橋・伊坂地区	113	63.7	4.4	11.5	31.0	8.8	36.3	22.1	41.6	24.8	0.9	0.9
	静・豊田地区	69	65.2	1.4	5.8	▼ 17.4	11.6	36.2	20.3	43.5	27.5	-	1.4
	鷺宮地区	111	61.3	1.8	11.7	26.1	8.1	▼ 26.1	29.7	△ 51.4	23.4	1.8	0.9
	桜田地区	126	61.9	3.2	13.5	25.4	8.7	38.1	25.4	△ 52.4	▼ 16.7	1.6	0.8
	年齢	20歳代	101	62.4	5.0	△ 21.8	32.7	5.9	31.7	21.8	△ 51.5	22.8	-
30歳代		132	66.7	2.3	△ 22.7	▼ 20.5	6.1	29.5	21.2	△ 51.5	25.0	0.8	0.8
40歳代		151	△ 69.5	2.6	10.6	▼ 23.2	8.6	32.5	▼ 19.9	△ 51.0	△ 31.1	1.3	0.7
50歳代		158	61.4	1.9	7.6	△ 37.3	12.7	36.1	△ 30.4	△ 54.4	22.8	0.6	0.6
60歳代		198	60.6	3.0	▼ 3.5	27.3	△ 17.2	32.8	△ 31.8	41.4	21.2	1.0	-
70歳以上		193	63.2	7.8	▼ 3.6	29.0	9.8	38.3	21.2	★ 28.5	26.4	-	1.0

※複数回答

問7 あなたは、毎日の暮らしの中で、どのような悩みや不安を感じていますか。  
(あてはまるものすべて)

「毎日の暮らしでの悩みや不安」では、上位に「家族の健康」、「自分の健康」が多くあげられ、健康についての悩みや不安が大きいことがわかります。

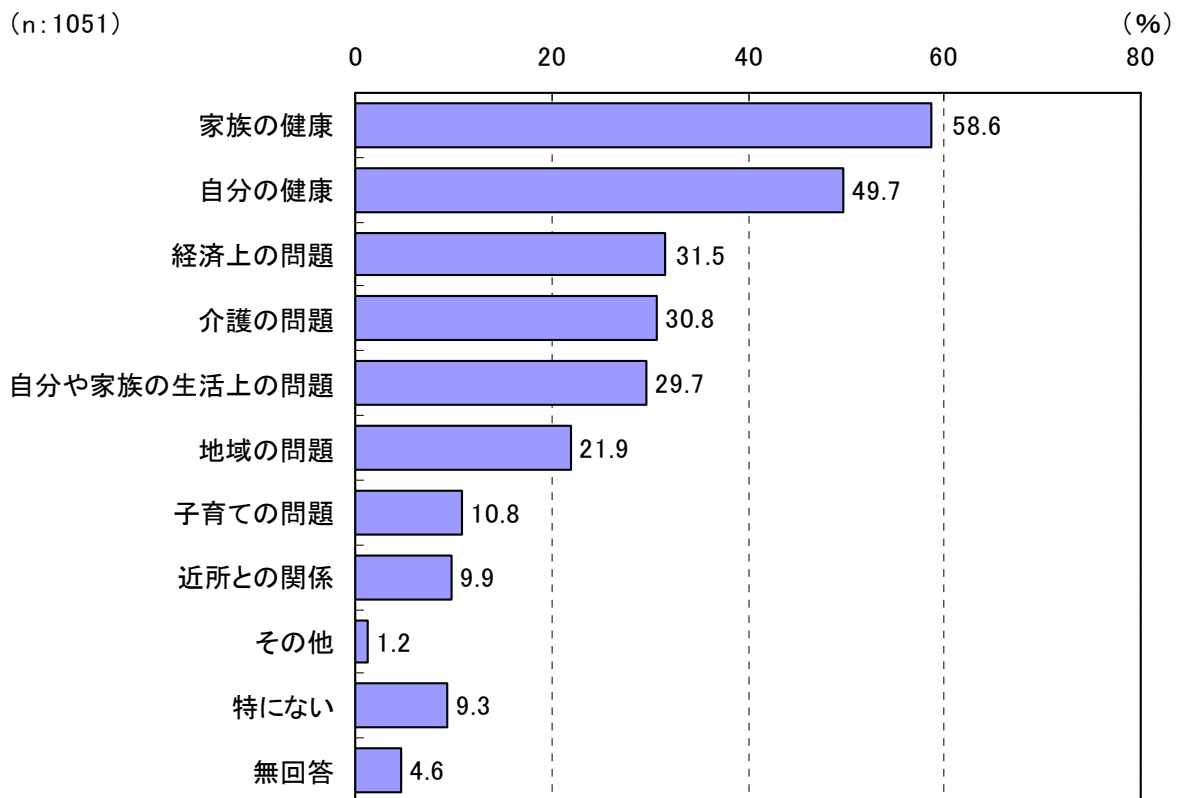
「家族の健康」、「自分の健康」のいずれも割合の高い地区は「東地区」、「清久地区」となっています。

年齢別にみると、「20 歳代」は「自分の家族の生活上の問題」や「経済上の問題」の回答も多く、「30 歳代」は、「自分の家族の生活上の問題」や「経済上の問題」に加え、特に「子育ての問題」の回答も多くなっています。

また、「50 歳代」は「介護の問題」の回答も多くなっています。

### ■悩みや不安

(n:1051)



※複数回答

## ■悩みや不安（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

	n	自分の健康	家族の健康	自分や家族の生活上の問題	子育ての問題	介護の問題	経済上の問題	地域の問題	近所との関係	その他	特になし	
全体	1,051	49.7	58.6	29.7	10.8	30.8	31.5	21.9	9.9	1.2	9.3	
居住地区	本町地区	112	47.3 ▼	53.6	25.0	12.5	30.4	31.3	△ 27.7	8.9	1.8	9.8
	中央・南地区	49	53.1 ▼	53.1	△ 40.8	△ 16.3	△ 40.8	30.6	22.4	6.1	-	▼ 4.1
	東地区	58	△ 55.2	△ 72.4	31.0	▼ 5.2	△ 36.2	29.3	22.4	△ 15.5	-	△ 15.5
	太田地区	114	50.0	62.3	31.6	10.5	34.2	△ 36.8	19.3	9.6	-	11.4
	江面地区	33	54.5	△ 63.6	27.3	-	▼ 18.2	30.3	21.2	6.1	6.1	▼ 3.0
	清久地区	22	△ 59.1	△ 68.2	▼ 18.2	▼ 4.5	△ 40.9	▼ 18.2	▼ 9.1	13.6	-	4.5
	菖蒲・三箇地区	88	▼ 39.8	▼ 53.4	28.4	13.6	34.1	33.0	▼ 15.9	11.4	1.1	▼ 2.3
	小林・栢間地区	31	▼ 41.9	△ 64.5	△ 35.5	6.5	35.5	▼ 19.4	△ 29.0	12.9	3.2	9.7
	栗橋・伊坂地区	113	53.1	62.8	30.1	12.4	▼ 25.7	35.4	17.7	7.1	2.7	9.7
	静・豊田地区	69	47.8	△ 66.7	33.3	8.7	30.4	33.3	20.3	7.2	-	11.6
	鷺宮地区	111	△ 55.0	55.0	28.8	13.5	29.7	△ 36.9	24.3	14.4	1.8	7.2
	桜田地区	126	▼ 44.4	▼ 50.0	33.3	11.1	▼ 23.8	▼ 24.6	26.2	9.5	1.6	11.1
年齢	20歳代	101	▼ 44.6	58.4	☆ 53.5	△ 19.8	▼ 20.8	△ 42.6	△ 28.7	8.9	1.0	▼ 2.0
	30歳代	132	★ 32.6	▼ 47.7	△ 38.6	☆ 32.6	▼ 21.2	△ 37.9	17.4	8.3	0.8	11.4
	40歳代	151	▼ 42.4	59.6	△ 41.1	△ 19.2	▼ 25.8	34.4	22.5	10.6	2.0	9.3
	50歳代	158	46.2	58.9	△ 38.6	▼ 3.2	△ 40.5	34.8	18.4	8.9	1.3	11.4
	60歳代	198	△ 55.6	61.1	▼ 16.7	▼ 1.5	34.8	▼ 25.3	24.2	11.6	2.0	9.6
	70歳以上	193	☆ 67.9	63.2	★ 12.4	▼ 1.0	32.6	▼ 22.8	20.7	10.9	1.0	7.8

※複数回答

問8 あなたがお住まいの地域で、日常生活を送る上で心配な方や、高齢、障がい、子育てなどで困っているご家庭があった場合、あなたにできることはありますか。  
(あてはまるものすべて)

「地域で、日常生活を送る上で心配な方や、高齢、障がい、子育てなどで困っているご家庭があった場合、あなたにできること」では、「見守りや声かけ」が63.3%で最も多く、次いで「災害など緊急時の手助け」、「話し相手」、「ちょっとした手伝い」の順となっています。

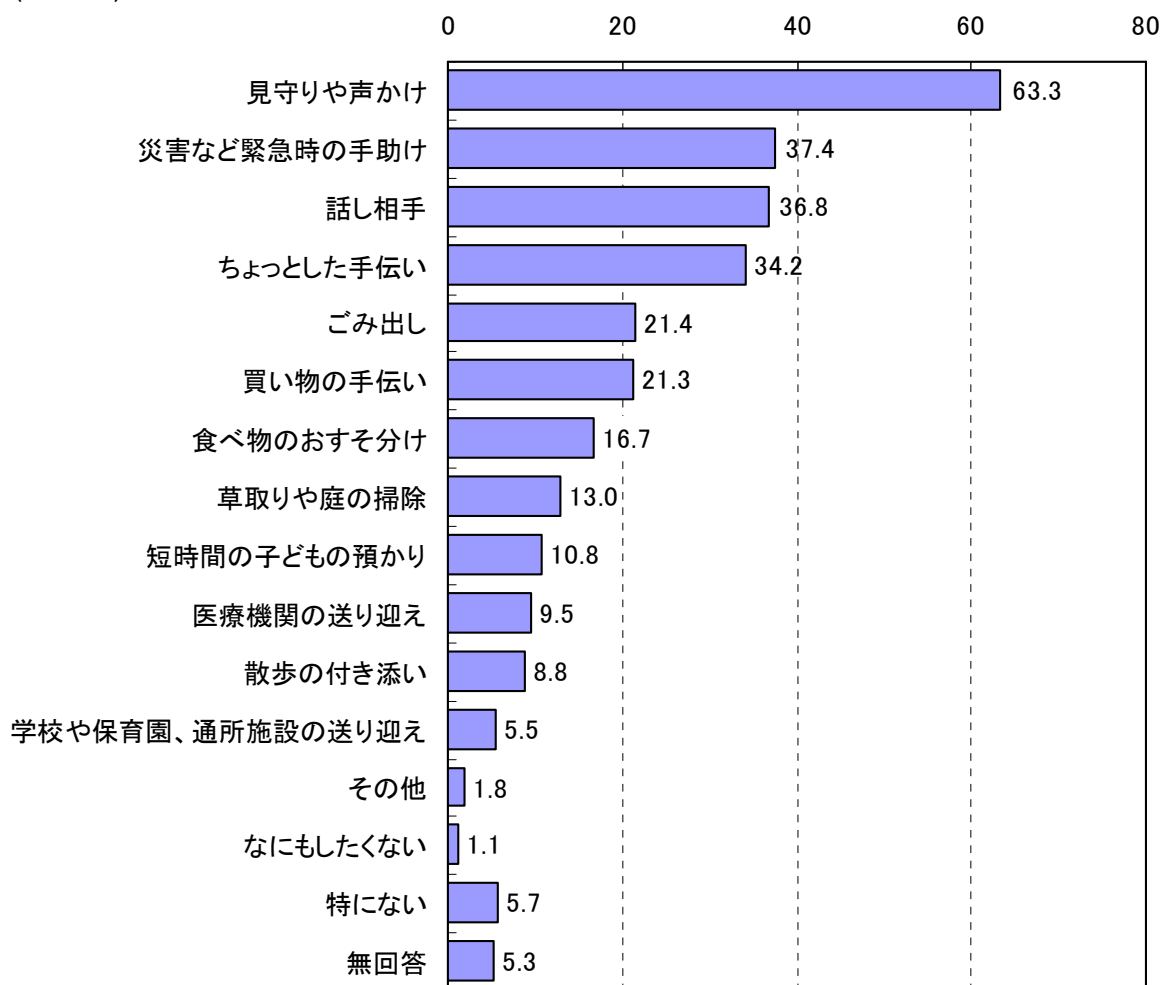
「見守りや声かけ」については、全ての居住地区及び年代で半数以上となっています。年齢別では「50歳代」での割合が高くなっています。

また、男女別にみると、男性では「見守りや声かけ」の次に「ちょっとした手伝い」の回答が多く、女性では「見守りや声かけ」の次に「話し相手」の回答が多くなっています。

#### ■近所で困っている家庭があった場合に、手伝えること

(n:1051)

(%)



※複数回答

■近所で困っている家庭があった場合に、手伝えること（地区別・年齢別）（単位：人、％）

	n	見守りや 声かけ	話し相手	買い物 の手伝い	ごみ出し	ちょっとした 手伝い	草取りや 庭の掃除	食べ物 のおすそ 分け	散歩の付 き添い	医療機関 の送り迎 え	学校や保 育園、通 所施設の 送り迎え	短時間の 子どもの 預かり	災害など 緊急時の 手助け	その他	なにもし たくない	特にな い	
全 体	1,051	63.3	36.8	21.3	21.4	34.2	13.0	16.7	8.8	9.5	5.5	10.8	37.4	1.8	1.1	5.7	
居住地区	本町地区	112	△ 68.8	38.4	19.6	24.1	△ 39.3	12.5	16.1	9.8	7.1	5.4	9.8	△ 43.8	0.9	1.8	3.6
	中央・南地区	49	△ 69.4	▼ 26.5	18.4	22.4	38.8	10.2	12.2	4.1	12.2	4.1	12.2	32.7	4.1	-	6.1
	東地区	58	△ 72.4	△ 50.0	▼ 13.8	▼ 13.8	37.9	△ 22.4	12.1	12.1	10.3	5.2	▼ 5.2	△ 50.0	-	-	6.9
	太田地区	114	65.8	▼ 31.6	19.3	16.7	29.8	14.0	15.8	8.8	▼ 4.4	2.6	11.4	35.1	1.8	0.9	4.4
	江面地区	33	△ 72.7	△ 42.4	▼ 15.2	18.2	▼ 27.3	12.1	▼ 9.1	9.1	6.1	3.0	▼ 3.0	▼ 27.3	-	-	6.1
	清久地区	22	△ 77.3	☆ 59.1	22.7	22.7	▼ 22.7	△ 18.2	△ 27.3	4.5	9.1	4.5	△ 18.2	▼ 27.3	-	-	-
	菖蒲・三箇地区	88	▼ 52.3	36.4	25.0	21.6	34.1	11.4	12.5	10.2	13.6	5.7	8.0	34.1	1.1	3.4	8.0
	小林・栢間地区	31	△ 71.0	△ 45.2	19.4	▼ 16.1	△ 41.9	▼ 6.5	△ 25.8	-	12.9	-	12.9	38.7	-	-	-
	栗橋・伊坂地区	113	65.5	39.8	25.7	21.2	30.1	8.8	20.4	8.8	8.8	6.2	8.8	34.5	1.8	-	5.3
	静・豊田地区	69	▼ 58.0	36.2	26.1	△ 30.4	☆ 50.7	△ 18.8	18.8	11.6	△ 14.5	7.2	△ 15.9	39.1	1.4	1.4	5.8
	鷺宮地区	111	60.4	35.1	19.8	20.7	29.7	12.6	20.7	6.3	9.0	6.3	△ 16.2	41.4	0.9	1.8	8.1
	桜田地区	126	60.3	33.3	26.2	26.2	38.9	12.7	17.5	7.9	9.5	8.7	12.7	33.3	1.6	1.6	6.3
	年齢	20歳代	101	▼ 55.4	35.6	▼ 14.9	▼ 9.9	△ 42.6	▼ 6.9	11.9	5.0	5.0	5.9	9.9	△ 43.6	-	1.0
30歳代		132	59.1	37.1	17.4	▼ 15.2	△ 40.2	▼ 6.8	16.7	9.1	9.8	8.3	△ 19.7	41.7	0.8	2.3	7.6
40歳代		151	67.5	33.1	23.2	23.8	△ 45.7	11.9	17.2	6.0	10.6	9.3	9.9	△ 45.7	0.7	0.7	5.3
50歳代		158	△ 74.7	35.4	△ 28.5	△ 27.2	38.6	15.2	20.9	10.1	12.0	5.7	10.8	41.1	0.6	0.6	5.1
60歳代		198	66.2	36.4	△ 27.8	△ 27.8	30.8	△ 18.2	18.7	10.6	9.1	3.0	13.6	34.8	1.0	1.5	4.0
70歳以上		193	59.1	△ 44.6	▼ 15.0	19.2	▼ 20.7	14.0	15.5	8.3	8.8	2.6	▼ 4.7	▼ 23.3	4.1	1.0	5.2

※複数回答

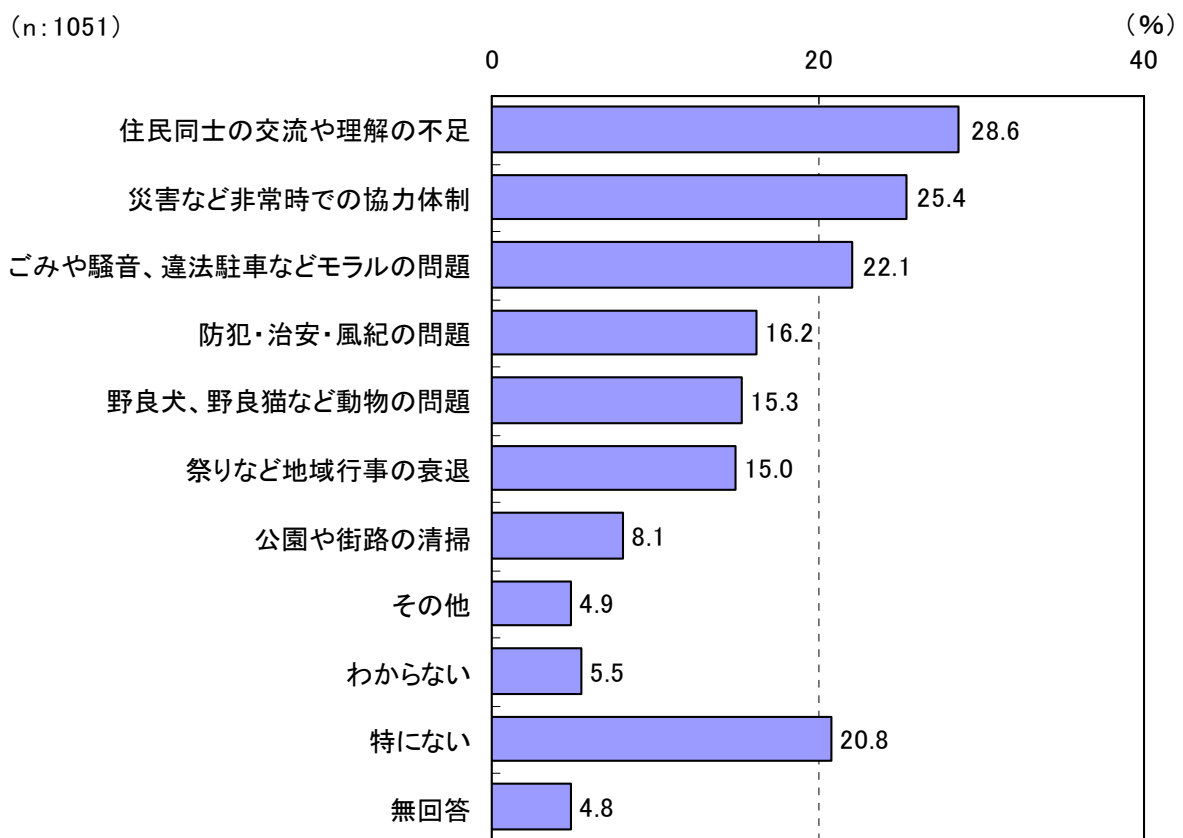
問9 あなたがお住まいの地域で、問題と感じていることはありますか。  
(あてはまるものすべて)

「地域で、問題と感じていること」では、「住民同士の交流や理解の不足」、「災害など非常時での協力体制」、「ごみや騒音、違法駐車などモラルの問題」などが上位にあげられています。

居住地区別にみると「住民同士の交流や理解の不足」では「清久地区」、「災害など非常時での協力体制」では「鷺宮地区」での割合が高く、年齢別では「60歳代」、「70歳以上」で「住民同士の交流や理解の不足」、「災害など非常時での協力体制」の回答が多くなっています。

### ■住んでいる地域で問題と感じていること

(n:1051)



※複数回答

■住んでいる地域で問題と感じていること（地区別・年齢別）（単位：人、％）

	n	祭りなど 地域行事 の衰退	住民同士 の交流や 理解の不足	野良犬、 野良猫な ど動物の 問題	防犯・治 安・風紀 の問題	災害など 非常時で の協力体 制	公園や街 路の清掃	ごみや騒 音、違法 駐車など モラルの 問題	その他	わから ない	特にな い	
全 体	1,051	15.0	28.6	15.3	16.2	25.4	8.1	22.1	4.9	5.5	20.8	
居住地区	本町地区	112	▼ 8.9	29.5	13.4	16.1	27.7	7.1	△ 28.6	5.4	2.7	22.3
	中央・南地区	49	▼ 4.1	△ 36.7	▼ 8.2	14.3	▼ 16.3	▼ 2.0	△ 34.7	6.1	8.2	16.3
	東地区	58	10.3	▼ 17.2	19.0	12.1	25.9	6.9	★ 6.9	6.9	3.4	△ 29.3
	太田地区	114	14.9	33.3	16.7	14.9	28.1	10.5	21.9	3.5	2.6	20.2
	江面地区	33	▼ 6.1	24.2	▼ 6.1	18.2	▼ 18.2	6.1	24.2	6.1	9.1	21.2
	清久地区	22	△ 27.3	☆ 45.5	▼ 4.5	▼ 9.1	▼ 13.6	△ 13.6	▼ 13.6	-	9.1	▼ 9.1
	菖蒲・三箇地区	88	15.9	28.4	△ 20.5	13.6	20.5	9.1	18.2	5.7	8.0	15.9
	小林・栢間地区	31	△ 29.0	★ 12.9	12.9	▼ 3.2	▼ 16.1	3.2	19.4	9.7	9.7	22.6
	栗橋・伊坂地区	113	△ 22.1	29.2	16.8	17.7	30.1	6.2	19.5	6.2	2.7	23.0
	静・豊田地区	69	18.8	29.0	▼ 10.1	18.8	26.1	△ 15.9	▼ 15.9	2.9	4.3	23.2
	鷺宮地区	111	18.0	28.8	△ 25.2	△ 21.6	△ 31.5	9.9	25.2	4.5	5.4	22.5
	桜田地区	126	12.7	28.6	11.9	16.7	22.2	6.3	26.2	5.6	9.5	20.6
年齢	20歳代	101	△ 20.8	▼ 20.8	▼ 7.9	14.9	▼ 16.8	9.9	△ 29.7	5.9	9.9	△ 26.7
	30歳代	132	15.2	▼ 19.7	▼ 8.3	20.5	▼ 15.9	7.6	24.2	0.8	△ 10.6	△ 32.6
	40歳代	151	▼ 9.9	26.5	10.6	20.5	21.9	6.0	21.9	9.3	5.3	19.2
	50歳代	158	16.5	27.2	13.3	15.8	24.7	3.8	25.3	5.7	3.8	20.9
	60歳代	198	14.6	△ 34.3	△ 21.7	14.6	△ 32.8	11.6	18.7	6.6	3.5	16.2
	70歳以上	193	15.5	△ 36.8	△ 23.3	12.4	△ 31.1	8.8	▼ 16.6	2.6	3.1	17.1

※複数回答

問10 あなたは、地域で起こるさまざまな生活課題に対し、住民が相互に協力するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(2つ)

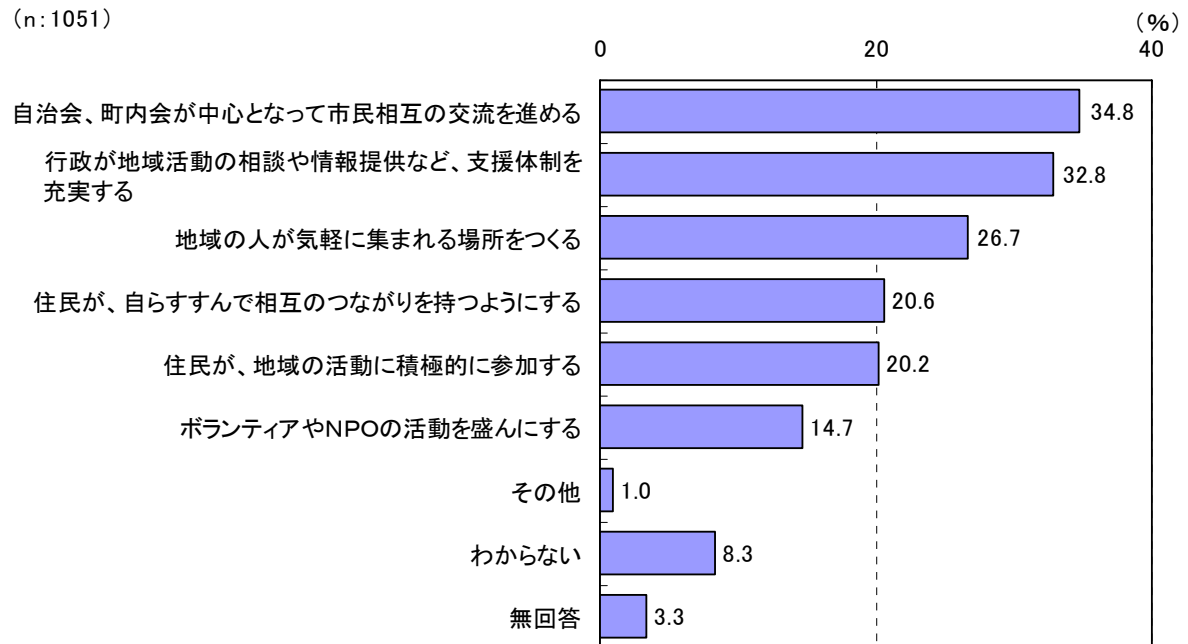
「住民が相互に協力するためには、必要こと」では、「自治会、町内会が中心となって市民相互の交流を進める」、「行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する」、「地域の人気が気軽に集まれる場所をつくる」などが上位にあげられています。

居住地区別にみると、「自治会、町内会が中心となって市民相互の交流を進める」では「栗橋・伊坂地区」での割合が高く、「行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する」では「小林・栢山地区」での割合が高くなっています。

また、男女別にみると、男性では「自治会、町内会が中心となって市民相互の交流を進める」が最も多い回答となっていますが、女性では「行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する」が最も多い回答となっています。

### ■地域の課題に対して住民が協力するために必要なこと

(n:1051)



※複数回答



■地域の課題に対して住民が協力するために必要なこと（地区別・年齢別）（単位：人、％）

		n	自治会、町内会が中心となって、市民相互の交流を進める	住民が、自らすすんで相互のつながりを持つようにする	住民が、地域の活動に積極的に参加する	ボランティアやNPOの活動を盛んにする	地域の人々が気軽に集まれる場所をつくる	行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する	その他	わからない
全 体		1,051	34.8	20.6	20.2	14.7	26.7	32.8	1.0	8.3
居住地区	本町地区	112	34.8	25.0	16.1	14.3	27.7	33.0	1.8	9.8
	中央・南地区	49	38.8	24.5	20.4	18.4	26.5	▼ 24.5	-	△ 14.3
	東地区	58	▼ 29.3	20.7	20.7	10.3	△ 39.7	36.2	1.7	3.4
	太田地区	114	39.5	▼ 14.0	24.6	15.8	28.1	29.8	-	7.0
	江面地区	33	33.3	18.2	△ 33.3	12.1	▼ 15.2	▼ 27.3	-	9.1
	清久地区	22	▼ 22.7	18.2	△ 31.8	13.6	△ 40.9	▼ 27.3	-	9.1
	菖蒲・三箇地区	88	▼ 29.5	19.3	▼ 12.5	12.5	△ 37.5	35.2	1.1	10.2
	小林・栢間地区	31	▼ 29.0	△ 32.3	22.6	12.9	25.8	△ 38.7	-	6.5
	栗橋・伊坂地区	113	△ 44.2	23.9	▼ 15.0	18.6	25.7	31.0	0.9	▼ 1.8
	静・豊田地区	69	30.4	△ 27.5	18.8	▼ 7.2	▼ 21.7	36.2	1.4	5.8
	鷺宮地区	111	38.7	▼ 15.3	19.8	△ 19.8	▼ 20.7	31.5	0.9	11.7
	桜田地区	126	33.3	23.0	18.3	13.5	▼ 21.4	37.3	1.6	6.3
年齢	20歳代	101	35.6	21.8	▼ 10.9	14.9	△ 36.6	34.7	-	6.9
	30歳代	132	35.6	△ 25.8	▼ 13.6	14.4	24.2	33.3	2.3	11.4
	40歳代	151	33.8	17.9	19.9	11.3	▼ 21.2	36.4	1.3	13.2
	50歳代	158	34.8	20.9	22.2	△ 20.9	24.1	36.1	1.9	4.4
	60歳代	198	31.8	15.7	△ 27.8	14.1	△ 32.8	32.8	-	4.5
	70歳以上	193	△ 40.9	△ 26.4	16.1	12.4	23.3	▼ 25.9	0.5	7.3

※複数回答

問11 あなたは、災害がおこった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが必要だと考えますか。(あてはまるものすべて)

災害がおこった場合に住民同士で支援が必要なことでは、「災害直後の安否確認や声かけ」が82.7%で最も多い回答となっています。

また、「災害や避難に関する情報提供」、「避難所などへの移動の支援」も60%以上と高い意識となっています。

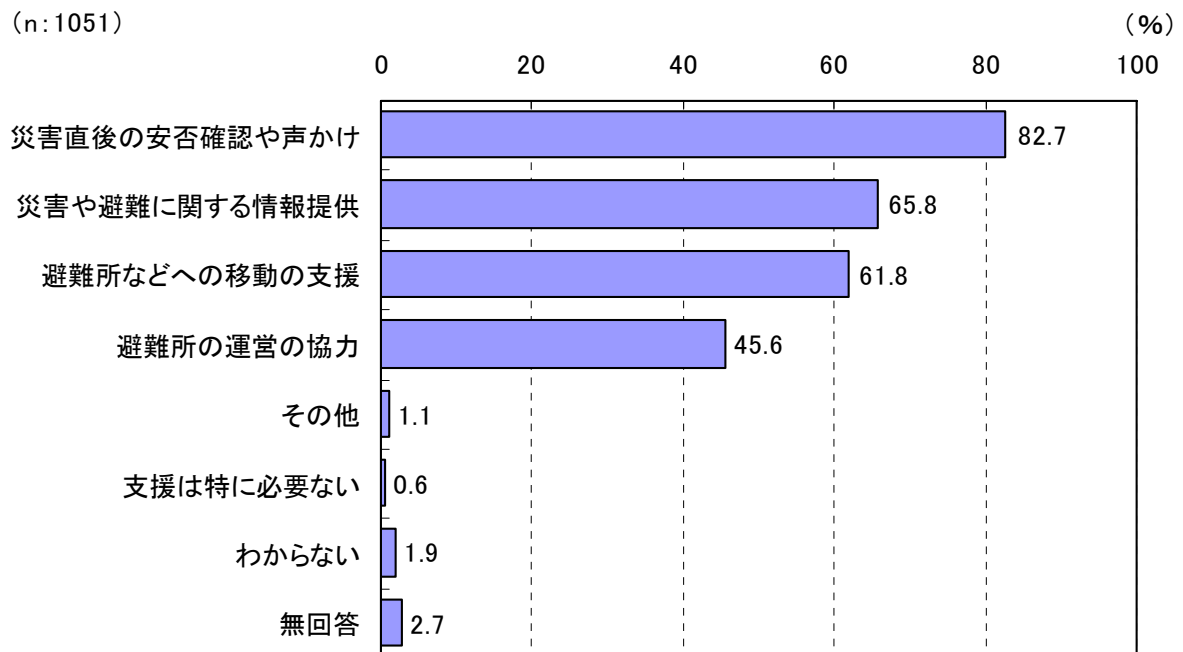
「災害直後の安否確認や声かけ」を居住地区別にみると「東地区」、年齢別では「50歳代」の割合が高くなっています。

「災害や避難に関する情報提供」を居住地区別にみると「中央・南地区」、年齢別では「40歳代」の割合が高くなっています。

「避難所などへの移動の支援」を居住地区別にみると「小林・栢山地区」、年齢別では「50歳代」の割合が高くなっています。

#### ■災害がおこった場合に住民同士で支援が必要なこと

(n:1051)



※複数回答

■災害がおこった場合に住民同士が支援すべきこと（地区別・年齢別）（単位：人、％）

	n	災害直後の安否確認や声かけ	災害や避難に関する情報提供	避難所などへの移動の支援	避難所の運営の協力	その他	支援は特に必要ない	わからない	
全 体	1,051	82.7	65.8	61.8	45.6	1.1	0.6	1.9	
居住地区	本町地区	112	83.0	66.1	64.3 ▼	33.0	-	0.9	1.8
	中央・南地区	49	83.7 △	77.6	▼ 49.0	42.9	-	-	4.1
	東地区	58	△ 91.4	63.8	△ 69.0	△ 55.2	-	-	-
	太田地区	114	80.7	61.4	▼ 56.1	▼ 39.5	1.8	-	2.6
	江面地区	33	81.8	▼ 57.6	57.6	△ 54.5	-	3.0	3.0
	清久地区	22	86.4	△ 72.7	▼ 54.5	40.9	-	-	-
	菖蒲・三箇地区	88	80.7	67.0	64.8	48.9	1.1	1.1	2.3
	小林・栢間地区	31	80.6	△ 71.0	△ 71.0	41.9	-	-	3.2
	栗橋・伊坂地区	113	84.1	65.5	63.7	44.2	0.9	1.8	0.9
	静・豊田地区	69	▼ 76.8	62.3	66.7	42.0	1.4	-	2.9
	鷲宮地区	111	83.8	70.3	58.6	44.1	1.8	-	0.9
	桜田地区	126	82.5	63.5	65.9	△ 54.0	0.8	0.8	1.6
年齢	20歳代	101	▼ 75.2	66.3	△ 69.3	46.5	2.0	-	3.0
	30歳代	132	84.1	69.7	61.4	46.2	-	1.5	2.3
	40歳代	151	84.1	△ 72.8	63.6	△ 51.7	1.3	-	1.3
	50歳代	158	△ 90.5	63.3	△ 70.3	50.0	-	-	0.6
	60歳代	198	83.3	65.2	62.6	44.4	1.0	0.5	1.5
	70歳以上	193	78.2	61.1	▼ 49.7	▼ 33.7	1.0	1.6	2.6

※複数回答

問12 地域における災害時の備えとして、現在、あなたの地域で行われていると思うことは次のどれですか。(あてはまるものすべて)

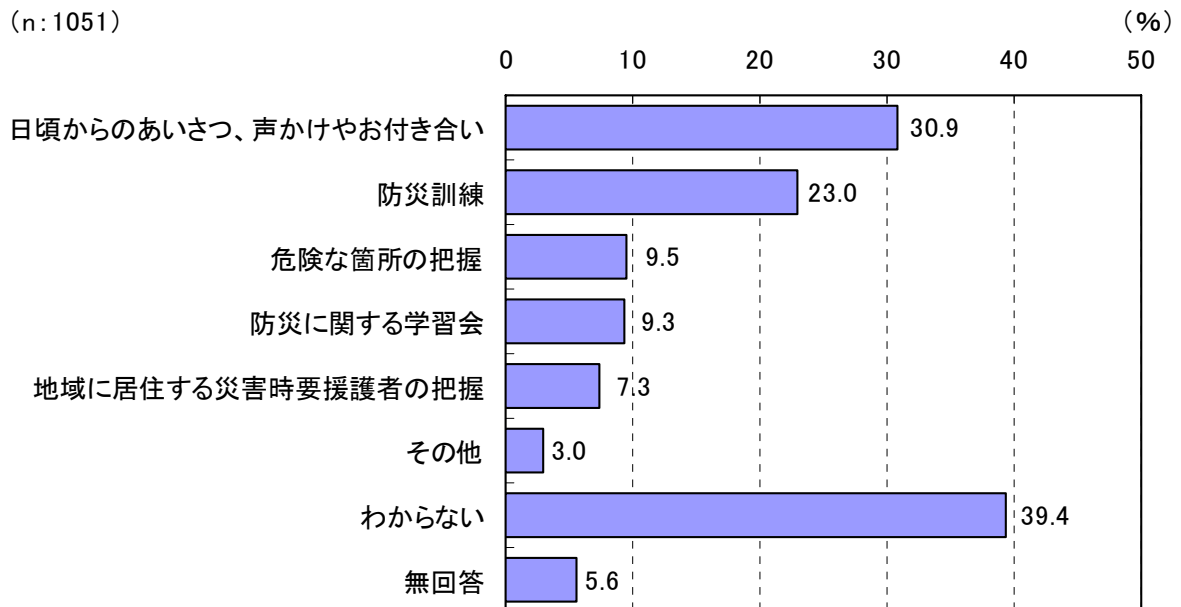
「地域における災害時の備えとして、地域の取り組み」では、「日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い」が30.9%で最も多い回答となっていますが、「わからない」が39.4%を占めています。

「日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い」を居住地区別にみると「清久地区」での割合が高く、年齢別では、「70歳以上」の回答が多くなっています。

また、「防災訓練」を居住地区別にみると「桜田地区」での割合が高く、年齢別では「60歳代」の回答が多くなっています。

### ■災害時の備えとして地域で行われている取り組み

(n:1051)



※複数回答

■災害時の備えとして地域で行われている取組み（地区別・年齢別）（単位：人、％）

		n	防災に関する 学習会	日頃からのあい さつ、声かけや お付き合い	防災訓練	危険な箇所の 把握	地域に居住する 災害時要援護 者の把握	その他	わからない
全 体		1,051	9.3	30.9	23.0	9.5	7.3	3.0	39.4
居住地区	本町地区	112	9.8	31.3	21.4	6.3	10.7	5.4	35.7
	中央・南地区	49	10.2	34.7	18.4	12.2	12.2	-	44.9
	東地区	58	6.9	31.0	22.4	△ 19.0	10.3	1.7	46.6
	太田地区	114	7.0	28.9	20.2	6.1	7.0	2.6	42.1
	江面地区	33	▼ 3.0	33.3	▼ 12.1	△ 15.2	12.1	3.0	39.4
	清久地区	22	△ 18.2	☆ 59.1	▼ 13.6	9.1	4.5	4.5	13.6
	菅蒲・三箇地区	88	8.0	34.1	21.6	11.4	4.5	2.3	39.8
	小林・栢間地区	31	6.5	△ 45.2	19.4	6.5	3.2	6.5	25.8
	栗橋・伊坂地区	113	▼ 1.8	29.2	▼ 11.5	7.1	▼ 1.8	2.7	49.6
	静・豊田地区	69	7.2	27.5	27.5	10.1	7.2	2.9	30.4
	鷺宮地区	111	11.7	30.6	24.3	11.7	8.1	1.8	44.1
	桜田地区	126	△ 17.5	▼ 24.6	☆ 46.0	9.5	10.3	1.6	31.0
年齢	20歳代	101	7.9	27.7	18.8	8.9	5.9	1.0	△ 48.5
	30歳代	132	5.3	▼ 22.7	▼ 16.7	12.1	6.1	-	☆ 55.3
	40歳代	151	10.6	27.8	23.2	8.6	3.3	2.0	△ 49.0
	50歳代	158	10.8	29.7	27.8	8.9	10.1	5.1	38.6
	60歳代	198	12.1	29.3	△ 31.3	6.1	11.1	5.1	▼ 27.8
	70歳以上	193	6.7	△ 43.5	19.2	13.5	7.8	1.6	▼ 26.9

※複数回答

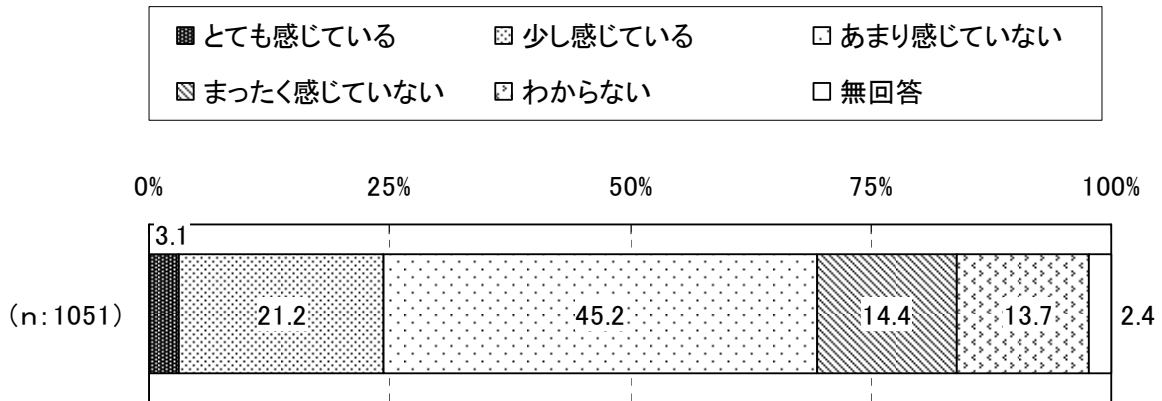
問13 あなたのお住まいの地域では、子ども、高齢者、障がいのある人を含めて、お互いの生活を地域の中で支え合っていると感じていますか。(1つ)

「地域の中で支え合いを感じているか」では、「あまり感じていない」が45.2%で最も多い回答となっています。

「とても感じている」と「少し感じている」を合わせて居住地区別にみると「清久地区」、「小林・栢間地区」での割合が高く、年齢別では「70歳以上」の回答が多くなっています。

「あまり感じていない」と「まったく感じていない」を合わせて年齢別にみると、「50歳代」が67.7%で最も高く、次いで「20歳代」が67.3%となっています。

■地域の中で支え合いを感じるか



■地域の中で支え合いを感じるか（地区別・年齢別）（単位：人、％）

		n	とても 感じている	少し 感じている	あまり 感じていない	まったく 感じていない	わからない
全 体		1,051	3.1	21.2	45.2	14.4	13.7
居住地区	本町地区	112	1.8	17.0	△ 54.5	13.4	11.6
	中央・南地区	49	2.0	20.4	△ 57.1	14.3	6.1
	東地区	58	1.7	17.2	△ 55.2	▼ 5.2	17.2
	太田地区	114	3.5	21.9	43.0	14.0	14.9
	江面地区	33	3.0	24.2	▼ 39.4	△ 24.2	6.1
	清久地区	22	△ 9.1	☆ 40.9	▼ 36.4	▼ 9.1	4.5
	菖蒲・三箇地区	88	3.4	△ 28.4	▼ 36.4	11.4	△ 19.3
	小林・栢間地区	31	△ 12.9	25.8	▼ 38.7	12.9	9.7
	栗橋・伊坂地区	113	1.8	21.2	46.9	16.8	9.7
	静・豊田地区	69	5.8	21.7	42.0	17.4	▼ 5.8
	鷺宮地区	111	3.6	17.1	48.6	14.4	14.4
	桜田地区	126	-	19.0	46.0	15.1	17.5
年齢	20歳代	101	2.0	▼ 12.9	45.5	△ 21.8	17.8
	30歳代	132	0.8	23.5	43.2	16.7	15.2
	40歳代	151	1.3	23.8	48.3	12.6	11.3
	50歳代	158	1.3	▼ 15.8	△ 54.4	13.3	13.9
	60歳代	198	2.5	18.7	47.5	14.1	12.6
	70歳以上	193	△ 9.3	△ 29.0	▼ 37.3	10.4	10.4

問14 あなたは、住民同士がお互いに助け合える地域とは、どの範囲だと思いますか。  
(1つ)

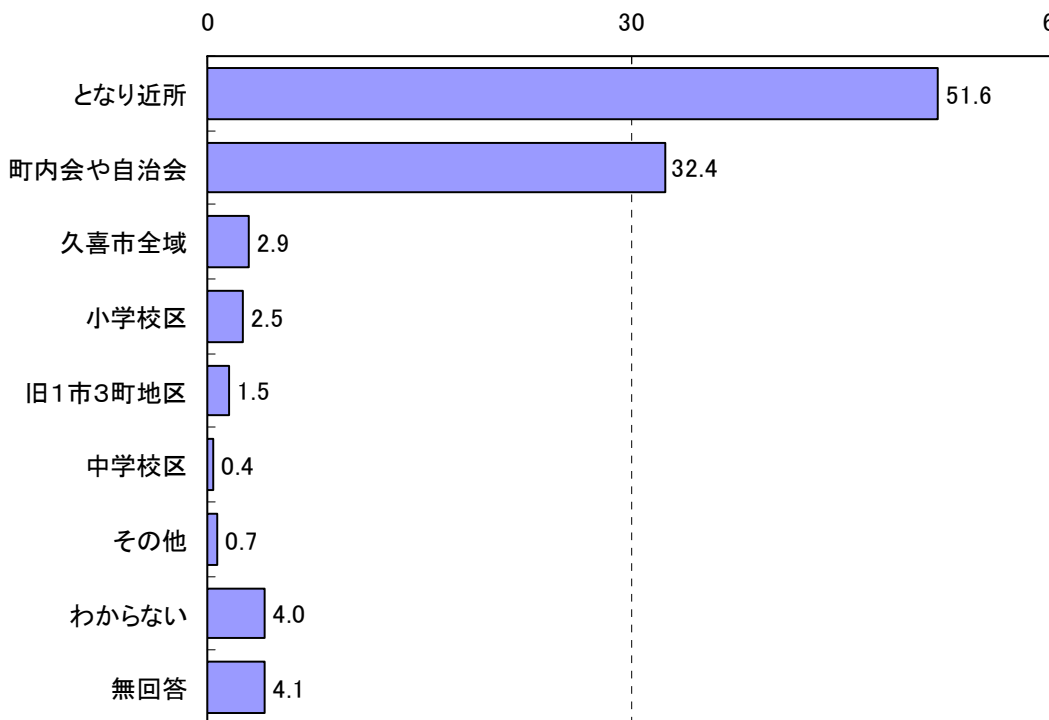
「住民同士がお互いに助け合える地域の範囲」では、「となり近所」が 51.6%で半数以上を占めています。次に「町内会や自治会」の 32.4%となっています。

「となり近所」を居住地区別にみると、「小林・栢間地区」、年齢別では「70歳以上」の割合が高くなっています。

■住民同士が助け合える地域の範囲

(n:1051)

(%)





■住民同士が助け合える地域の範囲（地区別・年齢別）（単位：人、％）

	n	となり近所	町内会や 自治会	小学校区	中学校区	旧1市3町地 区	久喜市全域	その他	わからない	
全 体	1,051	51.6	32.4	2.5	0.4	1.5	2.9	0.7	4.0	
居住地区	本町地区	112	48.2	36.6	0.9	-	0.9	4.5	0.9	3.6
	中央・南地区	49	46.9	△ 38.8	2.0	-	-	2.0	2.0	8.2
	東地区	58	▼ 46.6	31.0	1.7	1.7	-	6.9	-	6.9
	太田地区	114	55.3	28.1	2.6	0.9	1.8	2.6	-	5.3
	江面地区	33	△ 57.6	▼ 27.3	-	-	6.1	-	-	3.0
	清久地区	22	54.5	36.4	4.5	-	-	4.5	-	-
	菖蒲・三箇地区	88	△ 60.2	▼ 21.6	3.4	1.1	3.4	4.5	2.3	1.1
	小林・栢間地区	31	☆ 83.9	★ 12.9	3.2	-	-	-	-	-
	栗橋・伊坂地区	113	49.6	36.3	3.5	0.9	0.9	0.9	0.9	2.7
	静・豊田地区	69	▼ 46.4	31.9	1.4	-	△ 7.2	4.3	-	1.4
	鷲宮地区	111	46.8	36.0	0.9	-	0.9	4.5	-	5.4
	桜田地区	126	▼ 44.4	△ 38.9	4.0	-	0.8	-	1.6	7.1
年齢	20歳代	101	▼ 45.5	32.7	5.0	2.0	2.0	2.0	1.0	△ 9.9
	30歳代	132	50.0	32.6	4.5	-	2.3	1.5	0.8	5.3
	40歳代	151	47.0	33.1	4.6	-	-	5.3	0.7	3.3
	50歳代	158	53.2	34.2	1.3	-	1.9	0.6	1.3	4.4
	60歳代	198	51.0	34.8	1.0	1.0	1.0	3.5	0.5	1.5
	70歳以上	193	△ 58.5	27.5	-	-	3.1	3.1	0.5	3.6

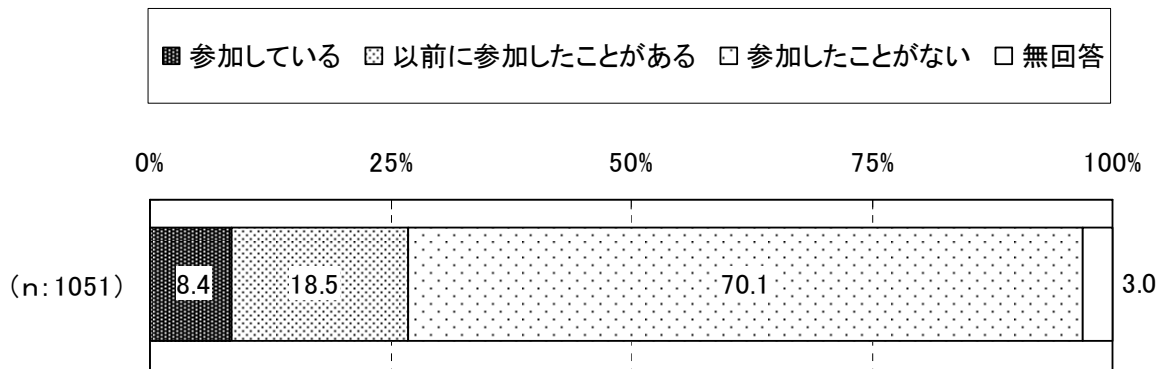
(3) 地域での活動について

問15 あなたは、ボランティアやNPO（営利を目的としないで社会貢献活動や慈善活動を行う市民活動団体）の活動に参加したことがありますか。（1つ）

「ボランティアやNPOの活動への参加状況」では、「参加している」が8.4%、「以前に参加したことがある」18.5%となっており、合計で26.9%となっています。

「参加している」を居住地区別にみると「清久地区」での割合が高く、年齢別では、「60歳代」の回答が多くなっています。

■ ボランティアやNPO活動への参加経験



## ■ ボランティアやNPO活動への参加経験（地区別・年齢別）（単位：人、%）

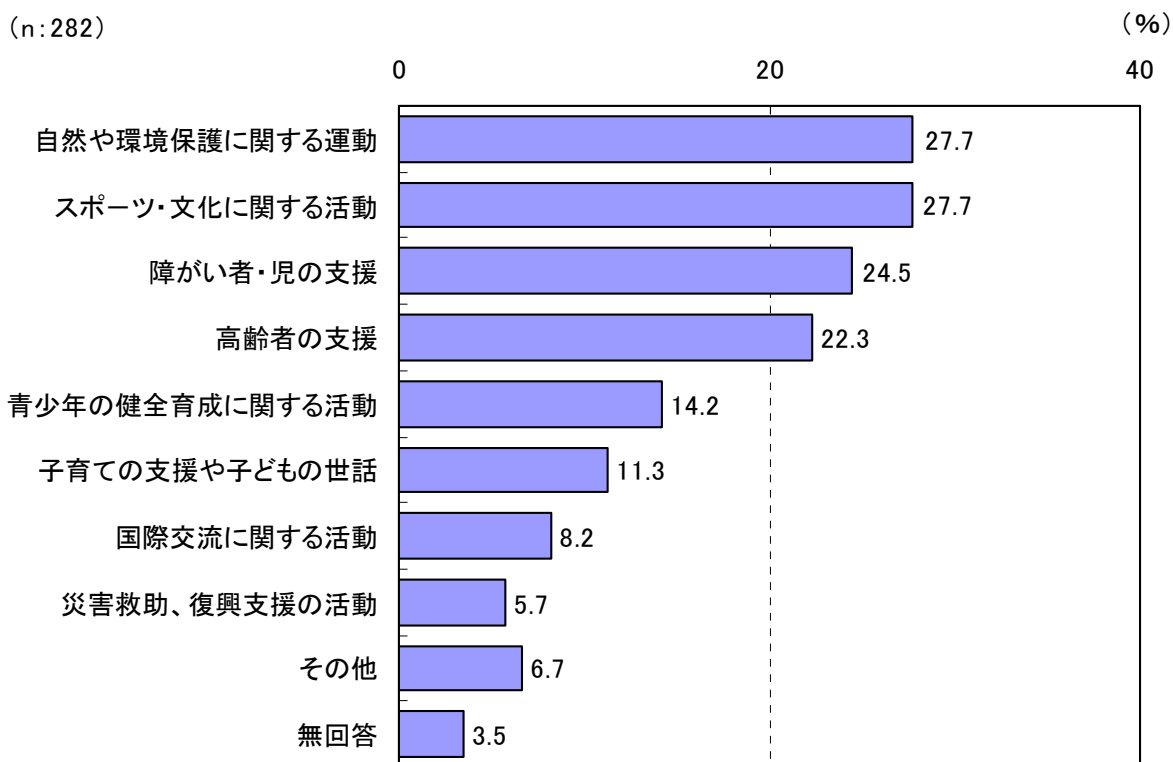
		n	参加している	以前に参加したことがある	参加したことがない
全 体		1,051	8.4	18.5	70.1
居住地区	本町地区	112	8.0	17.9	71.4
	中央・南地区	49	12.2	18.4	69.4
	東地区	58	8.6	▼ 10.3	△ 79.3
	太田地区	114	8.8	14.0	△ 76.3
	江面地区	33	9.1	21.2	66.7
	清久地区	22	△ 13.6	☆ 36.4	★ 50.0
	菖蒲・三箇地区	88	9.1	15.9	72.7
	小林・栢間地区	31	12.9	22.6	▼ 64.5
	栗橋・伊坂地区	113	5.3	△ 23.9	▼ 62.8
	静・豊田地区	69	5.8	20.3	69.6
	鷲宮地区	111	6.3	17.1	△ 76.6
	桜田地区	126	11.1	△ 24.6	▼ 61.1
年齢	20歳代	101	▼ 3.0	△ 30.7	▼ 63.4
	30歳代	132	3.8	15.9	△ 80.3
	40歳代	151	5.3	18.5	△ 75.5
	50歳代	158	8.2	20.3	68.4
	60歳代	198	△ 14.6	15.7	68.7
	70歳以上	193	11.4	17.6	▼ 63.2

問15-1 (問15で1または2を選んだ方へ)  
 どのような活動に参加してきましたか。(あてはまるものすべて)

「ボランティアやNPOの活動に参加している」または「以前に参加したことがある」と回答した方に、参加したことがある活動を尋ねたところ、「自然や環境保護に関する運動」、「スポーツ・文化に関する活動」、「障がい者・児の支援」、「高齢者の支援」が20%以上となっています。

また、男女別では、男性が「自然や環境保護に関する運動」、「スポーツ・文化に関する活動」の順に回答が多く、女性は「障がい者・児の支援」、「高齢者の支援」の順に回答が多くなっています。

### ■参加したことがあるボランティアやNPO活動



※複数回答

■参加したことがあるボランティアやNPO活動（地区別・年齢別）（単位：人、%）

	n	高齢者の 支援	障がい者・ 児の支援	子育ての 支援や子 どもの世 話	自然や環 境保護に 関する運 動	国際交流 に関する 活動	青少年の 健全育成 に関する 活動	スポーツ・ 文化に関 する活動	災害救 助、復興 支援の活 動	その他	
全 体	282	22.3	24.5	11.3	27.7	8.2	14.2	27.7	5.7	6.7	
居住地区	本町地区	29	▼ 17.2	27.6	10.3	▼ 13.8	6.9	▼ 6.9	△ 34.5	3.4	△ 13.8
	中央・南地区	15	▼ 13.3	26.7	13.3	△ 40.0	△ 20.0	△ 20.0	26.7	△ 13.3	-
	東地区	11	☆ 45.5	27.3	9.1	▼ 18.2	-	▼ 9.1	△ 36.4	9.1	△ 18.2
	太田地区	26	23.1	26.9	15.4	30.8	-	▼ 3.8	★ 11.5	7.7	3.8
	江面地区	10	20.0	▼ 10.0	-	30.0	-	10.0	△ 40.0	☆ 30.0	-
	清久地区	11	△ 27.3	27.3	△ 18.2	▼ 18.2	9.1	△ 27.3	▼ 18.2	9.1	-
	菖蒲・三箇地区	22	▼ 13.6	22.7	9.1	▼ 13.6	4.5	▼ 9.1	△ 36.4	-	4.5
	小林・栢間地区	11	☆ 45.5	27.3	9.1	△ 36.4	△ 18.2	☆ 36.4	▼ 18.2	-	-
	栗橋・伊坂地区	33	▼ 15.2	24.2	15.2	△ 42.4	6.1	▼ 6.1	▼ 21.2	6.1	-
	静・豊田地区	18	▼ 16.7	▼ 11.1	11.1	27.8	-	△ 27.8	△ 33.3	5.6	11.1
	鷲宮地区	26	☆ 38.5	▼ 15.4	11.5	▼ 19.2	△ 23.1	15.4	△ 42.3	3.8	11.5
	桜田地区	45	22.2	△ 33.3	6.7	28.9	11.1	△ 20.0	▼ 22.2	2.2	4.4
年齢	20歳代	34	△ 32.4	△ 38.2	▼ 5.9	☆ 44.1	△ 14.7	▼ 8.8	▼ 14.7	5.9	-
	30歳代	26	▼ 15.4	△ 30.8	11.5	△ 34.6	7.7	▼ 7.7	23.1	-	7.7
	40歳代	36	▼ 11.1	▼ 16.7	△ 22.2	▼ 13.9	11.1	16.7	△ 38.9	5.6	2.8
	50歳代	45	20.0	28.9	8.9	▼ 20.0	△ 17.8	△ 28.9	▼ 20.0	4.4	6.7
	60歳代	60	25.0	23.3	▼ 5.0	25.0	3.3	▼ 8.3	△ 38.3	8.3	10.0
	70歳以上	56	△ 28.6	▼ 17.9	14.3	26.8	▼ 1.8	14.3	25.0	7.1	5.4

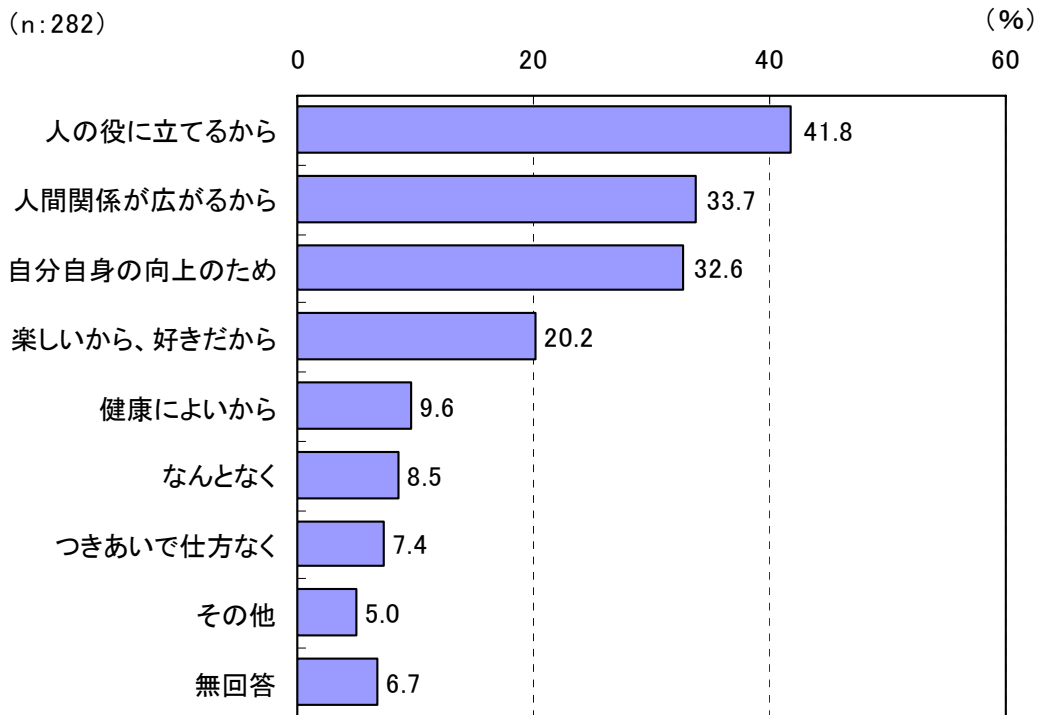
※複数回答

問15-2 (問15で1または2を選んだ方へ)  
 あなたが活動に参加したのはどのような理由からですか。  
 (あてはまるものすべて)

「ボランティアやNPOの活動に参加している」または「以前に参加したことがある」と回答した方に、参加した理由を尋ねたところ、「人の役に立てるから」、「人間関係が広がるから」、「自分自身の向上のため」が30%以上となっています。

「人の役に立てるから」の割合を居住地区別にみると「東地区」、「中央・南地区」が、年齢別では「50歳代」、「60歳代」の割合が高くなっています。

■ ボランティアやNPO活動に参加した理由



※複数回答

■ ボランティアやNPO活動に参加した理由（地区別・年齢別）（単位：人、%）

	n	楽しいから、好きだから	健康によいから	自分自身の向上のため	人間関係が広がるから	人の役に立てるから	つきあいで仕方なく	なんとなく	その他	
全体	282	20.2	9.6	32.6	33.7	41.8	7.4	8.5	5.0	
居住地区	本町地区	29	20.7	-	34.5	▼ 24.1	37.9	-	△ 17.2	6.9
	中央・南地区	15	▼ 13.3	6.7	△ 40.0	△ 46.7	☆ 60.0	△ 13.3	6.7	6.7
	東地区	11	▼ 9.1	9.1	36.4	36.4	☆ 72.7	-	-	9.1
	太田地区	26	▼ 11.5	△ 15.4	△ 42.3	34.6	▼ 34.6	7.7	7.7	3.8
	江面地区	10	20.0	△ 20.0	☆ 50.0	△ 40.0	△ 50.0	-	△ 20.0	-
	清久地区	11	18.2	-	▼ 27.3	36.4	45.5	☆ 27.3	-	-
	菖蒲・三箇地区	22	△ 27.3	☆ 27.3	36.4	△ 40.9	▼ 27.3	△ 13.6	4.5	-
	小林・栢間地区	11	☆ 36.4	9.1	▼ 27.3	▼ 27.3	△ 54.5	9.1	-	-
	栗橋・伊坂地区	33	21.2	△ 15.2	▼ 27.3	▼ 27.3	★ 21.2	9.1	△ 15.2	3.0
	静・豊田地区	18	16.7	5.6	27.8	★ 16.7	44.4	11.1	△ 16.7	5.6
	鷺宮地区	26	15.4	11.5	▼ 19.2	30.8	△ 53.8	7.7	△ 15.4	7.7
	桜田地区	45	24.4	▼ 2.2	33.3	△ 40.0	42.2	4.4	-	8.9
年齢	20歳代	34	△ 32.4	-	35.3	▼ 23.5	▼ 32.4	8.8	△ 17.6	△ 11.8
	30歳代	26	19.2	▼ 3.8	▼ 19.2	▼ 23.1	★ 11.5	△ 15.4	△ 19.2	7.7
	40歳代	36	16.7	8.3	★ 11.1	▼ 19.4	41.7	11.1	△ 13.9	5.6
	50歳代	45	▼ 11.1	-	35.6	33.3	△ 53.3	△ 13.3	4.4	4.4
	60歳代	60	25.0	△ 15.0	△ 43.3	△ 46.7	△ 51.7	3.3	▼ 3.3	1.7
	70歳以上	56	▼ 14.3	△ 21.4	△ 39.3	37.5	42.9	▼ 1.8	5.4	3.6

※複数回答

問15-3 (問15で「3 参加したことがない」を選んだ方へ)  
参加したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

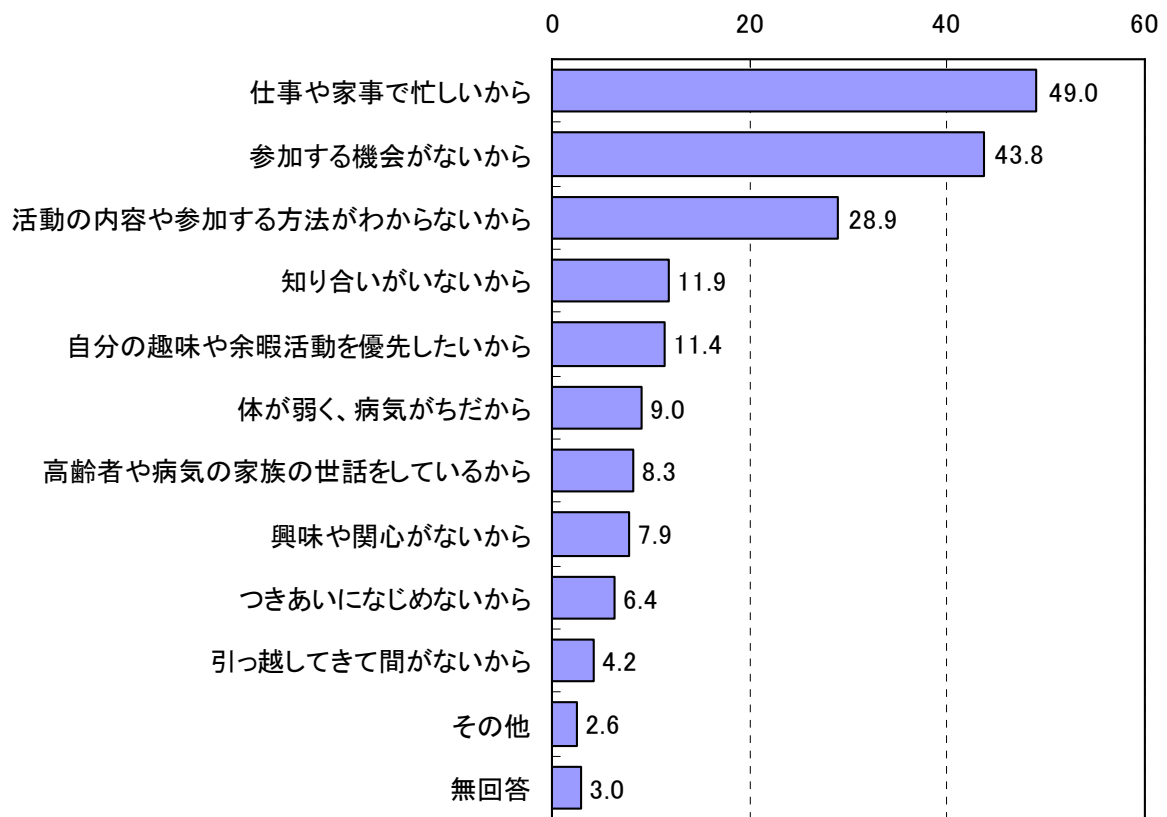
「ボランティアやNPOの活動に参加したことがない」と回答した方に、その理由を尋ねたところ、「仕事や家事で忙しいから」、「参加する機会がないから」が特に多い不参加理由となっています。

「仕事や家事で忙しいから」を居住地区別にみると「清久地区」、「小林・栢間地区」「桜田地区」、年齢別では「40歳代」、「30歳代」、「50歳代」の割合が高くなっています。

■ボランティアやNPO活動に参加したことがない理由

(n:737)

(%)



※複数回答



## ■ ボランティアやNPO活動に参加したことがない理由（地区別・年齢別）（単位：人、％）

	n	仕事や家事で忙しいから	体が弱く、病気がちだから	高齢者や病気の家族の世話をしているから	活動の内容や参加する方法がわからないから	参加する機会がないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	興味や関心がないから	引っ越してきて間がないから	知り合いがいらないから	つきあいになじめないから	その他	
全 体	737	49.0	9.0	8.3	28.9	43.8	11.4	7.9	4.2	11.9	6.4	2.6	
居住地区	本町地区	80	51.3	7.5	10.0	28.8	46.3	16.3	7.5	5.0	12.5	6.3	1.3
	中央・南地区	34	△ 55.9	8.8	8.8	△ 38.2	△ 55.9	11.8	11.8	-	△ 17.6	△ 11.8	-
	東地区	46	△ 54.3	13.0	4.3	△ 41.3	△ 50.0	△ 17.4	8.7	2.2	▼ 6.5	4.3	-
	太田地区	87	52.9	8.0	5.7	32.2	39.1	12.6	5.7	5.7	10.3	8.0	2.3
	江面地区	22	△ 54.5	4.5	9.1	★ 9.1	△ 54.5	△ 18.2	9.1	-	▼ 4.5	9.1	-
	清久地区	11	△ 63.6	△ 18.2	9.1	▼ 18.2	▼ 36.4	△ 18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	△ 9.1
	菖蒲・三箇地区	64	△ 54.7	9.4	9.4	△ 34.4	46.9	9.4	3.1	1.6	14.1	4.7	-
	小林・栢間地区	20	△ 60.0	5.0	△ 15.0	▼ 20.0	★ 20.0	10.0	5.0	5.0	-	-	△ 10.0
	栗橋・伊坂地区	71	▼ 35.2	11.3	7.0	28.2	47.9	9.9	▼ 2.8	4.2	11.3	7.0	5.6
	静・豊田地区	48	★ 31.3	8.3	△ 20.8	▼ 22.9	45.8	8.3	△ 18.8	-	△ 18.8	10.4	2.1
	鷺宮地区	85	49.4	8.2	4.7	△ 41.2	47.1	11.8	8.2	1.2	16.5	4.7	1.2
	桜田地区	77	△ 57.1	9.1	3.9	▼ 20.8	▼ 31.2	9.1	△ 14.3	9.1	13.0	2.6	6.5
	年齢	20歳代	64	51.6	6.3	-	△ 34.4	48.4	14.1	△ 15.6	7.8	△ 20.3	10.9
30歳代		106	△ 63.2	▼ 2.8	▼ 2.8	31.1	47.2	16.0	10.4	6.6	△ 21.7	5.7	2.8
40歳代		114	☆ 66.7	▼ 3.5	4.4	△ 36.0	43.9	10.5	9.6	3.5	9.6	6.1	0.9
50歳代		108	△ 61.1	10.2	13.0	31.5	42.6	11.1	4.6	1.9	9.3	5.6	2.8
60歳代		136	▼ 38.2	7.4	12.5	30.9	46.3	13.2	6.6	1.5	9.6	7.4	2.2
70歳以上		122	★ 25.4	△ 21.3	10.7	▼ 18.9	▼ 35.2	8.2	6.6	3.3	8.2	2.5	5.7

※複数回答

問16 ボランティアやNPO（営利を目的としないで社会貢献活動や慈善活動を行う市民活動団体）の活動を活発にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで）

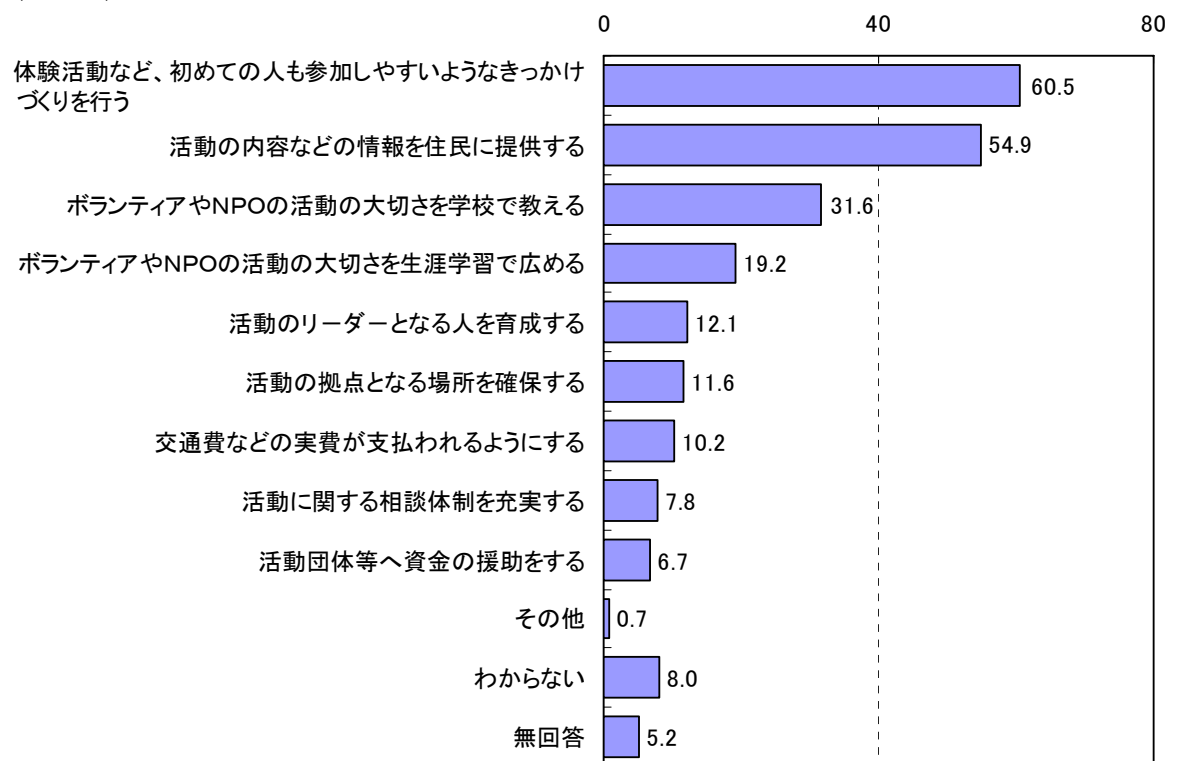
「ボランティアやNPOの活動を活発にするために必要なこと」では、「体験活動など、初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う」、「活動の内容などの情報を住民に提供する」を半数以上があげています。また、「ボランティアやNPOの活動の大切さを学校で教える」が31.6%となっています。

「体験活動など、初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う」を居住地区別にみると、「清久地区」、「小林・栢山地区」、年齢別では「20歳代」の割合が高くなっています。

### ■ ボランティアやNPO活動を活発にするために必要なこと

(n: 1051)

(%)



※複数回答

## ■ ボランティアやNPO活動を活発にするために必要なこと（地区別・年齢別）（単位：人、％）

	n	ボランティアやNPOの活動の大切さを学校で教える	ボランティアやNPOの活動の大切さを生涯学習で広める	活動の内容などの情報を住民に提供する	活動に関する相談体制を充実する	体験活動など、初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う	活動の拠点となる場所を確保する	活動団体等へ資金の援助をする	交通費などの実費が支払われるようにする	活動のリーダーとなる人を育成する	その他	わからない	
全体	1,051	31.6	19.2	54.9	7.8	60.5	11.6	6.7	10.2	12.1	0.7	8.0	
居住地区	本町地区	112	△ 36.6	17.9	52.7	9.8	61.6	△ 17.0	9.8	8.9	11.6	0.9	8.9
	中央・南地区	49	30.6	18.4	△ 65.3	4.1	65.3	10.2	10.2	14.3	12.2	4.1	4.1
	東地区	58	△ 39.7	17.2	△ 65.5	8.6	△ 67.2	13.8	5.2	13.8	▼ 6.9	-	▼ 1.7
	太田地区	114	34.2	17.5	59.6	10.5	64.0	8.8	8.8	12.3	12.3	-	5.3
	江面地区	33	▼ 21.2	18.2	▼ 48.5	3.0	60.6	12.1	6.1	9.1	15.2	-	9.1
	清久地区	22	36.4	△ 27.3	50.0	4.5	☆ 77.3	9.1	4.5	△ 22.7	☆ 27.3	-	-
	菖蒲・三箇地区	88	31.8	21.6	52.3	5.7	60.2	9.1	5.7	10.2	11.4	-	△ 13.6
	小林・栢間地区	31	△ 38.7	22.6	▼ 48.4	9.7	△ 74.2	△ 22.6	6.5	6.5	▼ 6.5	3.2	9.7
	栗橋・伊坂地区	113	34.5	16.8	53.1	5.3	60.2	7.1	6.2	6.2	13.3	0.9	4.4
	静・豊田地区	69	▼ 21.7	△ 24.6	▼ 44.9	7.2	60.9	7.2	4.3	11.6	11.6	-	10.1
	鷲宮地区	111	34.2	20.7	50.5	7.2	59.5	14.4	4.5	10.8	11.7	-	12.6
	桜田地区	126	▼ 24.6	21.4	59.5	9.5	57.9	12.7	7.1	11.1	14.3	0.8	7.1
	年齢	20歳代	101	△ 37.6	14.9	51.5	5.9	☆ 77.2	7.9	5.0	13.9	10.9	3.0
30歳代		132	△ 40.2	▼ 13.6	55.3	7.6	△ 67.4	10.6	5.3	9.1	13.6	-	9.1
40歳代		151	△ 37.1	20.5	△ 63.6	6.0	△ 68.2	9.3	5.3	9.3	7.3	0.7	6.0
50歳代		158	34.8	23.4	56.3	10.1	62.7	15.2	10.8	10.1	8.9	0.6	3.8
60歳代		198	▼ 23.2	20.2	59.1	8.6	60.1	14.6	8.1	11.1	14.1	0.5	9.1
70歳以上		193	▼ 25.9	22.8	▼ 42.5	6.7	▼ 45.6	8.8	6.2	10.9	16.6	-	10.9

※複数回答

## (4) これからの地域福祉の進め方について

### (小地域福祉活動について)

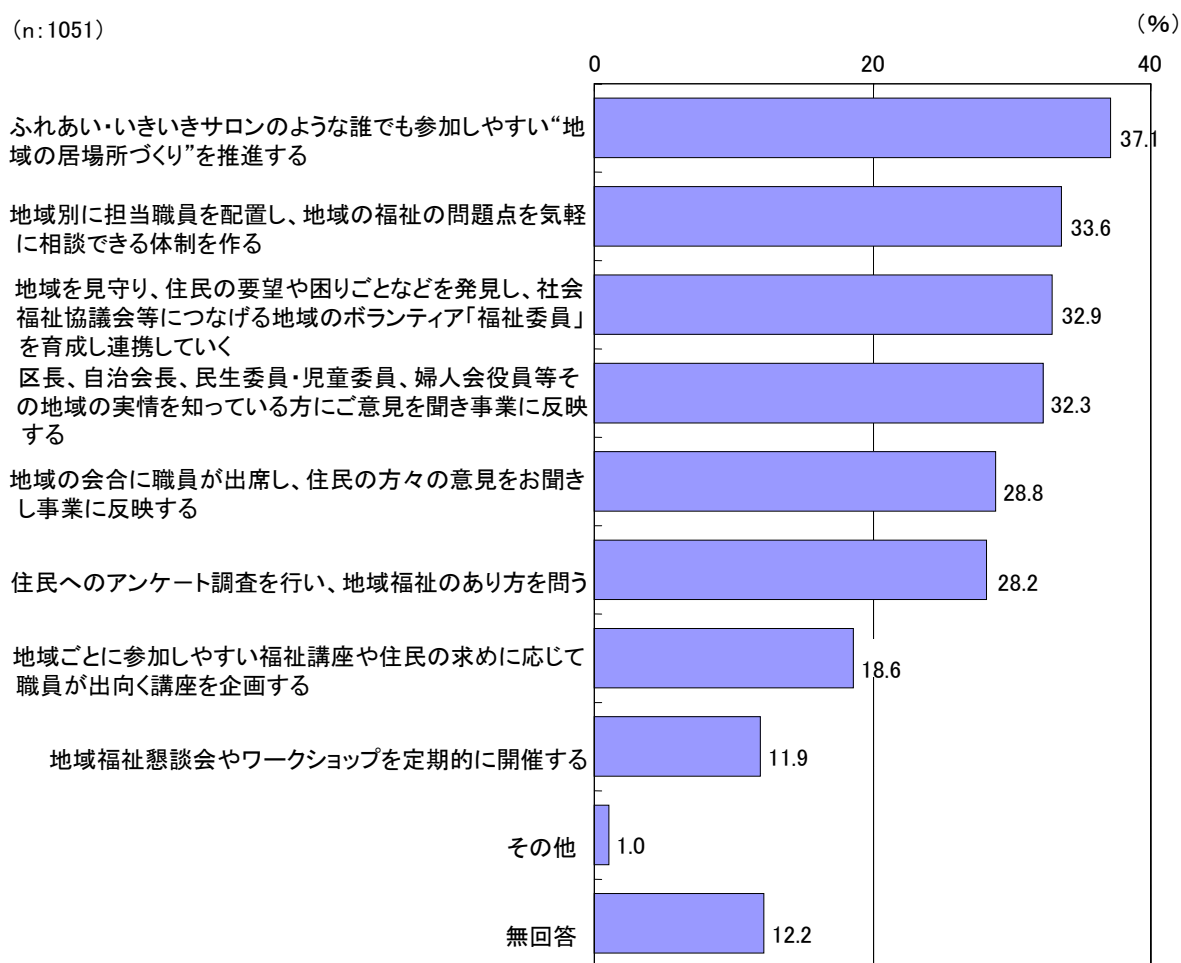
問17 住民の方々と地域性を検討し、その地域にあった福祉活動を充実させるべく、社会福祉協議会が地域の住民の方とともに地域福祉を推進していくためには、どんなことが必要でしょうか。(あてはまるものすべて)

「ふれあい・いきいきサロンのような誰でも参加しやすい“地域の居場所づくり”を推進する」が最も多い回答となっていますが、複数回答としているため、他の選択肢も多くの回答を集めています。

「ふれあい・いきいきサロンのような誰でも参加しやすい「地域の居場所づくり」を推進する」を居住地区別にみると「本町地区」、「東地区」、年齢別では「50歳代」、「60歳代」の割合が高くなっています。

#### ■地域福祉を推進していくために必要なこと

(n:1051)



※複数回答

## ■地域福祉を推進していくために必要なこと（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

	n	地域の会 合に職員 が出席し、 住民の 方々の意 見をお聞 きし事業 に反映す る	区長、自 治会長、 民生委 員・児童 委員、婦 人会役員 等その地 域の実情 を知って いる方に ご意見を 聞き、事 業に反映 する	住民への アンケート 調査を行 い、地域 福祉のあ り方を問う	ふれあい いきいき サロンの ような誰 も参加し やすい「地 域の居場 所づくり」 を推進す る	地域福祉 懇談会や ワーク ショップを 定期的に 開催する	地域ごと に参加し やすい福 祉講座や 住民の求 めに応じ て職員が 出向く講 座を企画 する	地域別に 担当職員 を配置し、 地域の福 祉の問題 点を気軽 に相談で きる体制 を作る	地域を見 守り、住民 の要望や 困りごと などを発 見し、社会 福祉協議 会等につ なげる地 域のボラ ンティア 「福祉委 員」を育 成し、連 携していく	その他	
全 体	1,051	28.8	32.3	28.2	37.1	11.9	18.6	33.6	32.9	1.0	
居住地区	本町地区	112	30.4	33.0	29.5	△ 46.4	15.2	18.8	32.1	31.3	-
	中央・南地区	49	△ 40.8	△ 40.8	30.6	40.8	12.2	16.3	△ 40.8	▼ 26.5	-
	東地区	58	29.3	31.0	△ 39.7	△ 43.1	△ 19.0	17.2	36.2	△ 37.9	-
	太田地区	114	26.3	29.8	26.3	36.0	12.3	15.8	▼ 25.4	31.6	0.9
	江面地区	33	▼ 21.2	☆ 48.5	▼ 21.2	▼ 30.3	▼ 3.0	18.2	▼ 24.2	△ 39.4	-
	清久地区	22	31.8	△ 40.9	★ 9.1	▼ 31.8	▼ 4.5	18.2	31.8	△ 45.5	-
	菖蒲・三箇地区	88	26.1	35.2	29.5	▼ 31.8	▼ 3.4	19.3	36.4	29.5	2.3
	小林・栢間地区	31	32.3	△ 45.2	▼ 22.6	35.5	▼ 6.5	16.1	▼ 22.6	△ 38.7	-
	栗橋・伊坂地区	113	32.7	36.3	24.8	39.8	13.3	15.9	△ 38.9	33.6	1.8
	静・豊田地区	69	27.5	31.9	▼ 21.7	37.7	15.9	20.3	30.4	31.9	1.4
	鷺宮地区	111	32.4	31.5	△ 37.8	34.2	13.5	21.6	△ 40.5	36.0	1.8
	桜田地区	126	31.0	30.2	32.5	37.3	11.1	△ 23.8	△ 38.9	35.7	2.4
年齢	20歳代	101	32.7	27.7	32.7	36.6	14.9	18.8	△ 39.6	28.7	2.0
	30歳代	132	29.5	29.5	27.3	32.6	▼ 6.1	▼ 12.1	△ 41.7	▼ 24.2	-
	40歳代	151	33.1	32.5	31.1	▼ 31.8	12.6	14.6	35.8	30.5	0.7
	50歳代	158	31.0	30.4	31.6	△ 48.7	16.5	△ 24.7	△ 39.2	37.3	1.3
	60歳代	198	26.8	△ 39.4	25.8	△ 42.4	9.6	△ 24.2	29.8	△ 40.9	2.0
	70歳以上	193	29.5	△ 38.9	28.0	▼ 31.1	11.9	16.6	▼ 26.9	34.7	1.0

※複数回答

(ボランティアセンターについて)

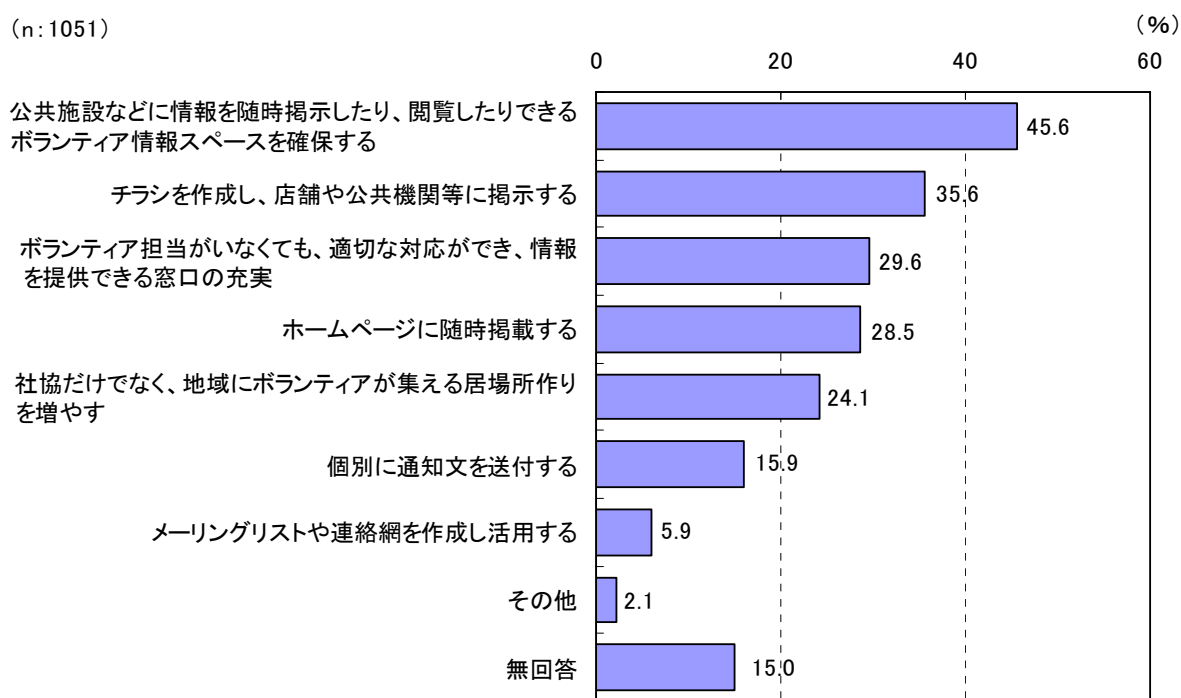
問18 より多くの方がボランティアに参加するためには、きっかけ作りと情報提供が重要視されていますが、皆さんにお知らせしたい必要な情報をどのようにお伝えしたらよいでしょうか。(あてはまるものすべて)

「ボランティア活動等に必要な情報の提供方法」では、「公共施設などに情報を随時掲示したり、閲覧したりできるボランティア情報スペースを確保する」、「チラシを作成し、店舗や公共機関等に掲示する」が上位にあげられています。

「公共施設などに情報を随時掲示したり、閲覧したりできるボランティア情報スペースを確保する」を居住地区別にみると「東地区」、「中央・南地区」、「清久地区」、年齢別では「50歳代」、「40歳代」の割合が高くなっています。

■情報提供の方法

(n:1051)



※複数回答

## ■情報提供の方法（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

	n	個別に通知文を送付する	ホームページに随時掲載する	公共施設などに情報を随時掲示したり、閲覧したりできるボランティア情報スペースを確保する	チラシを作成し、店舗や公共機関等に掲示する	メーリングリストや連絡網を作成し活用する	ボランティア担当がいなくても、適切な対応ができ、情報を提供できる窓口の充実	社協だけでなく、地域にボランティアが集える居場所作りを増やす	その他	
全体	1,051	15.9	28.5	45.6	35.6	5.9	29.6	24.1	2.1	
居住地区	本町地区	112	△ 25.9	29.5	42.9	▼ 30.4	5.4	33.0	22.3	-
	中央・南地区	49	▼ 8.2	△ 38.8	△ 55.1	☆ 51.0	8.2	▼ 24.5	20.4	4.1
	東地区	58	17.2	△ 36.2	△ 55.2	39.7	10.3	34.5	△ 32.8	-
	太田地区	114	18.4	26.3	43.9	32.5	1.8	▼ 22.8	▼ 15.8	3.5
	江面地区	33	▼ 6.1	24.2	▼ 39.4	39.4	-	33.3	27.3	-
	清久地区	22	☆ 36.4	▼ 13.6	△ 54.5	31.8	4.5	▼ 18.2	△ 31.8	-
	菖蒲・三箇地区	88	15.9	28.4	50.0	35.2	9.1	△ 35.2	27.3	3.4
	小林・栢間地区	31	12.9	▼ 19.4	△ 51.6	35.5	-	32.3	25.8	3.2
	栗橋・伊坂地区	113	17.7	27.4	47.8	31.9	4.4	25.7	27.4	1.8
	静・豊田地区	69	11.6	△ 34.8	▼ 33.3	34.8	5.8	30.4	26.1	4.3
	鷺宮地区	111	18.9	31.5	45.0	△ 42.3	7.2	33.3	26.1	3.6
桜田地区	126	12.7	32.5	△ 53.2	38.1	8.7	34.1	23.8	1.6	
年齢	20歳代	101	△ 22.8	△ 35.6	48.5	△ 45.5	△ 10.9	28.7	△ 29.7	3.0
	30歳代	132	19.7	△ 34.8	43.2	△ 48.5	10.6	▼ 22.7	▼ 16.7	3.0
	40歳代	151	14.6	☆ 46.4	△ 54.3	△ 45.0	7.3	27.2	▼ 18.5	2.6
	50歳代	158	14.6	△ 36.7	△ 56.3	36.1	5.1	29.7	△ 30.4	1.3
	60歳代	198	15.2	▼ 21.2	49.0	32.3	2.5	△ 36.4	△ 29.3	2.5
	70歳以上	193	18.7	▼ 13.5	▼ 32.6	▼ 21.2	3.6	33.2	22.8	1.6

※複数回答

問19 ボランティア講座の内容として、関心のあることや今後力を入れていくべきことは何でしょうか。

問19へのご意見として、241人の方から記載をいただきました。主な内容は次のとおりです。

### ■主な記載内容

(ボランティア講座で、関心のあることや今後力を入れていくべきこと)

- ▶ まずボランティアという言葉の意味を理解させる。
- ▶ ボランティアがなぜ必要なのか、と言う意識改革。人間変革が行わない限り普及は困難。そのための価値ある情報の提供、各種講座の努力は大切。
- ▶ ボランティアセンター存在の周知、意識の高揚。
- ▶ ボランティアというと敷居が高いように感じる人も多いと思うので、気軽に参加できるような工夫が要ると思う。魅力的な講師を揃えることも必要。
- ▶ ボランティアを受けたい人にアンケート等を実施して、今後のボランティア講座の内容を決めれば良いと思う。
- ▶ ボランティアの体験ができるようなきっかけ作りを目指した企画に力をいれた方が良いと思います。
- ▶ いろいろなボランティアのかたち、実際行なわれているいろいろなケースを紹介する内容ではどうでしょうか。自分たちに合ったものがみつかったり出てきたりするかもしれません。
- ▶ ボランティア活動をする人の高齢化を防ぐために若い人の積極的な参加が得られるよう、企画することが大切であると思います。
- ▶ 専門知識がなくても気軽にボランティアに参加できることを広めてほしい。まず、最初の一步参加してみて、自分に合わなかったら他のボランティアをしてみて、というように体験ボランティアもいいのではないのでしょうか。
- ▶ ボランティアに参加できる人をもっとたくさん確保するようにして、困った人、協力を必要とする人に力をかけるような活動ができるようになればよいと思います。
- ▶ ボランティア活動に関心を持てるようにする講座があればいいと思う。そもそもボランティアに対する関心を持ってもらうようにすることが重要ではないのでしょうか。小・中学校などで時間を使い、子供のうちからボランティアについて力を入れることが必要かと…。関心ある人、又はそれを実行する人は多くはないと思うので。
- ▶ ボランティアに参加したことのない者には何がなんだか！と感じるのでボランティアの全容をまず教えてくださるような内容で、その先はこの判断で！！
- ▶ ボランティアする人が負担であると感じるボランティアでなく、生きがいを感じられるボランティアであること。自分が困った時に気軽に相談できる人や窓口、場所を増やすこと。
- ▶ ボランティアの参加の仕方、初心者は何をどうしてよいかわからないことが多くて、その辺のところをわかりやすく紹介してほしいと思います。
- ▶ やる気があれば誰でもが多少の時間があればできるということ。しっかりとリーダー作り。



- ▶ 若年サラリーマンの参加とボランティア参加への実費支払いを促進する。
- ▶ 1回だけの参加ではなく継続的に参加したくなるような（ボランティアに）。
- ▶ 高齢者の介護や障がい者の理解を深めるために、講座を定期的に行い、より多くの人  
が同じ知識を持ち、率先してボランティア活動ができるよう情報の提供。親子、家族  
で参加できるボランティアを増やしたらいいと思う。
- ▶ 健康管理の簡単な体操とか、そのような催しを2週に1度とか（各週だと忙しい）。半  
年1年続けられるような室内スポーツなど体力をつけ、参加者同士での話題にボラン  
ティアの種類等を知らせ、季節によって必要なもの、常に必要なものと関心のある人  
は協力するようになるかもしれません。楽しみの中から選ぶのも続くかもしれません。
- ▶ 市全体でできること、町内会でできること、国全体でできること等を市民に周知徹底  
し、応募することが必要。
- ▶ もっとボランティアのPRを。
- ▶ 定年後の生きがい（提案、指導、情報提供等）
- ▶ 高齢で健康な人で、自分の健康のためにボランティア活動に参加する人、したい人等、  
多いと思います。こういった人たちに積極的に参加を呼びかける。又はポイント制を  
考える。
- ▶ 高齢者への支援、(例)ひとり暮らしの方への訪問、お手伝いなど。
- ▶ 年齢に関係なく、一人住まいの人の見守りや高齢の方の健康を考えた講座。
- ▶ お一人住まいの方々の生活の安全を確認する。
- ▶ 独居高齢者の安否確認。
- ▶ ひとり暮らし又は高齢者のみの家庭へのサービス(買い物、話し相手、安否確認など)、
- ▶ 手話、家電をちょっと直したり、配線の手伝いをしたり…。
- ▶ 高齢者（主にひとり暮らし）が集まれる場所や応援、手助け。
- ▶ 高齢者の居場所づくり。
- ▶ ひとり暮らし高齢者とのコミュニケーションの場を提供する。
- ▶ 高齢化への対応（老老介護が増える）
- ▶ 介護に関するワークショップ（ボランティアとして参加するための基礎知識など、“不  
安”を解消するもの）。
- ▶ 息抜き講座（子育て、介護で疲れた人のストレス解消法）。
- ▶ 傾聴講座・介護者支援講座。
- ▶ 介護の方法（入浴、ベッドから起こすコツなど）。
- ▶ 子ども高齢者の見守り。介護者の助け。
- ▶ 老老介護が増えるでしょうから、自宅でできる介護法など。
- ▶ 個人的には高齢者との接し方（認知症の人など）を。勉強したい。
- ▶ 高齢者の介護（家族にできる介護）
- ▶ 精神障がい者知的障がい者のことをもっとよく知ってもらうための講座やそのボラン  
ティアの方の育成。
- ▶ 手話を覚えたいです。
- ▶ 障がい児に対する支援。
- ▶ ガイドヘルパーに関心がある。
- ▶ 子育て相談、一時預かり
- ▶ 子育てに関するボランティア（登下校時の身守り隊など）

- ▶ 育児・子育てサービスなどに関心があります。
- ▶ 共働き夫婦への子育て支援。保育園への送迎、学童支援。
- ▶ 若い世代の人に情報を伝えられるようにしてほしい。
- ▶ まわりの子ども達がとても気になります。お年寄りには割りと手助けのようなことは行っているようですが、偏りすぎでは？と思うことがよくあります。
- ▶ 子育てで困っている若いお母さんの相談窓口。
- ▶ 介護予防運動などの体力づくり。
- ▶ 現在、一応の健康は保っていますのでよくわかりませんが、健康に関することと思います。
- ▶ 健康講座（簡単な体操や低カロリーの食事の作り方）。
- ▶ 週1回、小中学校の授業で地域福祉の大切さを講義して行けば将来の礎となり根づくので、そこに力を入れれば良いと思います。
- ▶ 子どもの教育（良し悪しをしっかりと教え、注意し、しつけできるような環境づくり）。
- ▶ 子ども達への社会貢献の意義の教育。大人に比べて子どもは先入観が少なく、吸収力があるので、子どもが良識的になれば大人も変わらざる得ないムードが出来るので子ども達が気持ち良く参加できるボランティアの形を考え、私達大人がそれを手助けする仕組みを専門家にレクチャーしてもらいたい。
- ▶ 社会福祉に関する教育が必要。
- ▶ 道徳の時間などを利用し、小学生のうちからボランティアの内容や体験を知る機会を設け、参加するのが普通である環境作りをすることが必要では？
- ▶ お年寄りと子どものふれあい講座、人に対する優しさを学んでほしい。
- ▶ 家族だけでなく、近所の人との交流が薄くなっている。親子、近所の人との心の交流、心のふれ合いが必要だと認識を深めることが基本ではないでしょうか。
- ▶ 近所の助け合いについて。
- ▶ 相互のつながり。
- ▶ その前に隣人を知らず、近くの他人にもならないご近所とのふれあいづくりを急ぐことを。
- ▶ 家族だけでなく、近所の人との交流が薄くなっている。親子、近所の人との心の交流、ふれ合いが必要だと認識を深めることが基本ではないでしょうか。
- ▶ 福祉委員の増員（育成）。
- ▶ 災害時の行動、実際のボランティア経験談、体制（ボランティア集団の構築）と役割（必要なこと）の具体的なこと。
- ▶ 災害時の対処法。
- ▶ 災害時の対策。
- ▶ 大災害時の対応。
- ▶ 災害時の時の対応、避難所などのボランティアの仕方…。
- ▶ 自然環境の保全活動について。
- ▶ 自然や環境保護に関する活動。
- ▶ 久喜市内、道路等の一斉清掃を実施する。
- ▶ 時代と共に環境を配慮する生活が重視されているので、リサイクルや環境問題に配慮する生活を実生活で行なえるよう、お年寄りの方々にわかりやすく説明する指導員を養成してほしい。

- 毎年 500 円支払っているが、社協の存在自体、高齢者介護に関することしか知らない  
ので、何をしている団体かも広報する必要がある。
- 情報提供の充実。スタッフの役割の明確化。
- 講座の内容の周知。
- 困り事を相談したりされたり、助け合っていける、そんな場所や移動して相談を受け  
られる車等。
- 豪雪地帯の独居高齢者宅への雪下し作業支援の組織作りと派遣。有給支援グループ(フ  
リーター・職浪人・引きこもり若年層)。ボランティア支援グループ、資金支援グルー  
プ+支援相手自治体との友好市協約→茨城那珂市、現在行っており、冬にダンプ、ト  
ラックで雪を持って来て広場で巨大なかまくら祭を行っている。

問20 お住まいの地域で、ボランティアが必要だと思われること（内容）は、どんなことですか。

問20へのご意見として、237人の方から記載をいただきました。主な内容は次のとおりです。

### ■主な記載内容（お住まいの地域で、ボランティアが必要だと思われること）

- ▶ 高齢者でひとり暮らしの方々の安否確認ができたと思います。
- ▶ 高齢者の方への声かけ（話を聞いてあげる、相談にのる）
- ▶ ひとり暮らしの高齢者の家へ定期的に訪問して、何か困ったことはないか聞いてあげたり相談にのったり…等の定期訪問。
- ▶ 高齢者との会話（声をださせる、聞いてあげる）。
- ▶ お年寄りとのコミュニケーション、防災関係。
- ▶ 電話でもよいですが、少し話し合いになってくれることを希望します。
- ▶ 高齢化社会ということで近所で高齢者が増えているため、ひとり暮らしの方への声かけや日常生活に対しての手助け程度の交流が一番身近な、そして一番手のつけやすいボランティアだと思います。
- ▶ 簡単なお手伝い、話し相手など。
- ▶ お年寄りが気軽にお茶飲みのできる場があるといいのではと思います。
- ▶ ひとり暮らし高齢者が孤立しないよう、ふれあいの場をつくり楽しめるようにする。
- ▶ 問17の居場所づくり（ふれあい）が第一と思います。
- ▶ 高齢化に伴い、リタイアした方々が結構いるので「いきいきサロン」や住民とのふれあいの場をもうけてもらいたい。
- ▶ 地区ではある程度やっております。いきいきサロン、夏祭り、寺子屋体験など。
- ▶ 交流する機会が少ないので、そのきっかけづくり（祭りなど）
- ▶ 地域住民が自然と集まり、自然と活動がはじまるのが最も充実する活動だと思います。まずそこからと思う。何が必要かはそこから出てきたらそれでやってみることなのでしょう。
- ▶ 社交的な人にはそれほど仲間入りすることは苦ではないでしょうが、内向的又はひとり暮らしの方々への生活状態の把握が必要かと。（どうやって部屋から外に出させるかが今後の課題ですね）。人は人と交流しないとダメであるということ。
- ▶ 老夫婦（80歳以上）で暮らしている人たちに買い物ボランティア。電球を替えてくれるボランティア。
- ▶ 一人住まいや足の悪いお年寄りなどとコミュニケーションを取り、要望により、通院に付き添ったり買い物の代理をしてあげたりすること。
- ▶ ひとり暮らしの高齢者のお手伝い（買い物など）。
- ▶ 高齢者のみ世帯の買い物支援（手伝い）。
- ▶ お年寄りのごみ出しの手伝い・買い物の手助け・話し相手。
- ▶ 買い物に行くことが困難な人のために自動車による送り迎え。
- ▶ 高齢者に対する支援（買い物、送迎、家事）。
- ▶ 高齢者やひとり暮らしの方への生活支援（例：通院の送迎など）。

- ▶ 家事援助ボランティア、通院に困っている人が多いため、通院介助ボランティア。
- ▶ 買物に行く事が困難な人のための自動車による送り迎え。
- ▶ 病院の送り迎えほか。
- ▶ バリアフリーが少ないのでお年寄りの人のためにボランティアが必要かな。
- ▶ 移動のための足の確保。市内循環バスのコースから外れているので、高齢者の方は大変だと思います。
- ▶ 交通手段として1時間に数本の市内循環バスしかないため、送迎支援が必要だと感じる。
- ▶ 高齢者のために家具など動かしづらい物、高い所への取り付けをしてほしい。
- ▶ ひとり暮らしの高齢者の支援、サービスが必要です。世の中から孤立させてはならない方策が必要です。
- ▶ 体の不自由な高齢者やひとり暮らし、障がいのある人に対して、声かけ、買い物、ゴミ出し、医療機関の送迎など…が必要。
- ▶ 年配者の買い物→ネットで買い物のやり方を教える人。
- ▶ 障がい者の一人住まい（二人住まいも有）最優先して、相談、指導、老後の方向付けをしてやってほしい。
- ▶ 親切を素直に受け入れてくれるようなお年寄りが増えたら、声もかけやすい。社会全体が敵では？だまされるのでは？って思われるので声もかけづらい。そのあたりをボランティアってわかるようにお知らせすることが必要です。理解していない人が多いです。若いお母さん方も身勝手すぎて、みんなもう少し素直になればボランティアって名目もなく、自然に助け合い、笑顔が増える町になるのでは…と常に思っています。
- ▶ 年配のご家庭では切れない樹木の剪定、伐採（近隣住民が「切りましょうか？」と言うと関係が悪くなる場合があるので言い出しにくい）。野良犬、野良猫の保護、里親探し地域住民、皆が高齢者。そして子ども達を守る環境づくりが必要であり、住民参加活動を増やすこと。
- ▶ 高齢化や少子化（子どもが育ち、家庭を離れるなど）している団地住まいなので、家具の移動や粗大ごみの搬出に人手がなく困っています。そんな時、助けてくれるボランティアがいてくれたらと思います。
- ▶ センターや集会所になかなか行けない高齢者がおります。そういった家庭に訪問し、相談相手になったり、身の回りの世話（庭木の手入れなど）を手伝ったりするボランティアさんがいらっしゃればよいと思うのですが（一緒に軽い運動をしたり、近所の高齢者も集めて…）
- ▶ 高齢者のみの世帯が少しずつ増えていくので、健康づくり、生きがいづくりに携わる人がボランティアとしていてくれる。又は情報提供してくれるとよいのではないかと思う。
- ▶ ひとり暮らしのお年寄り世帯に様子を見に行ったり、話し相手になったり、民生委員の方がやっているとは思いますが、現在のようにお年寄りの割合が増えている状況では民生委員の方だけでは足りないのでは？ボランティアでも話し相手になるぐらいのことはできるかなと思います。堅苦しくボランティアと考えず、近所から遊びに来ましたという感覚でふれあえるようなシステムがあれば良いと思います。

- ▶ 子供たちが健やかな心でいられるように大人たちが見守れる活動。個々ではなかなか他人の子どもには手助けしてあげたくても親御さんの心中を気にして声をかけづらい社会的なムードがあるので、ボランティアという形になればそれが可能になる。
- ▶ 育児支援（一時預かり、相談）
- ▶ 空いた農地を借りて子どもを中心とした地域住民で農業体験、それをサポートするボランティア。
- ▶ 父子家庭などへのボランティア。障がいの人をかかえている家庭へのボランティア。
- ▶ コスモスロードの管理。班長になるとなかば強制参加です。体調の悪い時など非常に苦痛です。管理地区の自治会費に管理費用を上乗せし、その賃金で有償ボランティアを募り、管理してもらえるとありがたいと常々感じています。
- ▶ ゴミが公園やゴミ集積場にちらかっているとき。
- ▶ 生活道路や居住地区内用排水路の清掃活動。
- ▶ 公園の草むしり、木の剪定を定期的にしてほしい。
- ▶ まちをきれいにする。子どもたちのスポーツ育成事業、郷土の文化を伝える。
- ▶ 小・中学校の通学児童の同行、重要箇所の立会い。
- ▶ 防犯パトロール、不審者への対策。
- ▶ 深夜の地域巡回！
- ▶ 災害時の協力ができるシステム。
- ▶ 災害時支援。
- ▶ 災害時の協力。
- ▶ 災害など緊急時に対応できる人の育成。
- ▶ 災害時、現実に起きた時に連携が取れるか、地域に住み人たちの協力や備えに対する意識を高められる関係がつかれるようなことが必要だと思う。
- ▶ 結婚相手がいないという話がありますが、それを世話する又は場所、社協でやっているみたいですが回数を増やしていただきたいです。

### （住民参加型のサービスについて）

問21 今後、ボランティア活動はもとより、住民が参加でき、住民が住民を支えるサービスや仕組みを作ることによって、地域で安心して生活でき住み続けることができる地域づくりの一助となると思いますが、実際に「こんなサービスがあったらいいな」「こういうことなら参加ができそうだな」というお考えがあったら、お聞かせください。

問21へのご意見として、「こんなサービスがあったらいいな」には164人、「こういうことなら参加ができそうだな」には、141人の方からそれぞれ記載をいただきました。

主な内容は次のとおりです。

#### ■主な記載内容（こんなサービスあったらいいな）

- ▶ひとり暮らしの安全、元気の確認。
- ▶高齢者、障がい者のための訪問。
- ▶高齢者のひとり暮らしの話し相手。
- ▶高齢者への居宅訪問。
- ▶困った事を相談する人がほしい。
- ▶気軽な相談場所。
- ▶24時間電話相談。
- ▶24時間365日住民が相談できる窓口。
- ▶まずは市のホームページ等で、簡単にサービスを検索できるサービスから。
- ▶今はネット社会なのでパソコン、携帯を使うもの。（市役所のホームページはパソコンのみ対応なので不便です）
- ▶悩みを聞いてくれる。（インターネットなど）
- ▶ふれあい電話サービスがすでにありました。
- ▶悩みや心配ごとがある人が気軽に話せる電話サービス。
- ▶電話でも良いですから少し話し相手を希望します。
- ▶ひとり暮らしになった時に1か月に1回でも2分～3分の短い時間でも言葉が話せたらうれしいと思います。（電話）
- ▶食事の宅配サービス。
- ▶高齢者へのお弁当のサービス。
- ▶地域に住まわれている高齢者の方々を月1回か隔月に集まっての食事会。
- ▶ボランティアの人々で作った料理をみなさんにふるまうサービスがあったらいいと思います。
- ▶近所に買い物するところがなく、車を出さないと買い物にも行けないので、代行や移動販売などのサービス。
- ▶ショッピングなどのツアー（車が運転できないお年寄りには買い物とか行きたくても足がなく、かわいそう）。
- ▶家事、買い物、付添代行サービス。
- ▶老後になってからの病院への送り迎え。重いものの買い物代行。

- ▶ 買い物代行や乗り合いタクシー。
- ▶ 買い物サービス、送迎サービス。
- ▶ 御用聞きサービス、商店ではなく、ボランティアで。
- ▶ 高齢者で外出することが困難な方などの代行。
- ▶ 食料品の買い物サービス。買い物難民のために。
- ▶ 買い物支援サービス（高齢者、障がい者）。
- ▶ 高齢者の買い物支援制度など。
- ▶ テレビ等で買い物難民の話がでていますが、よくスーパーにタクシーで買い物に来ている人がいます。なかなか近所の人には頼みづらいところがあると思いますので、送迎の車があったら良いと思います。
- ▶ 買い物や駅への送迎のついでに、スーパーや駅に連れていくサービス。
- ▶ 病院通院の方への足を提供（車運転者）。あったら参加したい。
- ▶ 高齢者が気軽に何でも困った事など相談できて、ちょっとしたことなら近隣の方々に手助けしてもらえるサービス。
- ▶ 福祉に関係があるかわかりませんが、ちょっとした頼みごと（今はまだよいのですが、もう少し年をとったら電球を取り替えたり、ちょっとしたことが頼めたりする係があるといいなと思います）。
- ▶ 高齢者が気軽に、簡単に身の回りの事をお願いできるサービス。産前産後のお世話。
- ▶ 高齢者（一人暮らし）が緊急時に電話等で病院や公共施設に直接助けを求められるようなシステムがあるといいと思います。
- ▶ 地域の高齢者、障がい者で一人暮らしの方の安全、安心を確保できるようなサービス。
- ▶ 現役介護福祉施設職員による家庭でもできる介護方法などの講座。自宅介護の仕方がわからない方も多いと思うので。
- ▶ 突発時の介護が条件なしで利用できる体制。
- ▶ 老人ホームなどにドッグセラピー犬の派遣があったら心が豊かになったり、感情豊かになれると思います。
- ▶ 子どもから高齢者まで取り組める健康づくりのプログラムの提供。
- ▶ 戸別ゴミ収集サービス（高齢者宅）
- ▶ 大掃除の手伝い。
- ▶ 家具の移動。草とり。
- ▶ 家具の移動を手伝ってくれるサービス（家族内に男手が一人のため）や粗大ゴミを出すときに手伝ってくれる人。
- ▶ 重たい荷物（お米など）を車やバイクで運んでもらえると助かる家庭が増えると思います。
- ▶ 帰省中の夏の庭の花の水まき作業、2～3日朝夕。花などだけ。野菜などは技術が必要だと思うので。
- ▶ 気軽にお茶のみ、雑談、合える場が欲しい。そこでは初めての人も入れる「場づくり」のリーダーがいてほしい。（例：女性）
- ▶ ある程度元気な高齢者が気軽に参加できる身近な趣味や運動などできる交流の場があれば、と思います。（高齢者が引きこもらないために）



- ▶ 囲炉裏端的なぬくもりのある集会場。その場で陶芸をやったり版画をやったり、そこから会話が始まるのでは。
- ▶ お年寄りが集まれる場所を作ってあげられたら、楽しみや生きがいがあると思います。1人にしない事が大切だと思います。
- ▶ 年配の方や若者（10～20代）、主婦などがそれぞれの立場から感じる日々の思いを語るスペースの設置。
- ▶ 気軽に行ける「家」があったらいいですね。「家」は公民館ではなく町でつくる「家」。公民館ってなかなか入りづらかったり、もっとアットホームな感じで自宅まで迎えに来てくれたり、誰もが利用できる。
- ▶ 地域の人が自由に出入りできる場所を確保してもらい、井戸端会議のように話ができる場所があると良い。
- ▶ 主婦会、（例：お料理教室、掃除の仕方）など、おばあちゃんの知恵袋的なことをみんなまで教え合える場、会など聞く。
- ▶ 高齢者が家族にいますので、何か楽しい集いやおさそいがあるといいと思う。
- ▶ 自治会センターを利用して、公演とか何か色々（芸）をやってくれる人がいたらお願いするとか？
- ▶ 交流できるような行事などあれば。
- ▶ 小さい子から高齢者まで参加できるイベントの開催。
- ▶ 自分の特技や趣味が活かして自由な日に参加できる、そんな催しものがあればぜひ。土・日・祝日以外で利用できるもの。
- ▶ 何事も話し合える人と人との関係づくりを進める。
- ▶ 子どもを1時間とか短時間で預かってくれるサービス。
- ▶ 子どもを短時間預けられるサービス。気軽に利用できる形で。
- ▶ 子どもを預けられるサービスなど（一時預りなど）
- ▶ 子どもを短時間預けるサービス。ベビーシッター的なもの。
- ▶ 子育て経験者が悩みをもつ子育て中の家庭にボランティアで手伝いへ行くサービス。
- ▶ 子供が安心して遊べる場所を提供。すぐ利用できるサービス。（どんなことでも）
- ▶ 保育園の迎えに間に合わない時の迎えと親が帰ってくるまでの子供の面倒を見る。
- ▶ 小学校低学年や中学年で急用が起き、放課後どうしても1日だけ子どもを預けたいと言う時、預かってくれる所があれば助かるのではないかな。
- ▶ 高齢者など家に車がないとき医者に行く足の確保。
- ▶ 高齢者や障がい者のための市内巡回自動車（大きさは必要数に応じて。高齢者の買物、役所等への往復、障がい者の作業への送迎）
- ▶ 現在通院の際、タクシー利用をしているが、ふれ合いサービス、※福祉有償運送で格安に通院できることを希望しております。早急に実施してほしいです。
- ▶ 小回りのきくバス。
- ▶ 市内循環バスの数を増やす。循環ではなく、右回り、左回りも分けてほしい。
- ▶ 幸手市のように民間バスを走らせてほしい。（一律150円だと思います）車運転のできない人や（徐々に運転できなくなる）タクシーで行くには短距離であるとか～様々な理由あり。桜田在住なので、ここから鷲宮～久喜～栗橋など巡回バスがあるとよい。「古河市」でもやっている。（無料）→市で。

- ▶ 不登校や家庭内暴力への対応窓口。
- ▶ 健康維持、増進のための施設。ただし、本格的なジムではなくてもよい。空き教室を利用し、手軽にできるジムの設置。
- ▶ 外灯を増やしてほしい。場所によって暗い。夜間も市役所をやってほしい。土日もやってほしい。
- ▶ 障がい者の携帯電話、インターネット教室。
- ▶ 小・中・高生の勉強かけ込み寺、勉強相談室、図書館で分からないところを教えて上げるようなサービス。
- ▶ 安く畑を貸してもらって、野菜、花づくりなどを行い、たくさんできた分を安価で直売する。作りたい人とほしい人をつなぐサービス。お医者さんの指導のもとで行う体操教室。
- ▶ 地域体操の指導。
- ▶ 元Jリーガーや元野球選手によるスポーツ教室。
- ▶ 最低限、防災関係を整えてほしい。
- ▶ ボランティア貯金（時間の）などでできる時に参加をして、自分が助けてもらいたい時に時間貯金をした分は無料で受けられるなど。
- ▶ ボランティアバンクのようなものがあったら良いと思います。してほしいこと、相談したいことを登録する場所、支援できること、相談に乗れることを登録できる場所、メール、電話、郵送で登録し、市がこれを橋渡しするようなシステムがあればよいと思います。また、広報やホームページでその実態を見ることができればよいです。
- ▶ 煩雑な行政への手続きなどを一緒にやってくれる人。
- ▶ なんでも引き受ける便利屋的なサービスをボランティアで組織できればと思う。
- ▶ 行政について情報があまり入らない為（毎月配布されている区長、班長のお知らせはあまり見てない）久喜駅等にお知らせボックスを設置するとか、工夫して知らせる。
- ▶ 障がいのある子が病気などをするとどの病院にかかるか迷います。“この病院は理解がある医者、看護師がいますよ”というようなマップとかあるといいなあと思います。
- ▶ メルマガにて、久喜市のボランティア活動の予定や募集などを配信してほしい。
- ▶ 困ったときどこに相談したらよいのかがわからないので、福祉サービスについて表などがあると頼みやすくなる。ボランティアさんにやってもらえることもわかると気軽に利用でき、住みよいまちと感じる。
- ▶ 社協ではどんなサービスを実施しているかがわからないので回答できません。ただサービスを受けるために移動手段として有償ではなく、無償にしたら良いのではないか。
- ▶ もう少し年を重ねないとサービスの重要（もしくは必要性が生じないと）わからない。
- ▶ サービスを受けたことがないので思いつかない。

## ■主な記載内容（こういうことなら参加ができそうだな）

- ▶ひとり暮らしの高齢者を孤独にしない声かけ。
- ▶土・休日などに独居の高齢者の安否確認や家庭内の製品の簡単な修理などお買い物のお手伝い、お話し相手。
- ▶サロンでの話し相手。
- ▶ひとり暮らしの方への話し相手（自分もいつそうなるかわからない時代だから）
- ▶話をききに行くとか、見に行くとか。
- ▶話し相手。話しを聞くこと、家のまわりの清掃。お買い物、お掃除。
- ▶ふれあい電話サービスならできそうですけど、どこに行ってもどのような人がやるのかわからない。
- ▶電話サービス。
- ▶電話の受け手。
- ▶お年寄りの買い物。
- ▶お年寄りの方の代わりに買い物。
- ▶送り迎え、ごみ出し、草むしり。
- ▶買い物支援サービス（高齢者、障がい者）。
- ▶電球交換等、短時間の支援。
- ▶家事、買い物、付添代行サービス。
- ▶買い物やレクリエーション的な活動。
- ▶お年寄りへのちょっとした手伝い（ゴミ出しなど）。
- ▶簡単な家事。
- ▶料理が好きなので、作ること。
- ▶近隣住民（高齢者・障がい者）への家事手伝い等。
- ▶老人ホーム等の施設で体験。（どんな内容、何が必要、問題点などを知る）
- ▶病院の送迎、買物、話し相手、子どもの一時預り、老人ホームのボランティア。
- ▶毎日ではないが、買い物や駅への送迎（時間は様々）で、時間が合えば、協力していきたい。
- ▶体の弱い高齢者や障がいのある人が一人で移動又は交通機関を利用することが困難に場合の支援他、バザー活動等。
- ▶福祉運送。
- ▶無償での介護福祉体験。
- ▶高齢者だけで農作業ができない人の手伝い。
- ▶以前自治会で子供を主にしたお祭りがありました。運営者はほとんどがお年寄りでした。もう少し若い我々のようなお父さん、お母さん世代（20～40代）が中心に動いて子どもやお年寄りが交流できるような会があったらいいかな？
- ▶ひとり暮らしのお年寄りの話し相手、子育て中のママの悩みをきくこと等。
- ▶育児の悩み等の相談なら聞くだけは聞いてあげられると思う。
- ▶子どもさんの預かり、ひとり暮らしの人の話し相手。
- ▶子どもと一緒に活動ができ、時間が短いもの。
- ▶寺小屋風子ども保育。
- ▶絵本の読み聞かせ。

- ▶ 音楽を聞かせてあげたり、歌を一緒に歌ったりすることをしてあげたいです。(特に小さいお子さん、お年寄りなど)
- ▶ 公民館の正月しめ縄作り教室に参加。その時門松の作り方を尋ね、自作3年目です。小学校、自宅、デイケアと3対作り、喜ばれています。250坪の竹林を整地して行ったので(隣家へ竹根侵入のクレームのため)竹の提供者あれば教室開催可能。
- ▶ 住民とのふれあいを地域の公民館、集会所などでできるといいと思います。おしゃべり会、得意なもののおすそわけ(手芸、料理、朗読、健康体操、日時を決めて参加できる人がウォーキングやラジオ体操をする。…など)
- ▶ 親子三世代で参加できるような大会があったらいいと思う。例えばゲートボール大会など…。
- ▶ 日本語が話せない人の練習相手(会話)・障害のある人たちの運動支援(プールなど)
- ▶ 健康づくりのための教室。
- ▶ 市道整備、清掃、草取り。
- ▶ ごみ拾い。
- ▶ 月に何回かの清掃活動。
- ▶ 高齢者の支援、環境保護。
- ▶ 花壇の整備。
- ▶ 植木の手入れ。
- ▶ 地域の清掃活動など。
- ▶ 趣味的な座学。
- ▶ 募金活動。
- ▶ 回覧板などを活用して、各家庭に必要なものを聞いて回ること。
- ▶ 児童の登下校時間帯に通学路、人気のない所を見回る
- ▶ 地域の環境美化
- ▶ 防犯パトロール。夜間パトロール。
- ▶ 防犯、防災に関する講座。
- ▶ 防災訓練、赤ちゃんのいる母親の手助け。
- ▶ 災害とか高齢者、障がい者など、集まりがあった時、炊き出し(食事の用意)の手伝い。
- ▶ 何でもできます。困っていれば助けます。
- ▶ 高齢者のできる事なら全て。
- ▶ 実際に生活する中で簡単にできるもの、大々的でないものは参加できそうです。ゴミ出し、車での送迎、子どもの下校時の見守り。
- ▶ 小さい子どもがいても参加しやすいボランティア活動。住民ではない自分の友人も参加できる。
- ▶ 自分も高齢者の年になっていますが車はまだ運転できますので、ボランティア又は住民参加の一人に登録し、当日電話依頼で動ける時は内容によってできそうなことは参加したい。
- ▶ 特別な技術がなくても役に立てること。自分の資格を役立てられること。(たとえば車で送るとか)
- ▶ 時間的に厳しいので家族の食事にプラスして食事を作る。(量を増やすだけなので、できるかな?)

- ▶日時を決めてペアを組み、その地域の人と一緒に各訪問できるよう、システムを定期的に組んで予定を立てていただければ、何かの役に立つこともあると思っています。
- ▶自由参加みたいな軽く参加できるもの。
- ▶必要な研修が受けられて、時間を限定されないようなものなら何でも。
- ▶活動している方の付添による参加。
- ▶時間の拘束がなく、人の役に立っていると思えることならば参加できます。
- ▶仕事をしているので時間的制約を受けないでできること。
- ▶時間的に自由に参加できるような活動。(現在働いているため)
- ▶家が近い所でボランティア活動があれば行きたいです。
- ▶運動したくても仲間がいない。そんな人たちが集まれる場所があれば参加したい。
- ▶夜(21時以降)から活動できる内容。
- ▶Web(インターネット上の)サイトを使用した活動。
- ▶メールフォームから住民の意見を述べられるようなもの。今の市役所の人間はこういうことに疎(うと)い。
- ▶身体が効かず、本を読むこと(音読)、字を書くことが好きだが。
- ▶現在ガンのため、必要参加を感じながら何もできない事がくやしい。
- ▶交通費がかかるのでひとり暮らしや高齢者は参加したくてもできない。
- ▶住民(全員、できる限りの)参加型協議会。
- ▶実際に自分が困った時に始めてわかるのかもしれませんが。現時点では思い当たりません。

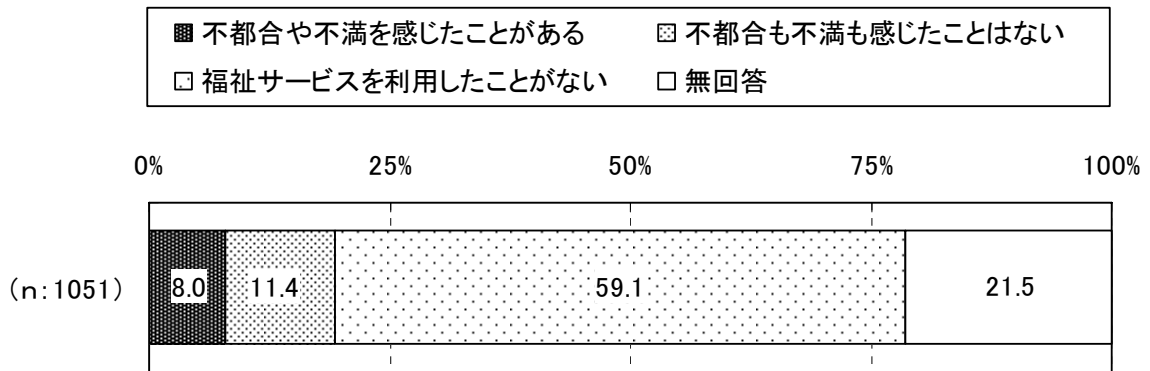
**(福祉サービスの利用について)**

問22 あなたやご家族は、福祉サービスの利用に関して、これまでに不都合を感じたり、不満に思ったりしたことはありますか。(1つ)  
不都合や不満を感じた理由は何ですか。

「福祉サービスの利用時の不都合や不満の有無」では、「不都合や不満を感じたことがある」が8.0%、「不都合も不満も感じたことはない」が11.4%となっています。

「不都合や不満を感じたことがある」を居住地区別にみると「清久地区」、「静・豊田地区」、年齢別では「30歳代」の割合が高くなっています。

■不都合・不満を感じた経験



■不都合・不満を感じた経験（地区別・年齢別）（単位：人、%）

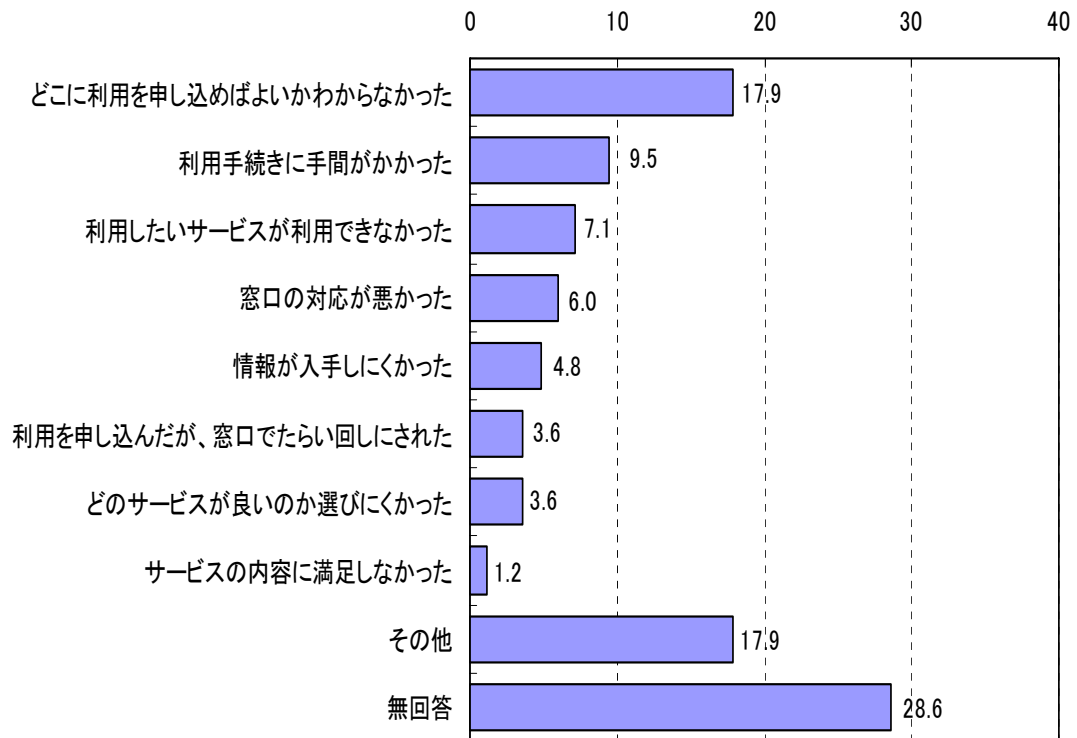
		n	不都合や不満を感じたことがある	不都合も不満も感じたことはない	福祉サービスを利用したことがない
全 体		1,051	8.0	11.4	59.1
居住地区	本町地区	112	3.6	11.6	63.4
	中央・南地区	49	▼ 2.0	16.3	△ 69.4
	東地区	58	3.4	6.9	☆ 74.1
	太田地区	114	11.4	14.0	56.1
	江面地区	33	▼ 3.0	▼ 6.1	▼ 51.5
	清久地区	22	△ 13.6	13.6	▼ 45.5
	菖蒲・三箇地区	88	11.4	10.2	56.8
	小林・栢間地区	31	9.7	☆ 29.0	★ 41.9
	栗橋・伊坂地区	113	5.3	15.0	58.4
	静・豊田地区	69	△ 14.5	7.2	56.5
	鷲宮地区	111	9.9	11.7	56.8
	桜田地区	126	9.5	7.9	△ 70.6
年 齢	20歳代	101	11.9	△ 16.8	62.4
	30歳代	132	△ 13.6	7.6	△ 67.4
	40歳代	151	6.6	▼ 5.3	△ 72.2
	50歳代	158	7.0	15.2	63.3
	60歳代	198	5.6	13.1	59.6
	70歳以上	193	8.3	12.4	★ 43.0

不都合・不満を感じた理由では、「どこに利用を申し込めばよいかわからなかった」が最も多くなっています。

■不都合・不満を感じた理由

(n:84)

(%)



※複数回答



■不都合・不満を感じた理由（地区別・年齢別）（単位：人、％）

		n	どこに利用を申し込めばよいかわからなかった	利用を申し込んだが、窓口でたらい回しにされた	利用手続きに手間がかかった	窓口の対応が悪かった	情報が入手しにくかった	どのサービスが良いのか選びにくかった	利用したいサービスが利用できなかった	サービスの内容に満足しなかった	その他
全体		84	17.9	3.6	9.5	6.0	4.8	3.6	7.1	1.2	17.9
居住地区	本町地区	4	△ 25.0	-	-	☆ 50.0	-	-	-	-	-
	中央・南地区	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東地区	2	-	-	-	-	-	-	-	-	☆ 100.0
	太田地区	13	△ 23.1	-	-	-	△ 15.4	-	7.7	-	△ 23.1
	江面地区	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	清久地区	3	☆ 33.3	-	☆ 33.3	-	-	-	-	-	-
	菖蒲・三箇地区	10	▼ 10.0	△ 10.0	☆ 30.0	-	-	-	10.0	-	▼ 10.0
	小林・栢間地区	3	☆ 33.3	-	-	-	-	-	☆ 33.3	-	-
	栗橋・伊坂地区	6	-	-	-	△ 16.7	-	△ 16.7	☆ 33.3	-	-
	静・豊田地区	10	20.0	-	10.0	-	☆ 20.0	☆ 20.0	-	-	20.0
	鷺宮地区	11	△ 27.3	-	△ 18.2	9.1	-	-	-	-	18.2
	桜田地区	12	△ 25.0	△ 16.7	8.3	8.3	-	-	8.3	△ 8.3	-
年齢	20歳代	12	16.7	8.3	△ 16.7	-	-	8.3	8.3	-	16.7
	30歳代	18	16.7	△ 11.1	5.6	-	△ 11.1	-	5.6	-	16.7
	40歳代	10	△ 30.0	-	△ 20.0	10.0	-	-	10.0	-	▼ 10.0
	50歳代	11	18.2	-	9.1	△ 18.2	9.1	△ 9.1	-	-	-
	60歳代	11	△ 27.3	-	-	9.1	-	-	-	-	18.2
	70歳以上	16	▼ 12.5	-	12.5	6.3	6.3	6.3	△ 18.8	△ 6.3	▼ 12.5

※複数回答

問23 地域福祉を進めていく上でご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

問23へのご意見として、164人の方からそれぞれ記載をいただき、次のとおり項目別に整理させていただきました。

## ■意見・要望（地域福祉を進めていく上で）

### ◎福祉制度・サービスについて

- ▶ 周囲に単身の高齢者がいるかいないか把握しているだけでも今よりいいと思う。プラスその人への援助ができれば、作りすぎた食事の提供など。だけど、税金等上がるのは困る。（女性：20～29歳 本町地区）
- ▶ 地域福祉を充実させていくためには、行政が責任を持って行うことが大切である。認知症の人や障がいのある人は、福祉サービスを受けたくても行政の手続きが煩雑すぎてわからないし、診断書等、お金のかかる書類もある。そのような経費等は行政が負担するなどして、スムーズに福祉サービスを受けることができるようにしたらいいと思う。手続きなども「福祉委員」等が自宅に来て一緒に行くなどのサービスが必要である。（男性：40～49歳 本町地区）
- ▶ 高齢者に対する、福祉制度の充実（税金の課題もあるが）が今後の課題であると認識している。そのためにも介護保険制度の更なる論議もあるだろう。また、増加の一途となるひとり暮らし高齢者への支援等充実させる必要がある。格差社会の中でボランティアだけでは限りがある必然的に生じるであろうし、行政の大きな支援が必須である。（男性：50～59歳 本町地区）
- ▶ 真剣にその人が望むことがなんなのかを聞ける場であってほしい。（男性：50～59歳 本町地区）
- ▶ 福祉は行政が担うのは当然だと思いますが、日本の古い慣習であった隣近所の助け合いがなくなり、さびしいニュースが聞かれる昨今です。町内会に加入されない若い方々も多く、隣に誰が住んでいるのかもわかりません。個人情報流出も怖いしプライバシーの尊重のため、本当に困っている方に行政の手が届かないのは、自分の未来を見ているようで、不安になります。地域の和を推進していくにはこれといって良いアイデアも生まれません。アンケートに答えていることで考えていきたいと思いました。（女性：60～64歳 本町地区）
- ▶ 私と夫も前期、後期の高齢者ですがまだ親がおります。離れて住んでおり家事援助を受けており、助かります。下に書いてある「ふれあい電話サービス」など高齢者にはとても良いと思います。また、ゴミ出し等も独居の高齢者は助かると思います。（女性：70～74歳 本町地区）
- ▶ 地域福祉を進めていく上で、住民参加、地域協働は大切です。住民一人ひとりのニーズに行政が中心となって、関係機関と連携しつつ、対応して行ってほしいと思います。従来のやり方だけでは対応できなくなってしまったところがあるとすれば、それはどこに問題があるのか、ボランティアやNPOや地域の住民と共に知恵を出し合っていくことが必要だと思います。支援活動をしている団体や、個人に対して行政の応援があると心強いですので、よろしくお願いします。（女性：50～59歳 中央・南地区）

- ▶ 社会的弱者を支援していくことは地域と言うより国として行うべき当然なことであり、国の義務だと思うので、地域福祉は地域だからこそできることに重点をおくべきだと思う。私個人としては地域に愛着を持てれば自然発生的に地域福祉は深まっていくと思うので、住民が久喜市にただ住んでいるだけで、無関心にならないように働きかける活動を進めるとよいのではと考えている。たとえば学校が中心となって子どもたちに清掃活動をしてもらったり、高齢者や障がい者と共に行えるイベントを定期的で開催したりなど、そういった活動を行政に指導してほしい。そういった活動が活発になれば地域福祉に興味がうすい住民も意識が向上していくと思う。子どもや高齢者が生き生きしている地域の住民はその市町村に住んでいることへの意識が高いはず。地域福祉がいいサイクルで回り出すためには、まず、住民が参加していくきっかけが一番重要ではないだろうか。今現在において、久喜市は高齢者に対しての福祉は良い方だと思うので現状維持していくためにも子どもの地域福祉の意識向上はとても大切なことだと感じています。  
(女性：40～49歳 東地区)
- ▶ 高齢者の足の確保。安否の確認。  
(女性：50～59歳 東地区)
- ▶ 地域福祉 “を進める上で最も重要なことは時間がかかること、低年齢児にその重要性を理解させることだと思います。私は米国に駐在しておりましたが、小学校でボランティアについて時間を割いており、高校生ではかなりの時間を使い実践していました。あまり不平、不満は出ずにやっているように見え、とても積極的に感じました。これは低年齢児に教育を受けさせたことによる結果だと思います。ぜひやっていただきたいと思います。  
(男性：40～49歳 太田地区)
- ▶ 本当に困っている人は有料の福祉を利用するのも大変なことだと思うので市の unnecessary 経費、人件費を見直して利用しやすい福祉を進めてほしい。  
(男性：50～59歳 太田地区)
- ▶ 弱者のニーズを把握することが必要では。  
(男性：60～64歳 太田地区)
- ▶ 地域福祉・社会福祉協議会・地域包括支援センター・介護保険によるサービス・窓口・利用方法・申請の有無いろいろ違うと思いますが、それぞれよりよい活動ができ、つながることができる、防災ネットができそう。  
(女性：50～59歳 江面地区)
- ▶ 点字や、手話の養成をもっと多くの人に教える講座を積極的にしてほしい。  
(女性：50～59歳 江面地区)
- ▶ 市内で、高齢者が何人いるのか、わかりません。もっと高齢者のことを知ることから始めないと一人ひとり意識がわかないと思います。市内もしくは旧市、旧町で60歳代、70歳代、80歳代～の人数を知るべきだと思います。障がい者の人数を知るべきだと思いますが、障がいのある方で嫌がる方もいると思うので、アンケートなどをとるなどしてみると良いと思います。住民による協力を考える前に公務員の方々が考え、やるべきだと思います。  
(女性：20～29歳 菖蒲・三箇地区)
- ▶ 何かを必要としているか、そのことを気軽に伝えられる場所が必要だと思います（今あるのであれば住民みんながわかるようにしておくべき）。少なくとも私は今現在知らないです。それにより必要としている人に必要なサービスやボランティアを派遣するなりできると思いますが。我が家では今後、学童保育が必要になると思うので将来、地域や国を支えていく子どもへの支援を充実して欲しいです。  
(男性：40～49歳 菖蒲・三箇地区)

- ▶ 個人が自分の生活を成立させてから、気軽に困っていることを相談できる窓口を開き、それぞれのセクションやそのサービスを（無料でも有料でもかまわないので）できる電話サービスがあると良いと思われる。電話を受けたサービスの電話をその困難度に応じて、確認できる人々も必要かも知れない。地方自治体が今後ひとり暮らしであろうひとたちの共同生活を支援することも必要かと思う。個人の生活を干渉しない程度に交流を保つ取り組みもあると良い。2010年に国の補助が出て、老人向けの介護は、賃貸住宅が増えていると聞いている。ここに民間だけのサービスではなく監視、監督のシステムを確立すると良いと思う（福祉を食い物にする悪徳業者の横行を防ぐ意味で）。以下のサービスをよく知らずにいた。（女性：40～49歳 菖蒲・三箇地区）
- ▶ ひとり暮らしで子どもがいないので訪ねて来る人が少ない方には市の福祉の見守りを強化してください。子ども・孫などたずねて来る人とは生活上の不安度が違います。（女性：60～64歳 菖蒲・三箇地区）
- ▶ 私の困ることは蛍光灯を替えること。困っていることを聞いて取り替えていただけたらいいなと思います。有料でいいので困っていることを助けてもらえる所があるといいと思います。（女性：70～74歳 小林・栢間地区）
- ▶ 様々な行政サービス全般に言えることだが、制度として存在しているが、実際に利用しようとする「手続きが面倒である」「複雑である」「条件が厳しい」等々、敷居が高くなかなか実際に利用が進んでいないということがありがちである。そのためにも市民に対する周知を徹底するなどの対策を講じ、平等に一律な福祉を受けられるようにしてほしいものである。（男性：30～39歳 栗橋・伊坂地区）
- ▶ 心身に障がいのある方に安心して暮らせるよう現状を十分把握した上できめ細かな施策を講じてほしい。（女性：40～49歳 栗橋・伊坂地区）
- ▶ デイケア施設のことですが、他の地域の施設は、定員が満杯ですか。栗橋地区の施設は定員割れをしています。その原因と対策をしていただきたいと思います。障がいのある人が楽しく喜んで通所ができる施設を目指していただきたいと思います。（女性：50～59歳 栗橋・伊坂地区）
- ▶ かしこばって活動というのはどうかと思う。福祉って言葉もあまり好きじゃないです。どうしてもリーダーや行政が…って話になりますが、決して「かゆいところに手が届く」ことなどないです。なんでも有料になるわけで本当の福祉は助け合いです。理想かもしれませんね。（女性：50～59歳 栗橋・伊坂地区）
- ▶ 地域で集まる機会を多くし、誰とでも気軽に話ができるような状況を作る。そのための実費補助を市が行う。（女性：60～64歳 栗橋・伊坂地区）
- ▶ 高齢化、少子化が進む中、ひとり暮らしの高齢者、高齢者夫婦世帯の割合は増加している。一方、団塊世代の定年退職も急速に増え、体も頭も健康な人が多い。この世代の人たちがもっと社会に貢献できるような地域福祉のシステムづくりを考えたらどうか。幸い久喜市は自然災害が少ない地域であり、ボランティア活動も地域の健康と福祉に特化した活動を推進すべきと思う。（男性：60～64歳 栗橋・伊坂地区）

- ▶地域福祉活動の必要性について、自分も含めて必要と漠然と思っている方は多いのではないかと考えます。ただ現実何をいつ、どうすれば良いかと思うと分からず、行動も伴いません。難しいかもしれませんが、まずは行政指導でこのようなアンケートを含めて、地域で住民が何に困って何を欲しているか、どんな手助け方法があるのか、どんな手順でそれが実現できるのか等、教示してほしい。

(男性：65～69歳 栗橋・伊坂地区)

- ▶後期高齢者といわれる年齢を7、8年も過ぎていますが、ただの一度も役所からも民主委員からも体調等について訪問していただいたことがない。幸い生死に直面する程のことはなかったが、いつも疑問に思っていた。障がい者の施設への送迎も、近くに業者さえもなく、20km位離れた市の方に依頼して来ている。市町合併に期待していたが全く変わらない。お知らせ、ポスター等の文字は大きく文章は簡潔にしてください。

(女性：75歳以上 栗橋・伊坂地区)

- ▶福祉を受ける側としては、やはりお金がかかることへの不安が一番あると思う。その不安をなくすためには情報提供はもちろんのこと、人材育成にもかなり力を入れなければいけないと思います。健全な人はバリバリ仕事をしていて福祉に関する意識もうすいと思うし、興味だけでは福祉なんてできない。身内の方がどうしてもお世話できないときの、身内以上のことをしてあげなければいけない仕事としてつながるには、依頼者よりも受ける側の人材選びに課題があると思います。例えば福祉科の学校や病院などとタッグを組むとか…1から基礎をたたき込んで育てるよりも意識のある教養のある環境から、人材を選び育てた方が良くと思います。

(女性：40～49歳 静・豊田地区)

- ▶高齢者や、障がいのある方たちの家族が利用しやすいような車の貸し出し。低所得者の家庭に車やベビーカー、チャイルドシート等の無料貸し出し（車なら1日いくらと決めて）。ひとり暮らしのお年寄りに月1回の訪問サービス（声かけ、悩み相談、必要なことなど何が提供できるか話し合い）。誰でも利用できる大きな「家」。核家族になり身近に知り合いもいない、1人で息詰まっている。母親、中・高校生、お年寄り、障がい者等、気軽に集まれる「我が家」、そんなコンセプトの大きな施設。足のない人には送迎車もある。いろんな場所にあるといいですね。

(女性：30～39歳 鷺宮地区)

- ▶60歳以上の方々で定年退職をされ、まだまだ元気で働きたいけれど職場がない、家でぶらぶら遊んでいるのはいやだという方たちを多く見受けます。たくさんの経験といっぱいの才能、それらを伝授したり、心の交流が持てるような場を作れたらいいなと思います。若者、子ども、世代を超えて交流。そこから何か生まれてこないでしょうか。

(女性：50～59歳 鷺宮地区)

- ▶障がい者のいる親が入院、または死亡した時など、残された者を一時的に預かっていただけところがあつたらと思っています。身寄りのない者にとっては切実です。

(女性：60～64歳 鷺宮地区)

- ▶福祉社会の現在いろいろとありがたい制度が多くあり、助かることもあり、大変良いことだと思っています。自分もいつかお世話になることもあると考えています。それでも自分は他人頼みでなく自分で出来ることは頑張りたいと思っています。現在は制度を悪用したり頼りすぎるような気がします。本当に困っているひとたちの福祉であってほしいと思います。

(男性：65～69歳 鷺宮地区)

- ▶ 高齢社会が進み、若い世代の負担が増えているように思えます。情勢的にも経済的にも、私たち（20～30代）の世代に期待するのは酷だとも思います。まずは、自治体を主導にした買い物サービスや回覧板による安否の確認、地元の警察を利用した家庭の見回り、ボランティアの協力による夜間の見回り等、横のつながりを重視した地域づくりが必要だと思えます。体感、治安が上がれば近隣住民同志の関係も良い方向に向かいますし、長い目で見れば若い世代もその土地に来やすくなり、高齢者を助けられる環境もできるのではないかと思います。（男性：20～29歳 桜田地区）
- ▶ 子育て世代のために、もっときめ細かいサービスが必要なのでは。住んでいる地域によって不便だったりして（少し遠かったり）利用したくても利用できないことがあるのではないのでしょうか。地域というより、もっと小さな単位でのサービスだったり、気軽に集まれる場所だったりがあるといいのではと思います。（女性：30～39歳 桜田地区）
- ▶ 学童クラブは小学校3年生までだが、4～6年生も心配なので6年生まで学童クラブがあると助かります。（女性：30～39歳 桜田地区）
- ▶ 市ごとに福祉のサービスが違うのはおかしい。他の市のいい所を積極的に取り入れる久喜市は、もっと障がい者のことを考えてほしい。ガソリンの助成はありがたいがガソリンスタンドが特定されているのはおかしい。しかも大半がセルフ。加須のように申請制にしてみてもは。（女性：30～39歳 桜田地区）
- ▶ 少しは費用がかかっても良いので、家具の移動及び短時間の手伝いが気軽に利用できる制度や、自分の余裕ある時間に手伝いや修理など必要としている人の情報がわかる制度があればいいと思います。また短時間のベビーシッターや独居高齢者の手伝いなど気軽に利用できるサービスを充実してほしいと思います。（男性：50～59歳 桜田地区）
- ▶ 上から目線で、財源がなければ運営できないような地域福祉は必ず失敗します。各地域自治会を活用し、自然体で長期的に行える仕組みづくりが何よりも大切であると考えます。（男性：50～59歳 桜田地区）
- ▶ 高齢者の迷子についていつも案じております（この頃、防災無線を聞くことが多い気がしましたので心が痛みます。心配になります）認知症による行方不明なのかもしれませんが、実際、我が家でもいなくなり防災無線にお願いしたことがあります。統一したワッペン（裏に名前を書く）や名札を付けた人を見たら警察に連絡をしてもらおうとか、徘徊をしそうな心配のある方はあらかじめ警察に名前と住所等お願いしておくなど、家族だけでも探しきれないことが多く、地域の皆さんの助け、協力をお願いできたらと、つねづね思っていました。しかし、名前や名札がついている洋服を着ているとは限りませんが、何枚かの洋服につけておくとか、良い方法があればと思います。靴のかかとあたりに蛍光テープを貼るのも事故を防ぐことができればいいなど。公共の老人ホーム、介護ホームを増やすことはできませんか。これからますます高齢者が多くなりませんか。（女性：50～59歳 桜田地区）
- ▶ 押しつけがましく感じさせないサービスの向上が大事だと思います。（男性：60～64歳 桜田地区）

▶ 地域福祉も大切ですが、相談員や民主委員をやっている方の人間性を見ると相談しようとは思えない方が中にはいらっしゃると思います。ただサービスをやっていると言えれば良いのではなく、内容を充実させるためにも、関係者の教育の徹底、信頼性（個人情報等に対し）を高めることが必要だと思います。ボランティアや地域住民に頼り、助け合うのは…ですが、もし何か事故や問題、トラブルが発生した時は誰が責任を取るのでしょうか。市が推奨しているのだから、市が責任者ですか？そして福祉の点から保育所について言わせていただくと、現在の公立保育所の職員の対応の悪さ（特に年配の方は）には残念でなりません。意識改革、再教育が必要なのは。

（年齢、地区等無回答）

## ◎地域活動・ボランティアについて

▶私の地域はアパートのような集合住宅が多く、表札もなく、名前もわからない人が多い（大家さんも住んでいる人の名前を知らない場合もある）。近所なら顔と名前は知っておきたいと思います。以前、民生委員の依頼がありましたがお断りしました。知らないお宅に行くことが怖かったからで、せめて2人組ならと思いました。婦人会を作ってほしい（うちは子どもがいないため、PTAの仲間がいないので友だちがあまりいない。婦人会があれば友だちができるのではないかと思う）。

（女性：50～59歳 本町地区）

▶例えば自然と地域住民がボランティアに参加することが理想だが、地域の高齢者等が小学校へ行き子どもたちと積極的にコミュニケーションを図る（社会ルール、その他命の大切さについて学び育てる）。各種ボランティアをより多く募り、また参加しやすい環境作りを行政と地域住民が一緒になって実施していく。

（男性：50～59歳 本町地区）

▶どのような方が、どのような事をしているか知らないし、自分がどのようなことに参加できるのかわからない。

（男性：60～64歳 本町地区）

▶今までボランティアに関して馴染みが無く、どのように参加したらよいのかわからず、参加する機会がありませんでした。地域の方々に認知していただき、手軽に参加できるようにした方がよいと思います。

（男性：40～49歳 東地区）

▶久喜市でやっているボランティアやNPOがわかりません。小学生の登下校で待ち合わせの指導。親がいるのに知らん顔でホーンを鳴らすとにらまれます。緑色のベストを着ている指導員が自転車や歩行中交通規則を守っていない。自転車で道路の真ん中を走ったり3列で歩いています。東3丁目用水路付近です。

（男性：40～49歳 東地区）

▶形式にこだわらず、気軽に参加できる体制づくりの場が必要かと思います。

（女性：60～64歳 太田地区）

▶民生委員にのみ活動してもらっている印象が強い。これが地域福祉向上の足かせとなっていると思う。地域のお年寄りの多くの人々にお手伝いしてもらうことこそ福祉向上の秘訣です。その方策、議論をしてみたいかがでしょうか。

（男性：60～64歳 太田地区）

▶参加したいと思うのだが、1人で入って行くだけの度胸がない。誰かに誘われれば…と言う気持ちがあるのだが、多くの人がそのようだと思う。気楽に入っていける環境がほしい。

（男性：65～69歳 江面地区）

▶区長、組長等（民生委員も含む）の積極的活動がまずほしい。

（男性：75歳以上 江面地区）

▶デパートとか暇な人（余裕のある人）が良く来る場所で「(ボランティアに)参加しませんか？」みたいなのがあれば、すごく参加しやすい。発展も早いかも。みんなで頑張ろう。

（男性：20～29歳 菖蒲・三箇地区）

▶現在独居生活で歩行困難の状況ゆえ、地域のボランティア活動として声かけ、ゴミ出し等、実際にサービスが実現できたら良いと切に希望します。

（女性：75歳以上 菖蒲・三箇地区）



- ▶ 現在は、おかげさまで、特に地域福祉に対しての要望はありません。しかし、高齢化し、介護を必要としてくる親（近い将来）そして、何年後かに定年を迎える主人、その後の不安はもちろんあります。そうなった時、もっと身近な差し迫った問題に直面すると思います。ただ、今思うことは、健康で動けるうちは地域のボランティアに参加したいと考えています。時間に余裕ができた時、いつでも参加できるような窓口を作ってほしいと思っています。私どものようなまったくの素人でもできるようなボランティアを探しています。そして少しでも、地域の役に立てるような老後を目指しております。  
(女性：50～59歳 小林・栢間地区)
- ▶ 中学生に、もっとボランティアをやらせてほしい。  
(女性：50～59歳 小林・栢間地区)
- ▶ ボランティア活動など参加したい人はたくさんいると思います。しかしそれぞれ家庭があり、仕事もあり、時間を作ることもなかなか難しい場合もあると思います。たとえば近所に学童みたいな場所を設けて、職員、高齢者が子どもを見守り、子どもが高齢者の話し相手になることによって子どもの親へも情報が流れるようなシステムも必要だと思います。  
(男性：30～39歳 栗橋・伊坂地区)
- ▶ この頃では近所とのふれあいが少なく、仕事をしている人が多いので挨拶程度、立ち話をする程度ぐらい、私の住む住宅でも人さまざま。みんなで集まり、話し合いなどは、なかなか機会がないのが残念です。「ボランティア」の言葉は良く聞くのですが、なかなか難しいですね。家族の協力がなければ自分ひとりで頑張ろうと思っても何もできません。家族との話し合い、また近所とのふれあいがスムーズにできるようになっていけたらいいなと思っています。  
(女性：65～69歳 栗橋・伊坂地区)
- ▶ ボランティアの人たちには感謝しております。ボランティア人材の選出については、もう少し力を入れて育成してほしいと思います。  
(男性：75歳以上 栗橋・伊坂地区)
- ▶ 私自身が子どもの頃にボランティア活動をしたことがなかったので、その良さやありがたみ、必要性を実感する機会もなく、大人になった今、子育て等で悩んだり、困ったことがあっても地域福祉のサービスを利用しようとは思ったことはありません。むしろ、近所づきあいを大切にしていた母を見習って、私も近所の方の助けになったり、逆に助けていただいたりして生活しています。人付き合いが希薄になる中、気軽に利用できるサービスと言われても知らない人に頼むというのは正直気も引けますし、まだそこまで自分をオープンにできる人も少なくはないのでは。まずは子どものうちから（できれば学校で）福祉の学習（教科書ではなく、実習で、コミュニケーション能力を養えるのでは）をし、その子どもたちが大きくなったときに自然に活動できる時代になったらいいなと思います。今の時点では人との関わりも含めて安心して生活できる世の中になってほしいです。  
(女性：30～39歳 静・豊田地区)
- ▶ 無報酬をしいるボランティアは長続きをしないと思うが。  
(男性：30～39歳 静・豊田地区)

▶どこで、どんなボランティアを集めているか、知らないので参加できません。家事や仕事が忙しいというのも事実ですが、どんなふうに参加したらよいのかわからないというのが本音です。また、自分なんかに参加して良いものかと考えてしまって、一歩前に出ることが出来ないのが、残念です。どんなボランティアがあるのか調べて自分のスケジュールと合わせてみて参加できそうなら参加してみたいと思います。

(女性：50～59歳 静・豊田地区)

▶合併によりこれまでとてもよいと思われるような活動がなくなったりしております。またプライバシー保護の名の下に必要なと思われる情報が得られない等、問題もあります。行政と関連団体の連絡を密に、また若い人の積極的な参加を募って（ボーイスカウトの力など借りても良いのでは）いくことが大切と思われます。また新しく住まれる方々の地域活動への参加も大切と思います。(女性：50～59歳 静・豊田地区)

▶私の住んでいる地域は、古い住宅街のため、高齢化が進んでいると感じられ、今後高齢者のひとり暮らし等が予測されます。そのような地域に対しての福祉活動をどのように行うのか、また積雪時、高齢者に負担のかかる仕事（雪かきなど）の対応等で助け合いが必要になると感じています。(男性：30～39歳 鷲宮地区)

▶私には今年小学校に入学する子どもがいます。登校時間40分という長距離を歩いて通学するため不安があります。でも地域として安全パトロールの皆さんが危険なところに立ってパトロールして下さっている姿を見て本当に感謝しています。今は仕事など忙しく、ボランティア活動できませんが時間に余裕ができた時にはぜひ参加していきたいと思っています。(男性：30～39歳 鷲宮地区)

▶ボランティア活動等が広がるかは、問題が発生したときにサポートしてくれる体制になっているかが大切かと思えます。ボランティア活動で問題が発生した時に、自分で解決しなさいでは、二度とボランティア活動に参加しなくなるでしょう。最悪時には、そのボランティア活動さへ衰退してしまいます。まずは安心して活動できる環境の整備から。また生活保護を受けている健康な方にボランティア等に参加いただき、働く喜びや人の役に立つ喜びを得てもらうのも良いかと思えます。

(男性：40～49歳 鷲宮地区)

▶いつも地域の活動（特に住民同士の助け合い）に参加したいとは思いつつ、学校が遠い（千葉県、通学往復4時間）ため、時間が合わないことが大きな壁です。アルバイトなどで休日も含めた生活の中心が他地域となり、地域活動（外国人住民の日本語教室ボランティア）も千葉でやっていました。地元にいる少ない時間でも参加できたり、ネットを通じて役に立てることがあればいいのですが、良い案が浮かびません。すみません。サービス内容や協力者募集よりも、利用された方の感想が住民に伝わった方が地域福祉の充実したまちに住んでいる実感や誇りを感じられて、更なる発展に協力したくなると思います。(女性：20～29歳 桜田地区)

▶有償ボランティアというのも1つの手段だと思います。利害関係が成立した方の中にも利用しやすいと思うひとたちもいると思います。タイガーマスク運動が毎日メディアで取り上げられるような日本です。ボランティア活動が定着するには、まだまだ長い道のりです。とりあえず、気持ちばかりの有償ボランティアからスタートするのも良いのでは。災害時の助け合いについて、地域で避難訓練をしたり、ご近所で声かけや顔合わせをするなど、非常時に備えた心構えをしておくことが大切だと思います。

(女性：40～49歳 桜田地区)

- ▶ 誰かのお手伝いをしたいと思っても、どこの誰が必要としているのかわかりません。ボランティア団体に属さなくても地域の（近所の）手伝いを必要とされてる方が分かれば気軽にお手伝いできるのと思います。（女性：40～49歳 桜田地区）
- ▶ ボランティアのみならず、民生委員、児童委員等の方々が地域全世帯への訪問をし、定期的に各家庭の事情・実情を調査して情報をつかんでいくことに必要になってくると思われます。（男性：50～59歳 桜田地区）
- ▶ ボランティアはできるときにできることだけに参加するという個人の都合が優先されがちだが、子育ての忙しい中でも体力が衰えてきても少しの時間、ちょっとした心使いでコミュニティは広がる。強い人が弱い人を助けるという構図から、共に生きられる体制が制度や組織にしばられず、何気にできるよう上からの要請でなく同じ人がいる活動に参加するよりも多くの方がひとつでも参加できるような助け合いの場をつくり、それを行政が支えてくれることが望ましい。プライバシーの保護の元、まずは心を開いて助けを求め、手伝える大切さを刺激されたい。（女性：60～64歳 桜田地区）
- ▶ 私の夫をはじめ、定年された男性が多く見られます。この方たちの活動できるような場、ボランティア活動を考えたらいいかと思います。人材はたくさんいると思います。ボランティアに参加する方法等がよくわかりません。どこへ行ったら良いのかも。参加者募集等をもっと住民にアピールした方が良いと思います。（女性：60～64歳 桜田地区）
- ▶ 人間やればできる。やってみたらできた。でも長く続けるためには大きな問題点もあると思う。（年齢、地区等無回答）
- ▶ 「人間関係」ボランティアに参加しても性格的な問題で続けられなくなる場合もある（ひがみとか）。何かしてあげたくても中には、入り込んで来てほしくない人もいる。どこまで関わっていけばいいのか、相手の性格にもよるが。（年齢、地区等無回答）
- ▶ 地域福祉の必要性は感じておりますが、具体的な活動内容（時間帯・頻度も含む）を詳しく知る機会がありません。子育てに日常の大幅を費やしている現状の中で、ボランティア活動に積極的に取り組みたいという気持ちにはなかなかならないのが正直なところです。ただ、具体的な活動内容を知り、自分が可能な範囲でお手伝いできることがあるのならば、社会参加という点からも、いずれやってみたいと思います。（年齢、地区等無回答）
- ▶ 目的ボランティア毎の組織をつくる（家事支援、送迎、草刈り、樹木剪定、文化行事、雪下ろし支援など）。組織づくり（有償教師・講師の募集、有償協力作業員、無償ボランティア、資金ボランティア、組織事務所の提供、責任者&事務局募集広告“広報回覧板など”。参加者、被サービス者の声の周知活動と更なる参加者の募集で拡大へ。（年齢、地区等無回答）

### ◎地域の支え合いについて

- ▶子育て中なので何かををすると言うよりは普段の生活の中でできること（例えば 子どもと散歩していて出会った人に挨拶をするなど）をしていきたいと思っています。地域の人とのふれあいの中で、子どもやお年寄りを自然と見守れるような環境ができればと思います。（女性：30～39歳 本町地区）
- ▶今現在不都合に感じることはないので、実感がありません。自分の子育ての過程では社宅に住んでいたため、互いに協力し合っていました。知っている人たちなので安心感がありました。今は一戸建てなので、近所の人たちとはまあまあうまく接して暮らしています。今現在家族も健康なので福祉サービスなども利用したこともありませんが、今後自分で協力できることがあればしていきたいと思っています。（女性：50～59歳 本町地区）
- ▶無縁社会が流行っているようだが、そういう世の中から解放できるような世の中になりたい。（男性：60～64歳 本町地区）
- ▶自治会、町内会で互いを知り合うため年に一度くらいは新年会または、旅行会の催しの推進をしていただきたい。何十年も住んでいるが一度もない。寂しい町だと思いません。家族単位で隣近所には無関心、老後が心配です。（女性：65～69歳 本町地区）
- ▶高齢者のひとり暮らし、小家族世帯が増えてくる中で地域の住民同士がどう支え合っていけばいいのか、また地域の民生委員の方、社会福祉協議会と連携して協力することが必要だと思います。（男性：70～74歳 本町地区）
- ▶特に今のところ困ったことに直面していませんので、わかりません。まずはご近所の方とのつながりがスタートになると思います。ただ個人的に善意だけで活動するのは何か問題が起こったとき大変なので自治体が間に入って助言してくれると安心します。（女性：50～59歳 中央・南地区）
- ▶受ける側があたりまえとっていたり、感謝の気持ちがないと続かなくなる。与える側にもあまりにもお節介だったり、高慢だったりすると、やはり受けたくなくなる。（女性：40～49歳 太田地区）
- ▶まずは市が中心になって、スターとさせてほしい。そして市から住民が中心となって進めていくようにしてほしい。（男性：40～49歳 太田地区）
- ▶私は78歳ですが、今の家に嫁いで55年になります。あのころの近所づきあいは、とても良かったです。毎日近所のどこかの家から「お茶だよー」と声がかかり、楽しく10人くらいの集まりでお茶をしたものです。あのころは懐かしいです。今は、1年経ってもそう言うことはありません。寂しいです。（女性：75歳以上 清久地区）
- ▶私の住んでいる地域は高齢者の方々が多くいます。ひとりで住んでいる方や、高齢者のご夫婦だけで住んでいる方もいます。幸い、まわりと他に比べてつながりはある方だと思いますが、やはりなかなか雨戸が開かないと大丈夫かと心配になります。ただ私も含め働ける世代は日々の暮らし、仕事に追われてなかなか交流をもつことができません。結局お年寄り同士で声をかけあっているようです。余裕があればもっと世代を超えて交流を持ちたいと思っています。それが、現状ではないのでしょうか。（女性：40～49歳 菖蒲・三箇地区）

- ▶ 人と人との話し合いが、誰とでもできればいいと思っています。人との思いやり。  
(女性：70～74歳 菖蒲・三箇地区)
- ▶ 2ページにあるようなちょっとした「困った」を抱える場面は子ども、高齢者、障がい者、病人等のいる家庭ではたびたびあると思います。しかし隣近所が助け合っていくのが一番だとは思いますが、普段付き合いのない人にはちょっとしたことで気軽に頼むことはまずできないし、助けを申し出ることも無いでしょう。(災害時などは別だとは思いますが) 近所に迷惑をかけたり、かけられたりしたくないというのが本音ではないでしょうか。個人的な交流があれば「迷ったことがあったら何でも力になりますよ」という気持ちも本音だと思うので、住民同士のつながりを持てる場を増やしたり支援を必要とする人を把握したり、登録してある公の人がきちんと支援していくという形が必要ではないでしょうか。  
(女性：40～49歳 栗橋・伊坂地区)
- ▶ 自分が健康で豊かな生活を送っていると何が大変か、何が困っているか、なかなか理解することはできないと思います。まずは福祉を受ける側がどんなことを望んでいるのか、遠慮無く発信できるようになれば良いと思います。多少無理なことでもたくさんの方が考えれば解決できることもあるからです。無縁社会が心配されている現代、昔のよかった所を思い出して世話好きなおじさん、おばさんがいるといいですね。  
(女性：40～49歳 静・豊田地区)
- ▶ 清掃や防災などは大勢でやるので比較的参加しやすいが、個々のお宅に関わることはよほど親しくないといけないと躊躇(ちゅうちょ)してしまう。  
(女性：40～49歳 鷺宮地区)
- ▶ どれだけ地域に、人に近づけるかではないでしょうか。福祉だ、仕事だ、というよりもまず、人との関わりを大事にすること、つきあいをしていくこと。そんな中で親身なやるべきこと、相手に伝わるのがうまれてくると思います。  
(男性：50～59歳 鷺宮地区)
- ▶ 住民一人ひとりの意識づけ(高揚)がもっとも大切と考えます。それと具体的にどう実現するかが問題。  
(男性：50～59歳 桜田地区)
- ▶ 予防医学…病気になる前、なってからでは遅いので体操、生活指導などちょっとした習慣などの講座(体験できる会なども含めて)。人間は健康でないとボランティアや地域の活動に参加することさえできません。予防医学を推進することにより、1人でも多くの方が健康になり、地域の人々に貢献できると思います。最近の社会(新聞などで)は人の関わりがなくなり、子どもをどう育てたらいいかわからず、可愛い我が子を殺したり、高齢者の自殺など悲しい出来事ばかりです。近所同志、お互い様の心を持って生活していきたいです。  
(女性：50～59歳 桜田地区)
- ▶ プライバシーの関係上、つっこんで家庭の様子を聞くことはできず、親切にと思うことがいらない気遣いと思われ、求めていただければ、いくらでもできることであれば手助けはしたいと思いますが、自分が年老いていることも考えますと危険なことも多く、話しかけ、声かけはできます。させてもらいたいです。雑誌、新聞出しの日、玄関に出して持って行って下さるサービスがほしいです。  
(女性：70～74歳 桜田地区)

- ▶ 誰かがやってくれる、自分は関わりたくないと考える人が多い中、無関心で自己中心的な人たちを参加させるのは非常に難しいと思います。しかし、やらねばならないことです。コミュニケーションをいかにとれるようにするか（多くの人に参加してもらう）参加したいと思えるようにするには何をしたら良いかが重要です。広く浅くでは効果は出ないでしょう。狭い地域で集中的に試行錯誤をして1つの策をつくり、それを育て、広げていければと考えます。 (男性：70～74歳 桜田地区)

### ◎情報提供・広報について

- ▶ もっと、何をしているのか、何ができるのか、何をしたいのか、何が必要なのか、ということ発信しなければわからない。おそらく、地域にとってプラスなことをやっていると思うので頑張って下さい。  
(女性：20～29歳 本町地区)
- ▶ “地域福祉” 自体を知らない人が結構いるのではないかと思った。まだ若いからかもしれないけど少なくとも周りには知っている人が少ない。まずはみんなに理解してもらおうところからだと思いました。また、高齢者にいろいろなサービスがおせっかいと思われないように、考える必要もあるのかなと思いました。  
(女性：20～29歳 本町地区)
- ▶ 地域福祉に関する情報が徹底していないと思います。地域福祉の全体像のわかる冊子等を配布（個人）。活動状況の広報。民生委員等、各種福祉組織の任務区分の一元化。  
(男性：65～69歳 本町地区)
- ▶ まずは「地域福祉」という言葉を広めていくことが大切だと思います。助け合う気持ちがある人でも具体的に何をしたらいいのかわからない人がたくさんいると思うので、まずは「地域福祉」という言葉をみんなに知ってもらって、具体的に今現在どんな活動がされているのか知ってもらうのがいい気がします。その他には、自分自身に関係のないことはなかなか関心が持てないと思うので、難しいなと思いました。  
(女性：20～29歳 東地区)
- ▶ 地域の人々が積極的に人と関わろうとしなければ、地域福祉は進んでいかないと思います。身近なところから（あいさつ等）をしていきたいと思いました。また、どのような地域福祉サービスがあるのかの認識があまりないので、まずは私たちが知ろうとする姿勢が大事だと思います。地域福祉が進むと、いかに私たちが住みやすくなるのかを、知る機会が必要だと感じました。  
(女性：20～29歳 東地区)
- ▶ 地域福祉に対して、必要とされる内容を集約して、その内容を項目～数値化などを実施して、できるだけ地域住民に分かるように開示すること。今まではその内容が抽象的であるためになかなかこの内容に対しての意見が吸い上げられなかったのでは。  
(男性：30～39歳 東地区)
- ▶ 下記のことを始めて知りました。回覧板はやたらくるので、こういった内容を1つにまとめて個別、もしくは回覧板にわかるように入れてほしいです。知らない人の方が多いと思います。ゴミ一覧表のように毎年冊子を作って配布。各部ごとに電話番号の記載、もっとわかりやすく全ての人に情報提供しないと下記のサービスの意味が全くない。  
(女性：30～39歳 太田地区)
- ▶ 下記のサービスがあるのはじめて知りました。どこにどのようなものがあるか、一冊の本になっていると分かりやすいと思います。なんでも市役所に行かないとわからないことが多いと思います。  
(女性：50～59歳 太田地区)
- ▶ どこで何をやっているのかわからない。  
(男性：20～29歳 栗橋・伊坂地区)
- ▶ どんな福祉サービスがあるのか、よく知らないので情報がもっとあった方がいい。  
(女性：40～49歳 栗橋・伊坂地区)

- ▶引越してきたばかりで、この辺りのことはまだ分からないことばかりです。まして近所づきあいもまだそんなにありません。地域福祉などのこともどのような活動をしているのかわかりません。もっと活動内容をわかりやすく、情報提供をしていったらいかがでしょうか。(チラシとか) ホームページの存在も知りませんでした。いくらホームページに情報をアップしたところで、その存在を知らなければ意味がないと思います。まずは、住民に地域福祉とは何なのか、わかりやすく知ってもらうことが必要だと思います。私にとって地域福祉とは何か、遠いところにあるように感じます。いつか身近に感じる時がくればいいです。(女性：20～29歳 静・豊田地区)
- ▶下記のようなサービスがあることをよく知らなかったので安心した。周知されると良い。他市町村で行われている地域福祉活動、サービス等よいものをどんどん取り入れてみると良いと思う。(女性：20～29歳 静・豊田地区)
- ▶福祉に関する情報と理解が足りないのでは。(男性：30～39歳 鷲宮地区)
- ▶活動の内容がよく分からない。もっとアピールした方が良い。(男性：50～59歳 鷲宮地区)
- ▶いろいろな福祉やサービスがあることは知っているが、困ったときにまず、どこに相談すればいいのかわからない。困っていることがどこの管轄なのかわからない。(女性：20～29歳 桜田地区)
- ▶家族に福祉を受ける者がいないので、市がどのような福祉を行っているのか、知らない。情報を自分が進んで取りに行かないので、そのような人にも伝わるように情報を発信してほしい。(男性：20～29歳 桜田地区)
- ▶地域の人々の情報を共有できるようなホームページの充実。(男性：50～59歳 桜田地区)
- ▶問2のような自分自身にできることが有るか、どこへ、どのように相談に行ったら良いかわからないので、ご連絡をいただきたい。地域に長い間住んではいるものの、勤務していた時間が長いので他の方々との接触がない。最初は少しずつ健康の許す限り、無理をしないで続けたい。(年齢、地区等無回答)
- ▶住民参加のボランティアが重要であることは十分理解できますが、現在どんなボランティアが必要なのか何もわかりません。市のホームページや広告、回覧板などで常に情報を流すことも良いかと思います。なにかボランティアに参加したいと考えていてもきっかけがつかめず、ひとりで参加する勇気もありません。気軽に活動に加われる有意義な方法があったら良いと思います。(年齢、地区等無回答)
- ▶住民に地域福祉とはどんなことなのかを十分理解する説明会等が必要だと思う。(年齢、地区等無回答)



### ◎市への意見・要望（福祉ほか生活関連）

- ▶バスを多くしてほしい（市内循環）。祭のような催しに、高齢者も参加できる行事などがあったらいい。駅や人の集まる所で、わかりやすく、目にとまりやすいようにもっと情報を伝えてほしい。学校でもっと福祉について勉強すべきだと思う。教員だけに任せるのではなく、専門の人に教えてもらうべき。（女性：20～29歳 本町地区）
- ▶市内での交通の便が悪すぎる。例えば、子育て支援センターも駅から離れている上に市内循環バスの数も少なすぎる。バスをもっと便利にしたり、駅の近くなど行きやすい中心地に支援センターをつくるなどしてほしい。（女性：20～29歳 本町地区）
- ▶あてはまるかわかりませんが、廃品回収車のアナウンスが非常にうるさく迷惑をしております。条例で規制はできませんか。（小さい子どもがおります。困っています）  
（女性：40～49歳 本町地区）
- ▶地域環境として歩道の整備を進めてほしい。踏切、線路脇などの道、自転車、車道、歩道の確保。上記は市の仕事ですがもっと具体的な提案をする人。個人情報に制限があり難しいですが、子ども、高齢者、障がいのある方のだいたいの把握をし、見守ってくれる人材育成。核家族が多く、日中留守しがちな家との連帯活動。  
（女性：40～49歳 本町地区）
- ▶紙を配っておしまいの情報は意味がない。読まない人、聞こえない人、子ども、忙しい人など、困っている人は読まないし、何があるかさえわからない。知っている一部の人だけのサービスにならないようにすべきです。健康福祉として理髪店の禁煙化など遅れています。会社や都内でタバコの煙を吸われることは全くないのに、久喜ではあちこちで煙たい場所が多すぎ、高校くらいの若い人も影響を受けています。  
（男性：20～29歳 中央・南地区）
- ▶スーパー（買い物）、病院の充実。地域の無人住宅（防火・防犯）、空き地。住人はいるが自治会に所属（加入）しない家。間に合っていないが現在気になる点をあげてみました。地域は子どもが少なく高齢化エリアになりつつある。  
（女性：50～59歳 中央・南地区）
- ▶県立図書館等に「閑な高齢者」「退職したらしい高齢者」が多くいるから、そんな人がなんとなく集まれるスペースをもっと作ったら。例えば西口駅前、無駄なタクシーに占拠させとかないでベンチ配置や遊歩スペースを確保し、人が屯することのできる場所作りを提案。市役所通りの、新しい遊歩道に「自転車進入不可」の看板を立てて、しゃれたベンチをもっと多く置いたらいかが。歩け歩け運動に励む高齢者が久喜にもたくさんいます。そんな人への便宜をもっと図ってください。  
（男性：60～64歳 中央・南地区）
- ▶福祉全体に関わることですが、いわゆる「エム」の事件は全く久喜市の恥であると思う。以前から代表者の言動には不審を抱いており、よからぬ噂が絶えなかった。当然に行政や福祉関係者も認識があったのに見て見ぬふりだったのではないか。その結果が久喜市ばかりか、近隣の市町、県内にも多大な迷惑をかけ「久喜市の福祉」は崩壊したと言っても過言ではない。聞くところによれば福祉を利権化し、何を勘違いしたのか尊大な態度で、税を私かした、サギ師であり、厳罰を与えることはもちろんのこと、私かし、隠している資産を徹底的に探し出して、一円でも多く回収することと、賠償させることであると考えます。市、並びに協議会の覚悟をお示してください。財産は全て没収すべきである。  
（男性：20～29歳 東地区）

- ▶ 地域によって行政の不公平（道路がきれい、側溝がある、ゴミネット“グリーン”がある等）、あるところとないところがあるように福祉に関しても住民が大勢で声を出して言う場所には良い事がたくさんありそう。黙っている場所には砂利道があり、側溝なし、ゴミネットなしと言う状態で。声が出ない場所にもちゃんと公平なことがなされるようお願いしたい。  
(女性：60～64歳 東地区)
- ▶ 健康維持のために体を動かして体力作りができる公共施設がほしいです。  
(女性：40～49歳 菖蒲・三箇地区)
- ▶ 経理を含めた活動内容を広く公開する。最終的な責任は行政が負い、その上で広く協力を呼びかける。  
(男性：40～49歳 静・豊田地区)
- ▶ 路線バス等が、定期的にあると便利だと思います。(女性：40～49歳 静・豊田地区)
- ▶ まちに全く活気がない。互いがあまりにもよそよそしい。店もなく、発展もなく、きたならしい街路樹にうんざりしている。地域福祉以前にまちそのものの形態がまるでできていない。  
(女性：60～64歳 静・豊田地区)
- ▶ 行政はボランティアにばかりあてにせず、本来、ボランティアはプラスアルファの部分だと思う。社協と福祉課でする仕事の区別が付きません。福祉課に尋ねると「それは社協へ」と言われる。仕事の区分を具体的に説明してほしい。  
(女性：60～64歳 鷲宮地区)
- ▶ 公共の窓口の方々の笑顔が大切。視線を同じにしていく。高齢者には頑固な方が多いので大変ですが、頑張ってください。  
(男性：60～64歳 鷲宮地区)
- ▶ 町内会は負担。町の清掃は年2回だが、もっと増やすべき（ゴミの投げ捨て、特にタバコ、交差点などひどすぎる）それなりの法的な規制が必要。  
(男性：65～69歳 鷲宮地区)
- ▶ 私の地区の福祉課の人たちはあまり態度がよくなく関わりたくないと思ってしまった。あまり関係ないですが良い機会ないので。  
(女性：20～29歳 桜田地区)
- ▶ 福祉と関係あるかどうかわかりませんが、家から役場までの距離があるため、証明書や住民票などの書類が必要な時、ちょっと大変だと思っています。年を取って車の運転ができない人はどうしているのか。東鷲宮の駅からバスでも出ればなと思うこともあります。出張所のようなものがあるのでしょうか？それもわかりません。  
(女性：30～39歳 桜田地区)
- ▶ 地域福祉には関係が無いことかもしれませんが、昨年、家族の中に病気が元で障がい者となったものがあります。その手続き等で福祉課にはいろいろ親切に教えていただき助かりましたが、手続き申請を「県」のほうでもらわなくてはいけなかったのですが、県の対応がものすごく時間がかかったことが多々でした。書類に対しての回答が遅いので福祉課の方から連絡を何度もとってもらったり、やっと回答が来たと思ったら1か所足りないと言われたり。こちらとしては、まだかまだかと待っていた書類なのに、足りない所があるのならすぐ連絡をくれればすむことなのに遅すぎです。もっと住民（弱者）の立場になって仕事を進めてほしいと痛感した次第でした。  
(女性：50～59歳 桜田地区)

▶ 新生児訪問において、障がい児に対する知識が少ない保健師が多い。我が家でも第四子がダウン症であったが、ダウン症に対する知識がない保健師が新生児訪問に来たため、自分達のためになる情報が何も得られないどころか、間違った情報を教えられました。障がい児の親は、未体験のことが多く、どんな人からでも情報を得たいと思っているのに、頼みの保健師の対応がそういう状況では、しっかりとした子育てができないと感じました。一人一人の保健師の育成が難しいのであれば、障がい児等の専門知識を有した新生児訪問担当を配置していく必要があると思います。

(年齢、地区等無回答)

▶ 行政は、「できる」ものは何年後にできるとか、「できない」ものはできないとはっきりと回答してほしい。曖昧な返答はしないほしい。

(年齢、地区等無回答)

### ◎社会福祉協議会への意見・要望

- ▶住民参加型のサービスについての詳細、内容等を知らないので意見は別にありません。

(男性：60～64歳 中央・南地区)

- ▶社会福祉協議会で綿密な計画のもとに、様々な活動をやっていますことに敬意を表します。これまで、社協だよりやホームページ等で、その事業や活動を広く住民に啓発されておりますが、十分に理解、浸透しているとは思いません。なぜなら、必要に迫られなければ関心を持たないのが実情です。誰でも身近に参加できる活動を広めていくことです。たとえば、清掃活動、公園の花壇作り、募金やバザー。老人施設の食事作りや会食等、これまでもやってはいますが、職員や会員が出向いて、ともに汗して意見交換や交流するなかで、福祉の必要性や正しい理解を根気強く訴えていくことです。そのためにもボランティア会員を増やして推進していくことを要請。

(男性：75歳以上 中央・南地区)

- ▶いろいろなボランティアなどがあるが、いつも決まった施設のみがあるように見受けられる（それは社協との関係）。もっと住民が参加しやすいものを希望。社協の提案もいつも途中になる。サービス等の内容の告知方法を考えて下さい。地元の身近な人が講師となって開くようなプチ講座等に期待します。きちんと活動できる民生委員の養成にも力を入れてほしい。より良い久喜市、住みやすい久喜市にしてください。

(男性：40～49歳 太田地区)

- ▶昨年より会費が200円上がりましたが、市民に無心を強く感じる。市民も生活が苦しいのに協力している。できるだけ経費の使用をおさえて削れる物は削ってよりよい地域福祉をしてください。

(女性：65～69歳 太田地区)

- ▶現在、わが地域では月二回「ふれあいいきいきサロンあゆむ」が行われています。いろいろなことが学ぶことができ、感謝しています。これからも地域にアピールして楽しい集いとなれることを願っています。

(女性：70～74歳 太田地区)

- ▶社会福祉協議会の方々にはいつもお世話になり、親切にさせていただいております。これからも何卒よろしく願いいたします。

(女性：75歳以上 太田地区)

- ▶職員の方や協力員さんには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。講座や電話相談等により多くの方が楽しみを持ったり、悩み事が軽減されたりと助けられていることと思います。地域の実情を知るにはやはり地域に出て足で情報収集することが必要なと思います。今後とも地域のために住民のためにご支援をよろしくお願いいたします。

(女性：50～59歳 清久地区)

- ▶社会福祉協議会は、金額より働いていないと思う。困っている人はたくさんいるはず。公務員？給料に見合った仕事をすれば社協だけでも足りる位予算はあるはず。現在の活動内容で協力を呼びかけても集まる人数は少ないと思う。怠慢体制を見直してからじゃないと議論どころじゃないでしょ。

(男性：30～39歳 菖蒲・三箇地区)

▶ 社会福祉協議会のボランティアに参加してわかったことなのですが、もっと大勢の人が参加協力できることを、町、市各地区のイベントで一言紹介してもらおうなど、社協では、このように地域福祉をしていますなど、知ってもらった方が良くと思います。小さいことでも、みんなにできることがあること、私も良く理解していない方じゃないかと思っています。このアンケートを読み、この様なサービスがあるのだと思い知ったこともありましたから。やはり地域福祉は大切なのだと13ページを見てよくわかりました。だから、多くの人々に知ってもらいたいです。

(女性：65～69歳 菖蒲・三箇地区)

▶ 高齢の夫婦だけの生活ですが、将来的なことで希望を申し上げます。近くに生活用品などを販売しているお店がないため（現状は車で用足しをしています）。買い物に行けない状態になったらどうしようと考えてしまいます。これからこうした家庭の多くなることが考えられますが、社協ではこうした将来的課題にどのような対応の方法が可能か。検討いただければありがたいです。

(男性：75歳以上 小林・栢間地区)

▶ 社会福祉協議会にはあまり良い印象がもてない。というのも（現在行っているかどうかは知らないが）無料おむつ券。期間限定で店も決められていて、しかも社協の年会費を払わなければならないというめんどろさにはうんざり。特なのか損なのかよくわからない仕組みにむかつきました。会費集めが目的か！以来、社協と聞くだけで門前払いです。こういう人は多いのではないのでしょうか。

(女性：30～39歳 栗橋・伊坂地区)

▶ 生活福祉資金貸付制度は、低所得世帯、障がい者世帯、生活保護世帯、高齢者世帯が利用できることを知らない住民が多いと思いますのでPRして下さい。

(男性：70～74歳 鷺宮地区)

▶ 社会福祉協議会の存在を知りませんでした。「地域福祉」を正しく理解し進めていくためにもまずは、協議会の在り方、活動内容等、広く住民に知らしめることが必要と思います。共感がなければ地域、住民の協力は難しいと感じますから。

(女性：50～59歳 桜田地区)

▶ 社会福祉協議会を今まで理解していなかった。行政での関係、構成、その事業内容等。

(男性：65～69歳 桜田地区)

### ◎アンケートについて

▶ アンケートの設問に順次回答していくうちに、自分自身が地域福祉に無知であったと反省しています。住民参加型の諸活動についても知りませんでした。現時点の地域福祉に関しての組織運営について勉強します。 (男性：75歳以上 本町地区)

▶ 今回のアンケートは少し疑問を感じた。福祉とは、行政と地域住民と協力し合いながら行うものであると思うが、社会福祉＝ボランティア、ボランティア活動を増やすには？という印象を受ける。日本人は、国民性として世界先進国のなかでもボランティア意識が低い人種と思う。まして、経済の停滞・閉塞感の強まっている現在、団塊世代といわれる年代の方々が組織社会から卒業し、自分の時間を多く持ったのを機会に、活動へ参加されることは一部に想定はされるが、それ以下の年代は極端に参加意識が低いと思う。まずは、行政（市）による福祉活動をもっと積極的かつ市民の視界に映るように行き、市民へもっと福祉の重要性を認識させることが必要ではないか。では、予算や財源はどうするのか？ 久喜市は東北自動車道と圏央道のジャンクションもでき、物流において他市より優位性がある。東北新幹線もJR久喜駅に隣接している。（過去、駅の建設に反対意見があったようだが、行政負担金が発生しても今からでも再建設できないものか）もっと交通主要都市になり得る利点を活かし、企業誘致を行うべきだと思う。企業からの税収・雇用の増加などにより市全体がもっと活性化するのではないか（企業は、納税や雇用を発生させる先）。久喜市には農地が多く開発可能と見られる土地は広い。真偽は認識していないが、久喜市の農地は有事の際の食糧確保用の用地とも聞いた事があるが、現代の有事に苗付けをはじめても遅いのは明白。反面、農地を残すなら「強い農業」を目指すべきではないか。企業化が最善とはわからないが農地を守るのではなく農地からも一定に税収を得られる「強い農業」を育成すべきではないか。一市三町が合併し市全体が大きくなった今、大きく成長するチャンスだと思う。次に教育。教育の一環として福祉やボランティアの重要性を子供の頃から意識として根付かせていくことも、社会（久喜市）の一員としての認識が得られ、学校内の問題が低減する1つの要因にならないものか。将来のためには今から必要と思う。今回のアンケートが市民の意識調査「だけ」なら、ただ返答する「だけ」だが、今後の発展を目的としているのであれば、まずは市民の生活にゆとり感（市民税の低減やインフラの整備）、活気（雇用の増加）などがないと、福祉意識やボランティア参加意識は芽生えてこないと思う。正直、精神的に余裕がないと思う。まずは、行政側（市）から大きくアクションを起こして、変革させていこうという「活動と実績」を今以上に、市民の視界へ映してほしい。

(女性：40～49歳 中央・南地区)

▶ 問題や説明文が高齢者には一般的に難しすぎる表現が多く、仮名が少ない。

(女性：75歳以上 清久地区)

- ▶ 私は今年 27 歳になるんですが、きっと私ぐらいの 20 代の方は地域福祉のことをよくわかっていない人が多数だと思うんです。もっとわかりやすく内容を伝えていただけたら、もっと理解できるし、いろんなことに協力し参加できると思います。若い人ほど福祉などに興味もない人ばかりだと思うので、もっと若い人でも参加できるように頑張ってください。私は今回のこのアンケートで分かったこと、これから考えなくてはいけないこと、いろいろ考えさせられました。このような機会をいただきありがとうございます。（女性：20～29 歳 菖蒲・三箇地区）
- ▶ むしろそれ以前の状態であると思われる。福祉をどうこう言う前に、自分達がどういう方向性にもっていかを打ち出し、その方向性に沿ってものごとを行う必要がある。漠然とした行動は全てが無駄。（男性：30～39 歳 栗橋・伊坂地区）
- ▶ このアンケート自体、文字数が多く、理解しがたい内容で専門的すぎる。そこに気が付かないこと自体進める上での障害となるのではないだろうか。もっと一般的高齢者等、福祉等を必要としている方々の目線に立った内容としてほしい。（男性：50～59 歳 栗橋・伊坂地区）
- ▶ 役所の人とか、お金をもらっている人が積極的に地域の人たちと話した方がよい。このアンケートで知りたいことは、実際その地域に行って、見て聞いた方がよい。本当にまじめにアンケートに答えている人がいる前提なのではないでしょうか。ちゃんと返送してくれる人は少ししかいないと思います。もっと積極的に行動して下さい。お年寄りとかは、自分から行動できない人が多いと思います。こっちからいかないと福祉を利用したくてもできないのではないのでしょうか。（女性：20～29 歳 静・豊田地区）
- ▶ 地域福祉は、こんなアンケートではよくならない。職員はもっと外に出て話を聞くべき。お仕着せや、あわれみだけの姿勢では、良くなる。外に出て実態を知ろう。（男性：60～64 歳 鷲宮地区）
- ▶ 利用者の中には、サービスを受けたくても払うお金がない人もいると思う。これじゃあ、無意味だと思う。「地域福祉」って言葉も聞いたことがない人もいるし、こんなアンケートとる前にこの言葉が普及しているかも分からないのに。とりあえず、地域福祉をどんどん進めたいならすぐ実行してもらいたい。（男性：20～29 歳 桜田地区）
- ▶ 地域福祉ときれいな言葉を並べているが実際問題、地域福祉はまったく根付いていないのが現状ではないかと思う。そもそもこのアンケートをとって何になるのか。意見を仕事上、形上にとり、結局何も変わっていないのではないかと思う。紙切れでアンケートをとるのならば一件、一件家をまわり地域の人々と顔を合わせコミュニケーションをとって行くことが大切なのは。（年齢、地区等無回答）

### ◎その他

- ▶ 変な人を遠ざけるようなことをやってほしいです。私は、突然、赤の他人に変な言葉を言われていたのです。カツアゲをされたのではないのです。人生は別々だから、変な人が介入してほしくないのです。変な言葉を言う変な人のためのものではないのです。ストーカーも含まれます。 (女性：30～39歳 東地区)
- ▶ 大企業の社員及び、公務員中心の給与、休日体系、三連休をはじめとして中小、零細事業者、個人店主及び従業員には、時代の流れとわかっていても、前者の恵まれた立場の人たちに反発の気持ちがある人が少なくないと思います。地域福祉には直接関係ないとは分かっていますが、割り切れない気持ちがあります。景気が悪いので、休み(有給休暇)と給料の少ない人は働けないと休みイコール給料ゼロ。三連休はパートタイマー、日雇い、日給月給の人を殺す仕組みです。公務員の給与基準は高すぎると思います。全体の奉仕者であるべき公務員がボランティアの中心たるべきと思います。 (男性：60～64歳 清久地区)
- ▶ 地域福祉を進めることは、必要で、大変大切なことです。しかしそれが民営化とか企業化、商業的面、利益誘導型になることは良くないと思う。政治家、マスコミ等を感じる時がしばしばあります。 (男性：75歳以上 菖蒲・三箇地区)
- ▶ 先日、オレオレ詐欺が多くなっているのので、気を付けて下さいと言って、お巡りさんが家まで訪問して下さいました。とても心強く思いました。時々そのようなことをして下さると安心です(高齢者として) (女性：75歳以上 菖蒲・三箇地区)
- ▶ 今は家族で何とか生活していますが、これから先もなるべく人の手を借りずに生活できると良いなと思っています。いつの日かお世話になる日があると思いますが、その時はよろしく願いいたします。 (女性：50～59歳 栗橋・伊坂地区)
- ▶ すいません、今のところ福祉に関して必要とすることもなく、まわりもそのような人もいないので、もし自分が困った時どうするのかもわかりません。今後、誰もがわかる、わかりやすい地域にして下さい。 (女性：50～59歳 栗橋・伊坂地区)

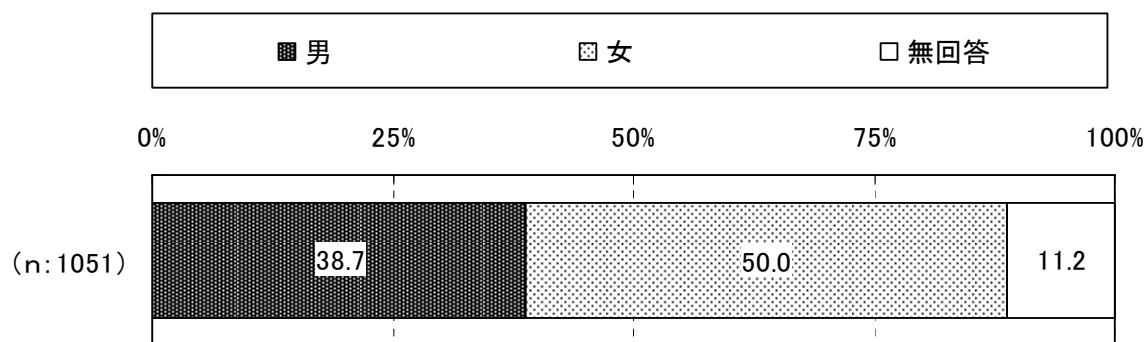


## (5) 基礎的事項

### 問24 あなたの性別は。(1つ)

回答者の性別は「男」が38.7%、「女」が50.0%で「女」が「男」を11.3ポイント上回っています。

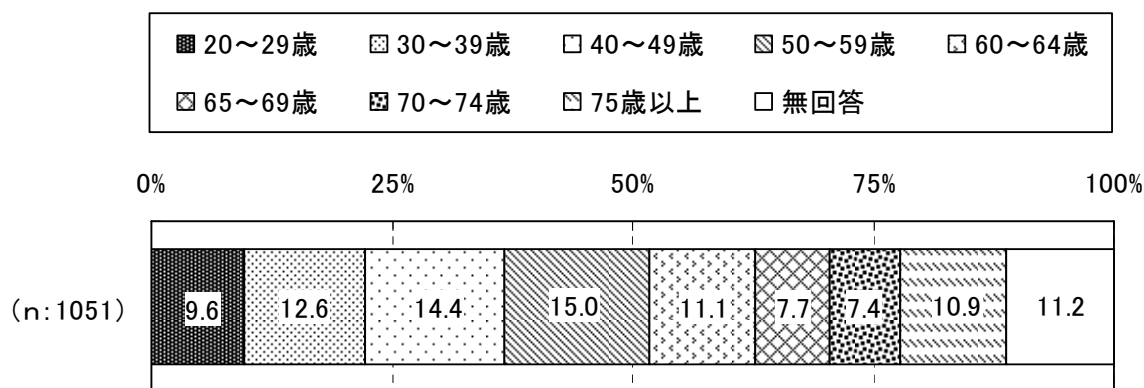
#### ■性別



### 問25 あなたの年齢は。(1つ)

年齢は多い順に、「50～59歳」が15.0%、「40～49歳」が14.4%、「30～39歳」が12.6%、「60～64歳」が11.1%、「75歳以上」が10.9%、「20～29歳」が9.6%、「65～69歳」が7.7%、「70～74歳」が7.4%となっています。

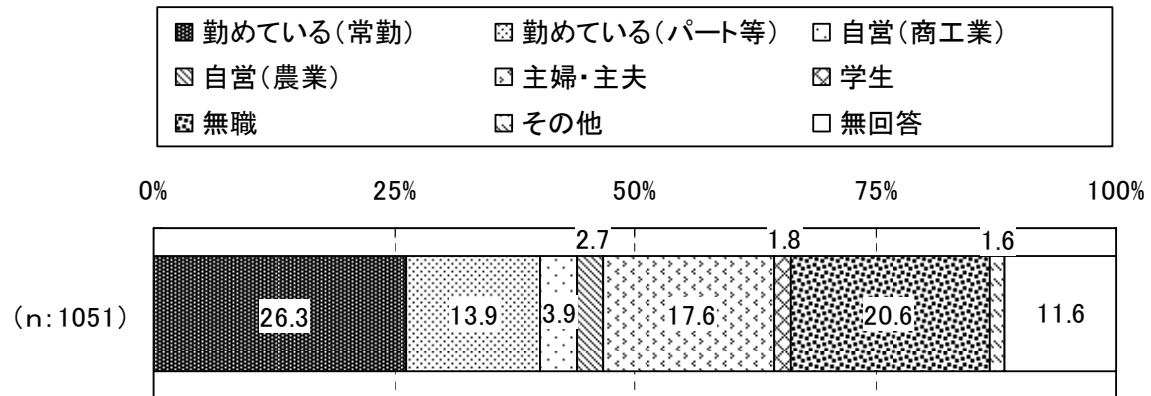
#### ■年齢



問26 あなたの現在の職業は。(1つ)

職業は多い順に、「勤めている(常勤)」が26.3%、「無職」が20.6%、「主婦・主夫」が17.6%、「勤めている(パート等)」が13.9%となっています。

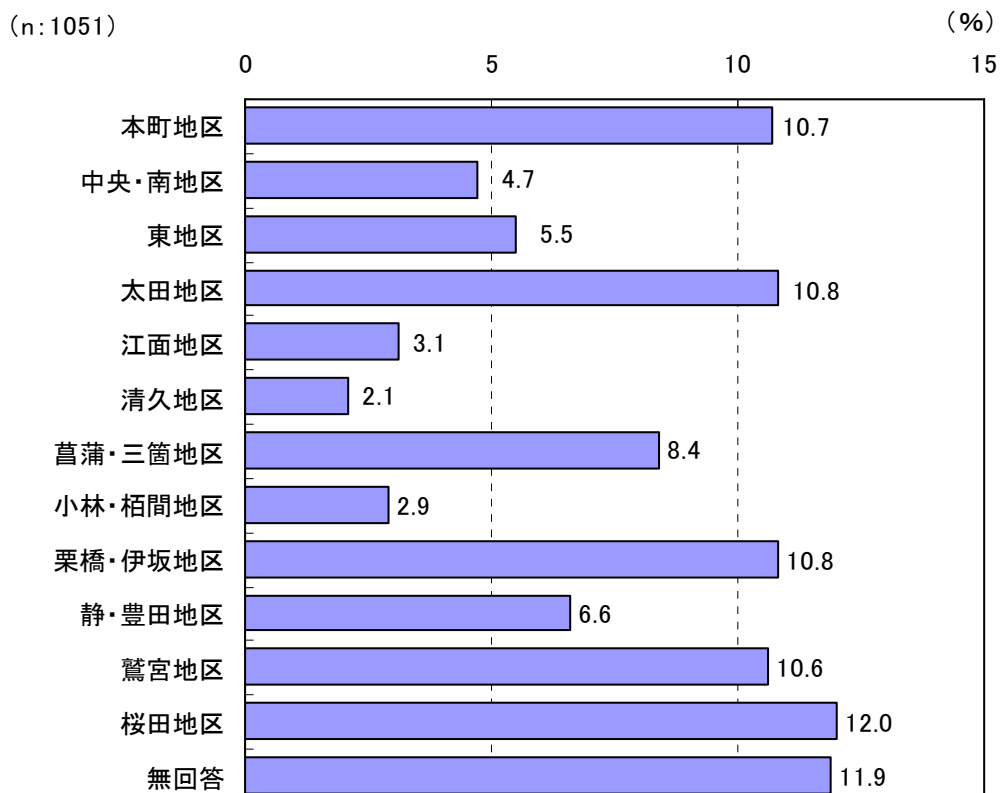
■職業



問27 あなたのお住まいの地区は。(1つ)

居住地区は多い順に、「桜田地区」が12.0%、「太田地区」、「栗橋・伊坂地区」が10.8%、「本町地区」が10.7%、「鷺宮地区」が10.6%となっています。

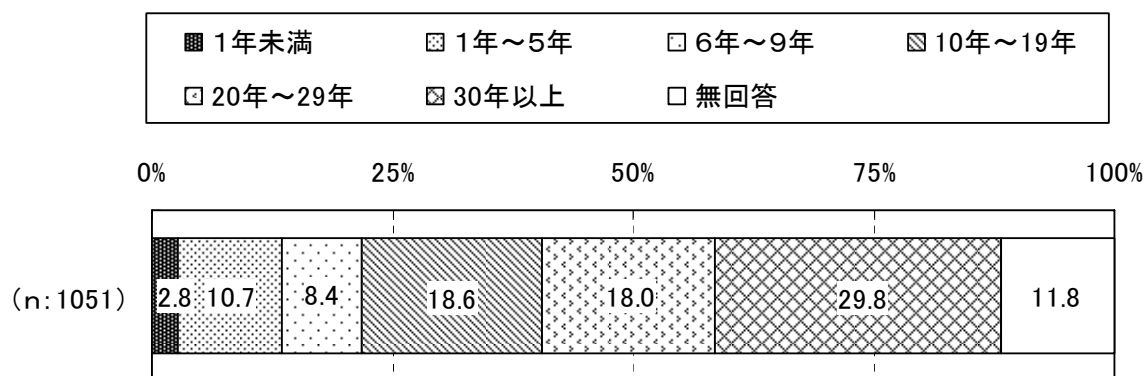
■居住地区



問28 あなたの現在のお住まいへの居住年数は。(1つ)

居住年数は、「30年以上」が29.8%で最も多く、次いで「10年～19年」が18.6%、「20年～29年」が18.0%と、居住年数10年以上が66.4%を占めています。

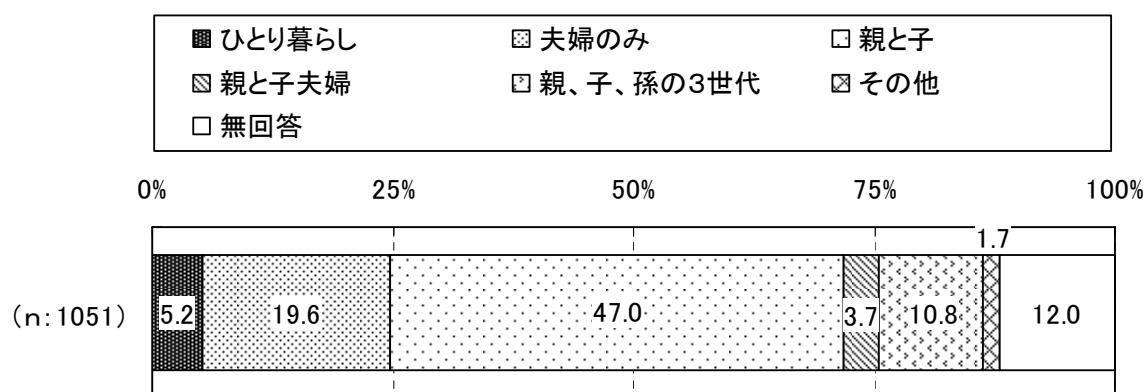
■居住年数



問29 あなたのご家族の構成は。(1つ)

家族構成は、「親と子」が47.0%で約半数を占め、次いで「夫婦のみ」が19.6%、「親、子、孫の3世代」が10.8%、「ひとり暮らし」が5.2%となっています。

■家族構成



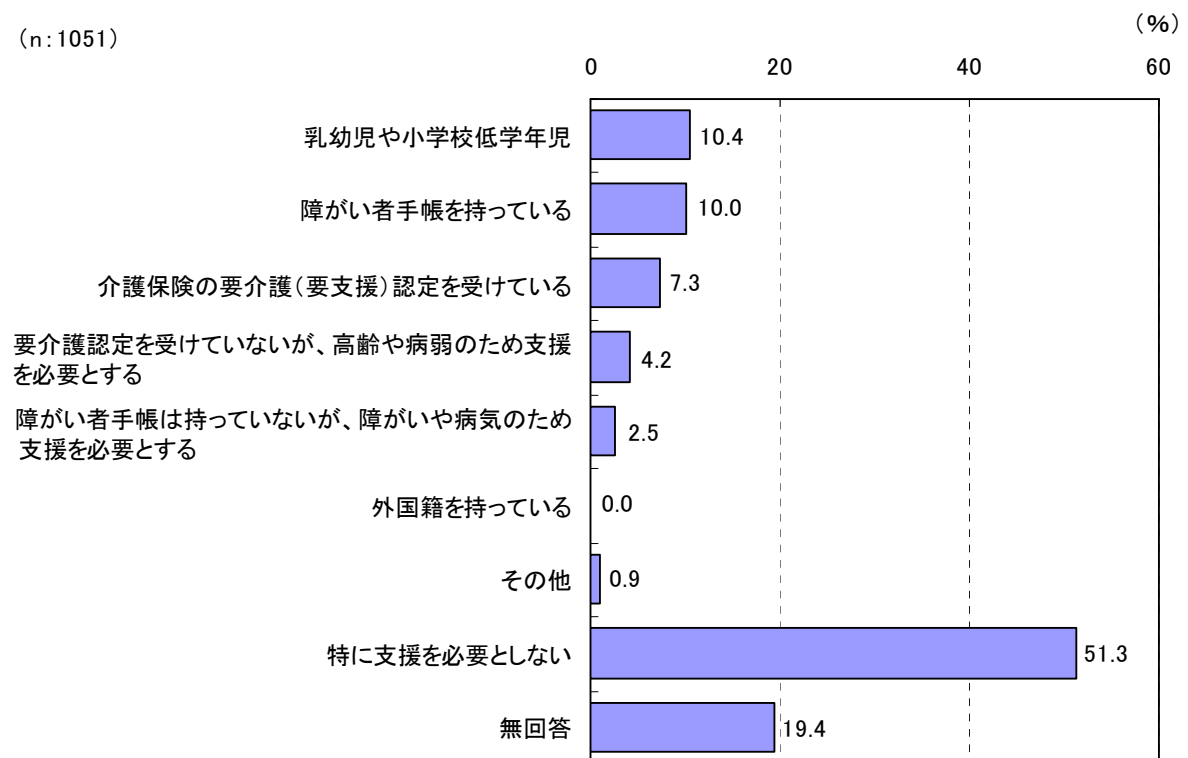
問30 あなた又はご家族の中に何らかの支援（見守りや手助け）が必要な方がいらっしゃいますか。（あてはまるものすべて）

「家族の中に何らかの支援（見守りや手助け）が必要な方の有無」では、「乳幼児や小学校低学年児」が10.4%、「障がい者手帳を持っている」が10.0%、「介護保険の要介護（要支援）認定を受けている」が7.3%となっています。

また、「特に支援を必要としない」は、約半数の51.3%となっています。

### ■支援が必要な家族

(n:1051)







## 資料編

## 調査票

## アンケート調査票

## 久喜市の地域福祉に関するアンケート調査のお願い

日頃、久喜市の福祉行政にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、久喜市と久喜市社会福祉協議会は、市民がお互いに助け合い、支え合い、誰もが住みやすい地域社会をめざして、「地域福祉」を進めていくための計画策定に取り組んでいます。

このアンケート調査は、その計画づくりの一環としてお願いするもので、市内にお住まいの20歳以上の方から2,000人を無作為抽出させていただき実施します。

ご記入いただいた内容については、「こういう回答の人が何パーセント」いるという形で集計しますので、個人が特定されたり、回答内容が他に漏れたり、また、調査の目的以外に使用することはございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、計画策定とアンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成23年2月

久喜市長・久喜市社会福祉協議会会長 田中 暄 二

## ご記入にあたってのお願い

1. 宛て名のご本人が直接お答えください。ご本人が、お体の具合その他でご記入できない場合は、他の方がご本人のお答えをお聞きの上、代筆されてもかまいません。
2. 質問によっては回答する方を限定しているものもありますので、質問の順にお答えください。
3. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答の番号を○で囲んでください。
4. 「その他( )」に○をつけたときは、( )内に具体的な内容をご記入ください。
5. ご記入いただきましたアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れて、

平成23年2月14日(月)までに郵便ポストに投函してください。

(切手は不要です)

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

久喜市役所 福祉部 社会福祉課

TEL. 0480-22-1111(内線 3222) / FAX. 0480-23-0699

## ● 地域福祉とは ●

「地域福祉」とは、子どもや高齢者、障がいのある人もない人も、誰もが家庭や住み慣れた地域の中で、自分らしくいきいきと安心して生活ができるように、『共に生き、支え合う社会づくり』を進めていくことです。地域の支え合いによる福祉といってもいいでしょう。

地域の中にはいろいろな「困った」をかかえた人が生活しています。



これらの「困った」を解決したり、「共に生き、支え合う社会づくり」のためには、行政の行うサービスだけで対応することは難しくなっています。地域で暮らす誰もが、地域福祉の対象者にも、担い手にもなります。

### 地域福祉の担い手とは

地域住民 社会福祉協議会 ボランティア  
民生委員・児童委員 市民活動団体等 行政



問1 あなたは、前述のような意味での「地域福祉」という言葉を知っていましたか。  
(○は1つだけ)

1. よく知っていた
2. 少しは知っていた
3. 聞いたことはあったが、違う意味だと思っていた
4. 聞いたこともなかった

問2 あなたは、「地域福祉」を進めることが必要だと思いますか。  
(○は1つだけ)

1. とても必要だ
2. どちらかといえば必要だ
3. あまり必要でない
4. まったく必要でない
5. わからない

問3 地域における福祉に対して、あなたの考え方は次のどれに近いですか。  
(○は1つだけ)

1. 福祉とは、恵まれた人が困っている人に対して慈善的に手を差し伸べることだと思ふ
2. 福祉を必要とする人は、自分でもっと努力すべきであり、援助の必要はないと思ふ
3. 福祉は、行政（国や地方自治体）の責任で行うべきだと思ふ
4. 昔から、親・兄弟が互いに助け合うという考え方があるのだから、親類縁者が面倒をみればよいと思ふ
5. 福祉は、行政と地域住民（住民組織）すべてが協力しあいながら行うものであると思ふ
6. わからない

“地域での助け合い、支え合い”についておたずねします。

問4 あなたは日頃、ご近所とどの程度のお付き合いがありますか。

(○は一つだけ)

1. 困っているとき、相談や助け合いができるような付き合い
2. 簡単な頼みごと程度ならできる
3. たまに世間話や立ち話はしている
4. 顔を会わせればあいさつする程度
5. ほとんど付き合いがない
6. その他 ( )

問5 あなたは、ご近所付き合いについてどのようにお考えですか。

(○は一つだけ)

1. 近所で助け合って暮らしていくことが大切だと思う。
2. 近所であいさつをしたり、協力したりすることは必要だと思う。
3. あいさつ程度はするが、あまり深くかかわりたくない。
4. 近所付き合いはわずらわしいのであまりしたくない。
5. まったく必要と思わない。

問6 あなたは、ご近所との付き合いや関わりで、どんなことがこれから大切に  
なると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものは次のどれですか。

(○は3つまで)

1. 日常のあいさつ等による、人と人とのふれあい
2. 自分の考えを发表或し、話し合ったりすることのできる場づくり
3. 子育てやしつけ等、子どもの問題を一緒に考える仲間づくり
4. 高齢者の見守りや生きがいづくり
5. 健康づくりや介護予防の場づくり
6. 日常生活で困ったときの助け合い
7. 地域での清掃活動等、自分たちの町を大切にす姿勢
8. 防災活動や災害のときの助け合い
9. 病気・けが等緊急時の助け合い
10. その他 ( )
11. 大切なことは特にない

問7 あなたは、毎日の暮らしの中で、どのような悩みや不安を感じていますか  
(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の健康
2. 家族の健康
3. 自分や家族の生活上の問題(進学、就職、結婚など)
4. 子育ての問題
5. 介護の問題
6. 経済上の問題
7. 地域の問題(防犯、防災、ごみ、騒音など)
8. 近所との関係
9. その他( )
10. 特にない

問8 あなたがお住まいの地域で、日常生活を送る上で心配な方や、高齢、障がい、子育てなどで困っているご家庭があった場合、あなたにできることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 見守りや声かけ
2. 話し相手
3. 買い物の手伝い
4. ごみ出し
5. ちょっとした手伝い(電球の交換や灯油の運搬など)
6. 草取りや庭の掃除
7. 食べ物のおすそ分け
8. 散歩の付き添い
9. 医療機関の送り迎え
10. 学校や保育園、通所施設の送り迎え
11. 短時間の子どもの預かり
12. 災害など緊急時の手助け(安否確認、避難所への誘導など)
13. その他( )
14. なにもしたくない
15. 特にない

問9 あなたのお住まいの地域で、問題と感じていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 祭りなど地域行事の衰退
2. 住民同士の交流や理解の不足
3. 野良犬、野良猫など動物の問題
4. 防犯・治安・風紀の問題
5. 災害など非常時での協力体制
6. 公園や街路の清掃
7. ごみや騒音、違法駐車などモラルの問題
8. その他 ( )
9. わからない
10. 特にない

問10 あなたは、地域で起こるさまざまな生活課題に対し、住民が相互に協力するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 自治会、町内会が中心となって、市民相互の交流を進める
2. 住民が、自らすすんで相互のつながりを持つようにする
3. 住民が、地域の活動に積極的に参加する
4. ボランティアやNPO(営利を目的としないで社会貢献活動や慈善活動を行う市民活動団体)の活動を盛んにする
5. 地域の人が気軽に集まれる場所をつくる
6. 行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する
7. その他 ( )
8. わからない

問11 あなたは、災害がおこった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 災害直後の安否確認や声かけ
2. 災害や避難に関する情報提供
3. 避難所などへの移動の支援
4. 避難所の運営の協力
5. その他 ( )
6. 支援は特に必要ない
7. わからない





問 16 ボランティアやNPO（営利を目的としないで社会貢献活動や慈善活動を行う市民活動団体）の活動を活発にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。 (〇は3つまで)

1. ボランティアやNPOの活動の大切さを学校で教える
2. ボランティアやNPOの活動の大切さを生涯学習で広める
3. 活動の内容などの情報を住民に提供する
4. 活動に関する相談体制を充実する
5. 体験活動など、初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う
6. 活動の拠点となる場所を確保する
7. 活動団体等へ資金の援助をする
8. 交通費などの実費が支払われるようにする
9. 活動のリーダーとなる人を育成する
10. その他 ( )
11. わからない

ここまで、ご回答をいただきありがとうございました。  
次の 10 ページからは、社会福祉協議会に関する質問  
になります。引き続き、ご協力をお願いします。

**※社会福祉協議会とは**

社会福祉協議会（社協）は全国、都道府県、指定都市、及び市町村に組織される公共性・公益性の高い民間の非営利団体です。身近な機関として地域住民の困りごとを受け止め、福祉関係団体・各機関と協働し、共に解決していくことを目的としています。

社会福祉法人久喜市社会福祉協議会は、「誰もがその人らしく 輝いて生きていく 地域づくりをめざして」を基本理念として、地域福祉推進のための中核的な団体として活動しています。

これからの“地域福祉の進め方”についておたずねします。

**(小地域福祉活動について)**

今後の地域福祉のひとつのあり方として、お住まいの地域で、その人らしい生活が送れるよう、「ふれあい・いきいきサロン」のような誰でも気軽に集える場づくりや、年齢や障がいの有無に関わらず、地域の住民同士が支えあうことの必要性が問われています。

**問 17 住民の方々と地域性を検討し、その地域にあった福祉活動を充実させるべく、社会福祉協議会が地域の住民の方とともに地域福祉を推進していくためには、どんなことが必要でしょうか。（あてはまるものすべてに○）**

1. 地域の会合に職員が出席し、住民の方々の意見をお聞きし事業に反映する
2. 区長、自治会長、民生委員・児童委員、婦人会役員等その地域の実情を知っている方にご意見を聞き、事業に反映する
3. 住民へのアンケート調査を行い、地域福祉のあり方を問う
4. ふれあい・いきいきサロンのような誰でも参加しやすい『※地域の居場所づくり』を推進する
5. 地域福祉懇談会やワークショップ（住民が参加して課題解決の糸口を探るための意見交換や具体的解決策を見出すための集まり）を定期的で開催する
6. 地域ごとに参加しやすい福祉講座や住民の求めに応じて職員が出向く講座を企画する
7. 地域別に担当職員を配置し、地域の福祉の問題点を気軽に相談できる体制を作る
8. 地域を見守り、住民の要望や困りごとなどを発見し、社会福祉協議会等につなげる地域のボランティア『※福祉委員』を育成し、連携していく
9. その他（ ）

**※地域の居場所づくり**

現代における地域の“縁がわ”（人の交流の場）づくりといえます。社会福祉協議会では、『ふれあい・いきいきサロン』事業を推進しています。

**※福祉委員**

地域の中には、いろいろな「困った」を抱えた人が生活しています。民生委員・児童委員を含む従来の仕組みや行政サービスだけで対応することは困難になっています。

これらの人たちに声かけや、ちょっと相談にのる等の活動を行うボランティア（福祉委員）を育成し、配置しているところがあります。





**(住民参加型のサービスについて)**

現在、※ふれあいサービス、※福祉有償運送、※ふれあい電話サービスなど、住民の皆様の協力のもと、実施しているサービスが増えてきましたが、もともとは住民の方からの提案や地域の要請、時代の必要性によって、社会福祉協議会が開発してきた経緯があります。

**問 2 1** 今後、ボランティア活動はもとより、住民が参加でき、住民が住民を支えるサービスや仕組みを作ることによって、地域で安心して生活でき住み続けることができる地域づくりの一助となると思いますが、実際に「こんなサービスあったらいいな」「こういうことなら参加ができそうだな」というお考えがあったら、お聞かせください。

「こんなサービスあったらいいな」

「こういうことなら参加ができそうだな」

**(福祉サービスの利用について)**

**問 2 2** あなたやご家族は、福祉サービスの利用に関して、これまでに不都合を感じたり、不満に思ったりしたことはありますか。 (○は1つだけ)

- ア 不都合や不満を感じたことがある → その理由を下からお選びください。
- イ 不都合も不満も感じたことはない。
- ウ 福祉サービスを利用したことがない。

※上記でアと答えた方のみお答えください。

**不都合や不満を感じた理由は何ですか。**

- 1. どこに利用を申し込めばよいかわからなかった。
- 2. 利用を申し込んだが、窓口でたらい回しにされた。
- 3. 利用手続きに手間がかかった。
- 4. 窓口の対応が悪かった。
- 5. 情報が入手しにくかった。
- 6. どのサービスが良いのか選びにくかった。
- 7. 利用したいサービスが利用できなかった。
- 8. サービスの内容に満足しなかった。
- 9. その他 ( )

問23 地域福祉を進めていく上でご意見がございましたら、ご自由にお書きください。


**※ふれあいサービス**

社会福祉協議会会員の参加と協力により、日常生活で困ったとき、家事援助を主に助け合う有料の福祉サービスです。サービスを受ける方を利用者、サービスを提供する方を協力員といい、登録会員制の事業です。

**※福祉有償運送**

久喜市に在住する身体の不自由な高齢者及び身体障がい者等で移動手段を確保することが困難な人に対して、移送手段を確保する移送サービス事業を行っています。

**※ふれあい電話サービス**

心配ごとや悩みの軽減を図ることを目的に、話をする機会が少ない方や孤独になりがちの方に、社会福祉協議会事務局の設置電話からボランティアが活動日に対象者へ電話をします。安否確認も兼ねています。

最後に、あなた自身のことについておたずねします。

問24 あなたの性別は (○は一つだけ)

1. 男      2. 女

問25 あなたの年齢は (○は一つだけ)

1. 20～29歳      2. 30から39歳      3. 40から49歳  
4. 50～59歳      5. 60から64歳      6. 65から69歳  
7. 70～74歳      8. 75歳以上

問26 あなたの現在の主な職業は (○は一つだけ)

1. 勤めている（常勤）      5. 主婦・主夫  
2. 勤めている（パート等）      6. 学生  
3. 自営（商工業）      7. 無職  
4. 自営（農業）      8. その他（                      ）

問27 あなたのお住まいの地区は (○は一つだけ)

1. 本町地区（本町、上町、久喜新、久喜本、上早見、久喜北、野久喜、古久喜）  
2. 中央・南地区（久喜中央・南）  
3. 東地区（久喜東、下早見 54区）  
4. 太田地区（西、吉羽、栗原、青毛、野久喜、古久喜、青葉）  
5. 江面地区（江面、下早見（54区を除く）、北青柳、太田袋、樋ノ口、原、除堀）  
6. 清久地区（北中曾根、六万部、上清久、下清久、所久喜、清久町、河原井町）  
7. 菖蒲・三箇地区（菖蒲町菖蒲、菖蒲町新堀、菖蒲町三箇、菖蒲町台、菖蒲町河原井、菖蒲町上大崎）  
8. 小林・栢間地区（菖蒲町小林、菖蒲町下栢間、菖蒲町上栢間、菖蒲町柴山枝郷）  
9. 栗橋・伊坂地区（栗橋、伊坂、栗橋北、栗橋中央、栗橋東、緑）  
10. 静・豊田地区（松永、間鎌、佐間、高柳、島川、小右衛門、中里、北広島、河原代、新井、狐塚、南栗橋）  
11. 鷺宮地区（久本寺、葛梅、上内、鷺宮（鷺宮6丁目を除く）、中妻、鷺宮中央、栄、砂原）  
12. 桜田地区（八浦、東大輪、西大輪、外野、上川崎、鷺宮6丁目、桜田）

問28 あなたの現在のお住まいへの居住年数は (○は一つだけ)

1. 1年未満
2. 1年～5年
3. 6年～9年
4. 10年から19年
5. 20年から29年
6. 30年以上

問29 あなたのご家族の構成は (○は一つだけ)

1. ひとり暮らし
2. 夫婦のみ
3. 親と子
4. 親と子夫婦
5. 親、子、孫の3世代
6. その他 ( )

問30 あなた又はご家族の中に何らかの支援（見守りや手助け）が必要な方が  
いらっしゃいますか。 (あてはまるものすべてに○)

1. 乳幼児や小学校低学年児（小学校3年生まで）
2. 介護保険の要介護（要支援）認定を受けている
3. 要介護認定を受けていないが、高齢や病弱のため支援を必要とする
4. 障がい者手帳を持っている
5. 障がい者手帳は持っていないが、障がいや病気のため支援を必要とする
6. 外国籍を持っている（日本語や習慣がよくわからない）
7. その他 ( )
8. 特に支援を必要としない

以上でアンケートは終了です。

ご協力、ありがとうございました。

なお、大変お手数ですが、このアンケート用紙を折って同封の返信用封筒に入れ、平成23年2月14日（月）までにご投函くださいますようお願いいたします。



## 久喜市の地域福祉に関するアンケート調査報告書

---

平成23年3月

発行 久喜市  
編集 久喜市・久喜市社会福祉協議会